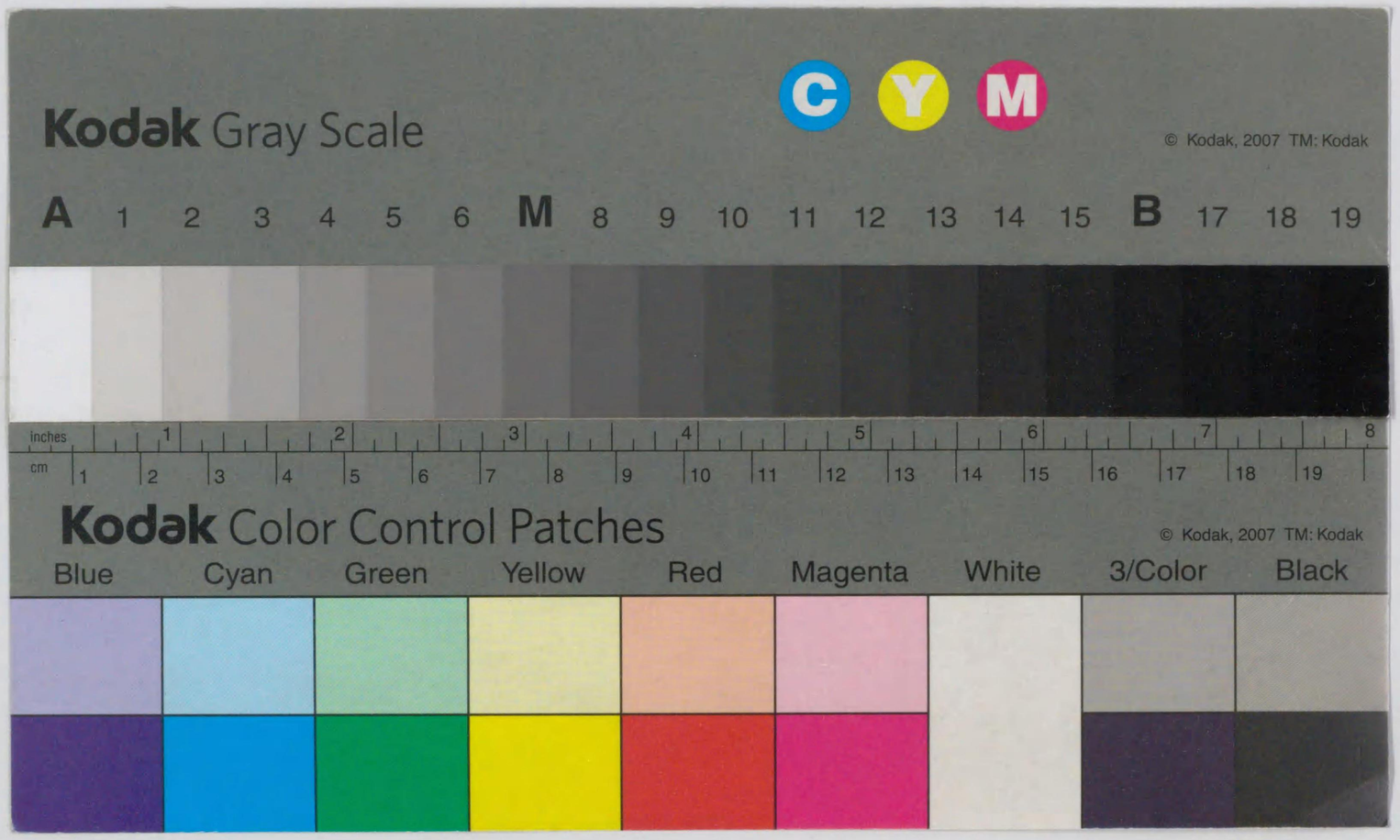


753-25
12005015951O6
753
25

伊賀文化産業城
落成記念

全國博覽會誌

上野町

753
25

序

本町出身、前司法政務次官代議士川崎克氏によりて、白鳳城址に建設された昭和の名城伊賀文化産業城の完成を記念し、現代産業文化の精粋を蒐めて産業日本の誇りを輝やかせた、伊賀文化産業城落成記念全國博覽會は、昭和十年十月十二日開會以來豫期に倍徙せる盛況を呈し、有終の美果を收めて、同年十一月十日芽出度く閉會を告げ得たるは、小職の最も欣幸とする所である。

惟ふに本博覽會は本町空前の大事業にして、躍進途上にある「山都上野」の氣慨を天下に誇示する重大意義を有するものなるが故に、その經營に當つては乏しきながら全力を傾倒し最善を盡したが、幸にして外は江湖の贊同を博し、內は關係諸賢の協心戮力と、協贊會の獻身的活動熱誠なる鴻助、且つは天の惠とを併せ得て、わが國產の振興貿易の伸展に貢獻し、鄉土の開發上

に寄與せる効果尠なからざるを信じ、深く感謝に堪へない次第である。
茲に本會事業の完了を告ぐるに當り、その概要を輯錄編纂して會誌となし、關係各位に贈る。幸ひに諒されんことを。

昭和十二年二月

伊賀文化産業城落成記念全國博覽會長
上野町長　田山八十吉

凡例

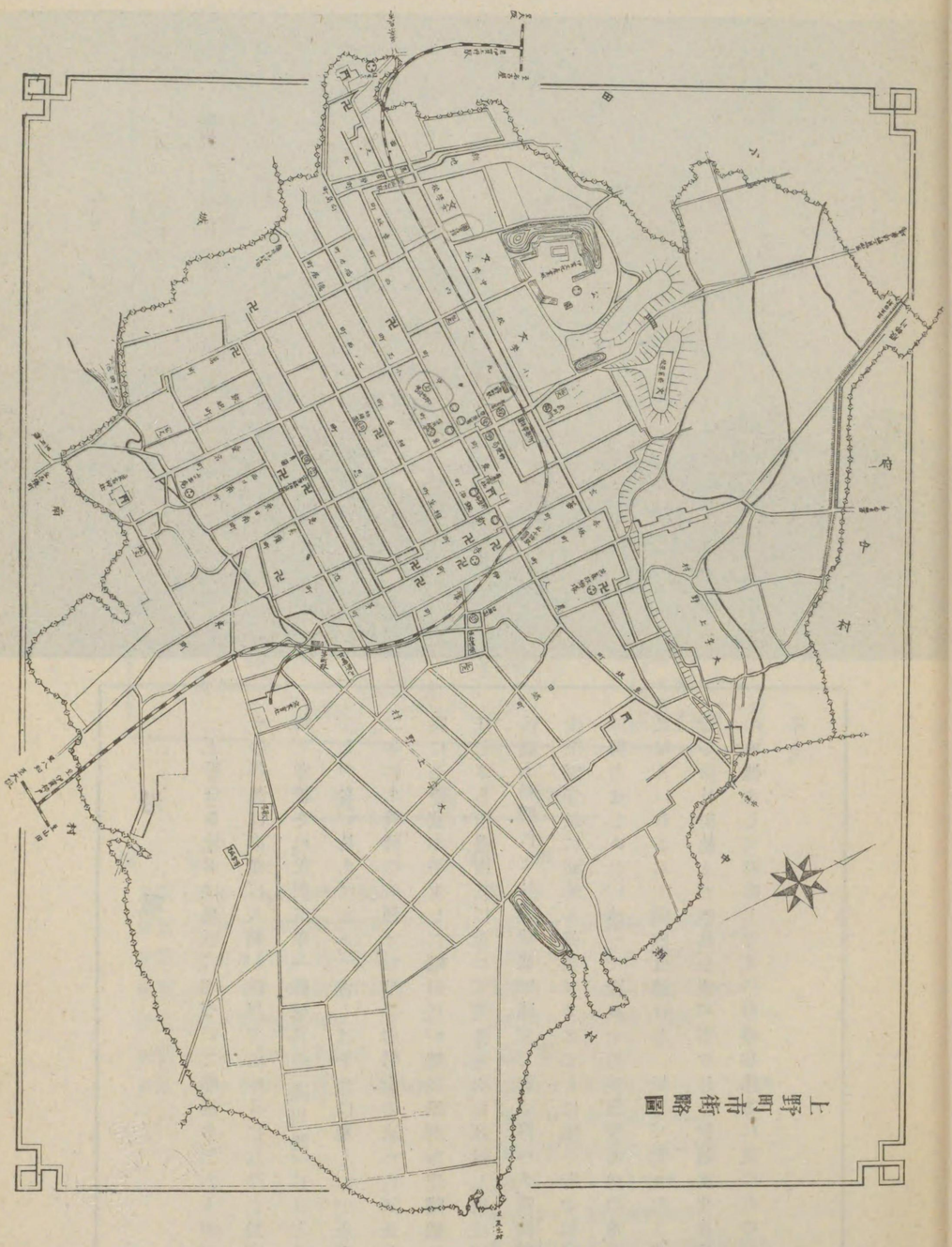
一、本誌は上野町空前の盛擧たる伊賀文化産業城落成記念博覽會を記念し其事蹟を保存するため協賛會の一部事業として編纂したるものなり。

一、本誌は博覽會々誌の外に伊賀文化産業城略誌、博覽會協賛會誌を併せ刊行せしため博覽會誌を第一編、産業城誌を第二編、協賛會誌を第三編となし色紙を以て區別せり。

一、本誌は其性質上事蹟の細大を洩さず輯錄し此種事業の參考に資すべきを期したるも當初より記錄係を置かざりしため資料散逸し其蒐集に頗る困難を極め遺漏脫落不充分なる点尠からず特に御諒恕を乞ふ。

一、本誌は能ふ限り文章の簡潔を期したるため記述の系統、連繫等思ふに任せずそれがため或は物足らぬ感を生ぜしめたる嫌あることを遺憾とす。

一、本誌輯錄に際し本博覽會が地方的及社會的方面に與へたる影響、成果について各方面の意見を徵し相當詳細を盡す豫定なりしも遂に果し得ず僅かに其片鱗概要を示すに止

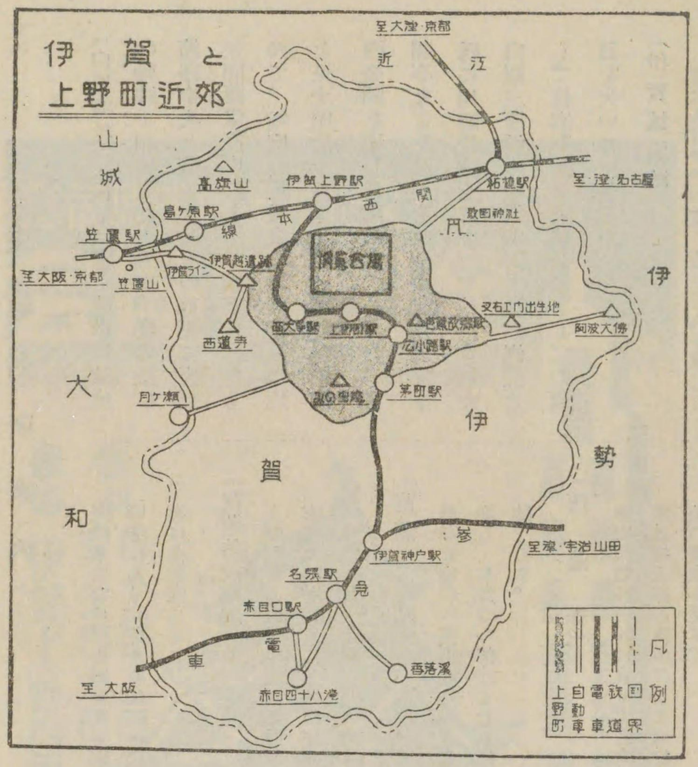


めたる事を遺憾とす。

一、本誌發行について町會議員中林正三氏之れが監修に當られたることを感謝す。

一、本誌の編纂は大阪朝日新聞社上野通信部主任村主孝太郎氏が義俠的に之を擔任せられ繁忙なる社務の傍ら散逸せる資料の蒐集に、會場の寫眞撮影に、役員有志の訪問に終始努力せられ本誌を完成されたるものにして其功勞は本町に對する愛町至情の發露として茲に感謝の意を表す。

一、本誌は前述の如く社務の繁激なる村主氏に編輯を委囑したるため村主氏に博覽會開催當初より本誌編輯の用意なく博覽會閉會後記事記錄の整理蒐集に着手せられたるためそこに一段の苦心と努力を費しながら尙且つ刊行期が豫定より甚しく遲れたり、不悪御寬恕を乞ふ。



交通網

鐵道

伊賀上野ヨリ大阪迄約2時間
伊賀上野ヨリ京都迄約2時間
伊賀上野ヨリ奈良迄約1時間
伊賀上野ヨリ名古屋迄約3時間
伊賀上野ヨリ津迄約50分
伊賀上野ヨリ龜山迄約40分
伊賀上野ヨリ宇治山田迄2時間餘

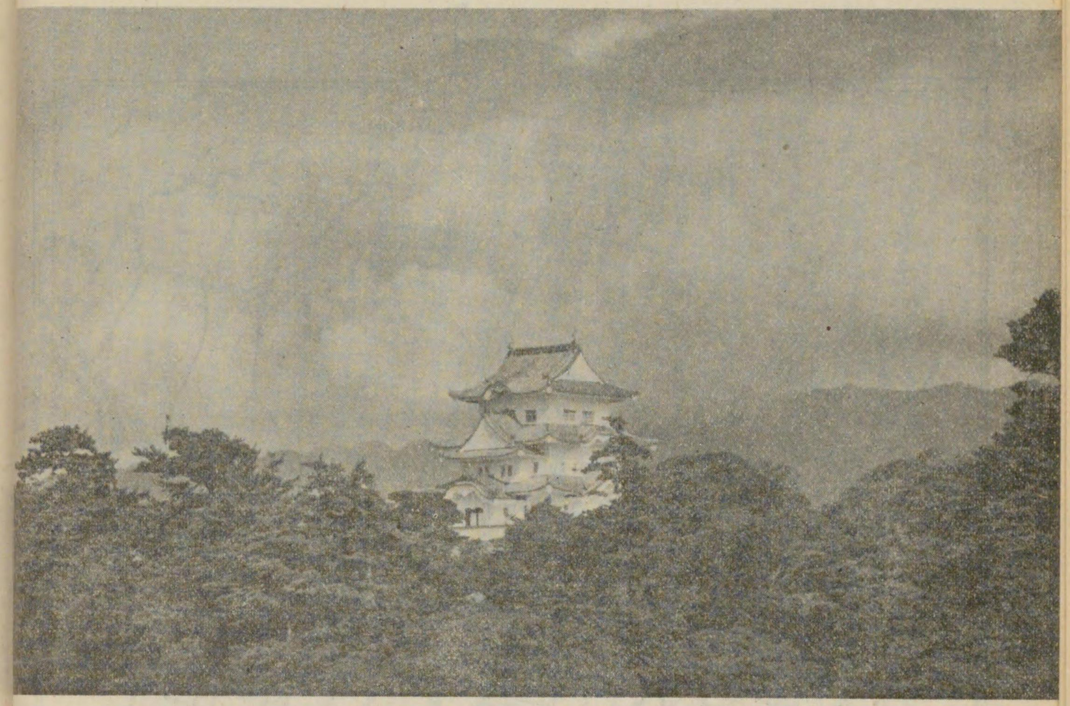
電車

参急

上野町ヨリ伊賀神戸迄25分
上野町ヨリ大阪迄2時間
上野町ヨリ宇治山田迄2時間
上野町ヨリ津市約1時間

自動車

上野町ヨリ伊賀ライン迄約1時間
上野町ヨリ月ヶ瀬迄約40分
上野町市内名所廻リ約40分
上野町ヨリ阿波1時間
名張驛ヨリ香落峡約30分
名張驛ヨリ赤目四十八瀧迄約40分



沿革

上野なる地名は、地形に本づいて呼稱されたものでその起源は高臺に人間が住居するやうになつた足利期と考證され、文明五年一條兼良の「藤川記」にはじめてその名が見えてゐる。古くは平氏に屬したが、永享二年仁木義視の所領となりその勢力の衰へた天正年間に全伊賀を平定した織田氏が瀧川雄利を守護職に任じ、さらに豊臣氏に至つて筒井定次を移封し後白河法皇の勅願により平清盛が建立したと傳へる、舊阿閇山平樂寺址に城塞を築造するとともに城下街の形成に努力せしめたが、越へて慶長十三年藤堂高虎の治下となるにおよんで、城廓は面目を一新して堂々たる威容を誇り、街衢また整然、以來三百年わが伊賀文化産業の中樞として君臨し、今日の殷盛を見るに至つたのである。

史蹟名所案内

（白鳳城址・上野公園）後白河法皇の勅願平相國所建上野山平樂寺趾に筒井定次が築城せしものを更に慶長年間藤堂高虎によつて擴築されたもので、城廓の規模豪壯近國にその比を見ず明治十九年公園となり現に洛西金閣を模した萬歳館、公會堂、愛間亭などを設へその他の諸施設完備殊に川崎代議士によつて建造された白亜三層樓の産業城天主閣が巍然として偉容を誇り城趾公園としての面目を大いに一新した。

（伊賀越遺跡）

荒木又右衛門が義に依つて仇を報じたる所日本三大仇討の名と共に上野の代表的名所なり、尚河合又五郎の墓は萬福寺にあり、荒木の徒河合武右衛門の墓は念佛寺にある。

（芭蕉翁故郷塚）

上野町農人町愛染院にあり同院は松尾家代々の菩提所にして故郷塚は其傍にあり詩人俳人の杖を曳く者多し。

（芭蕉翁遺跡）

蕉五庵の内蕉虫庵は今も尚存態を現在して其當時を偲ばしむるに充分な遺跡である。

（西蓮寺）

市街西郊長田村に在り天台宗直盛派宗祖慈擾大師の廟所にして國寶藤堂高虎公の畫像が藏す。

（月ケ瀬梅渓）

「和洲の香世界を觀るに非ずんば天下の梅苑を說く勿れ」と賴山陽が激賞した日本第一の梅苑郷、月ケ瀬の秋色また捨てがたき景趣あり。

（阿波新大佛寺）

俊乘坊重源の開基にして上人の像、板彫千体佛、興正菩薩畫像、眞頭盧尊者像などの國寶を所藏、俳聖芭蕉翁が、「丈六に陽炎高し石の上」と金玉の吟懷なやつた獅子の臺座は鎌倉の佛を存し「初時雨猿も小みのをほしげなり」の句碑も附近山中に苔蒸してゐる。

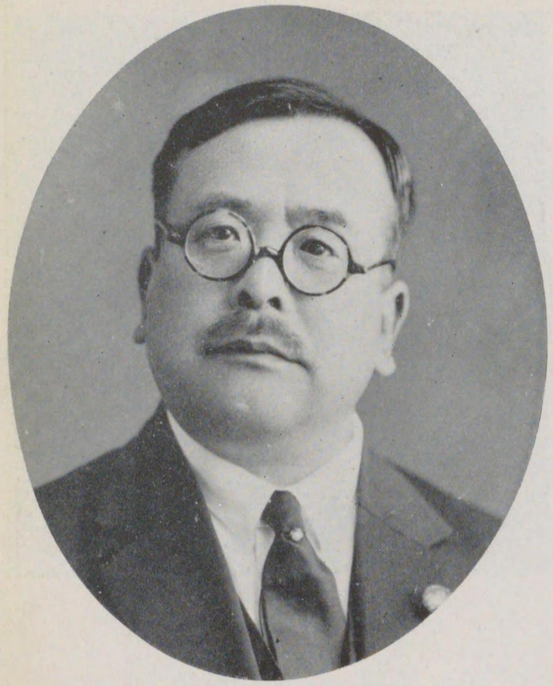
（赤目瀧、香落渓）

繪も及ばず筆も屆かぬ天下の奇景、錦繡織りなすその素晴しい秋色は雄大な渓谷美と相俟つてたゞ恍惚の一言に盡きる。

伊賀文化産業城落成紀念
全國博覽會
天下の名宝俳聖芭蕉翁遺品大展観
諸名家秘蔵稀代の宝品古伊賀大展観
伊賀越仇討三百年祭挙行並遺品展観
主催 伊賀上野
後援 陸軍省・海軍省
台湾・朝鮮・總督府
會場 上野白鳳公園
會期 十月二日ヨリ十一月十日

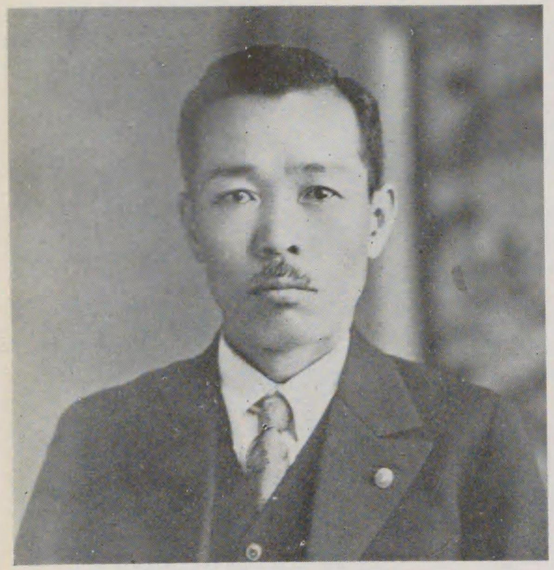
總裁
衆議院議員
崎川克

名譽總裁
三重縣知事
富田愛次郎



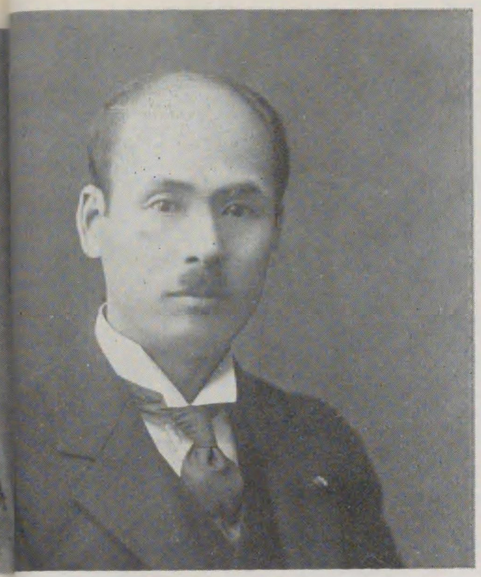
會長
上野町長
吉田八十山

副總裁
三重縣總務部長
熊野英



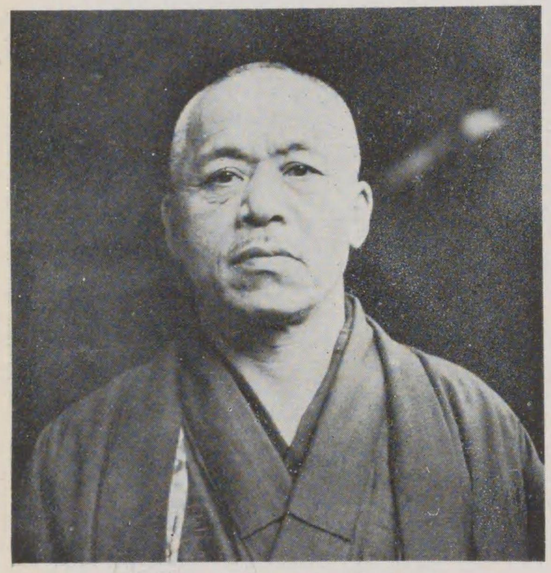
常任理事（出品主任）
町會議員
中林正三

副會長
協贊會副會長
常任理事庶務主任
上野町會議員
山庄太郎菊



副會長
長會副會
協贊會長
上野町總代
居筒信郎

副會長
協贊會長
上野商工會長
川宇三郎堀



常任理事（經理主任）
町會議員
上島太助

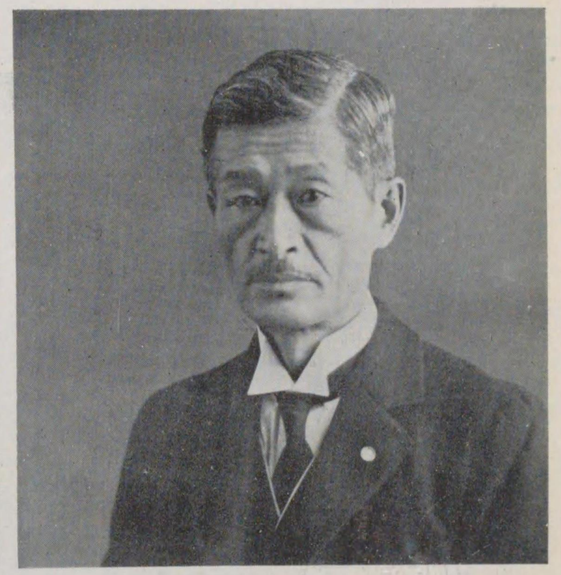
常任理事（宣傳接待兼興主任）
町會議員
廣榮太郎

總務
上野町助役
瀧忠郎

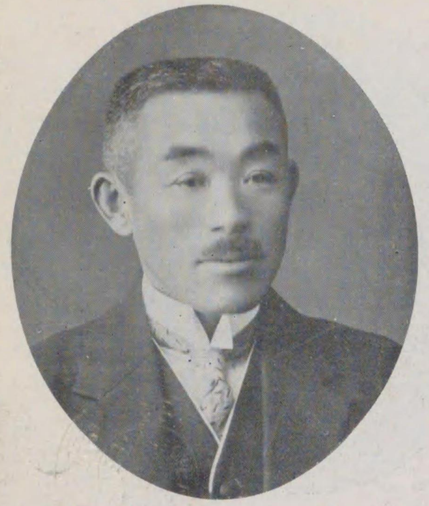
常任理事（工營副主任）
町會議員
竹內直吉

常任理事（警備衞生主任）
町會議員
北川菊松

常任理事（經理副主任）
町會議員
佐賀伊太郎

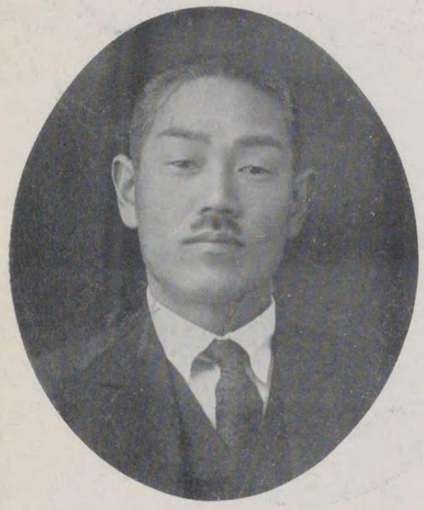


常任理事（經理主任）
町會議員
上野町收入役
入交駿藏



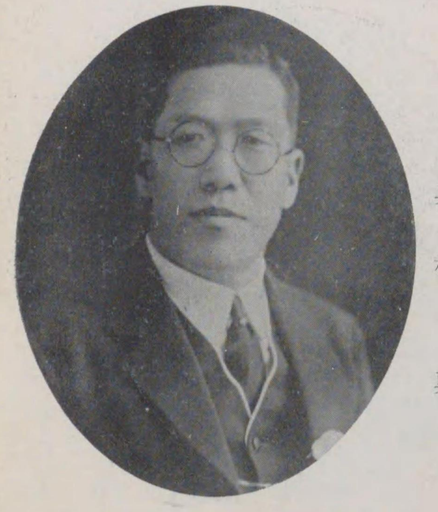
常任理事（庶務副主任）
町會議員
奥田奈良太郎

常任理事（出品副主任）
大字總代
房川綾之助

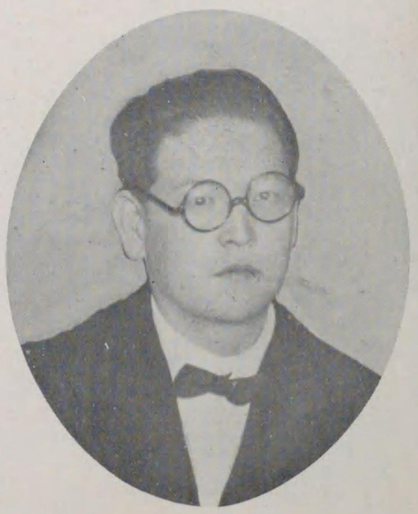


常任理事（工營副主任）
町會議員
福林源次郎

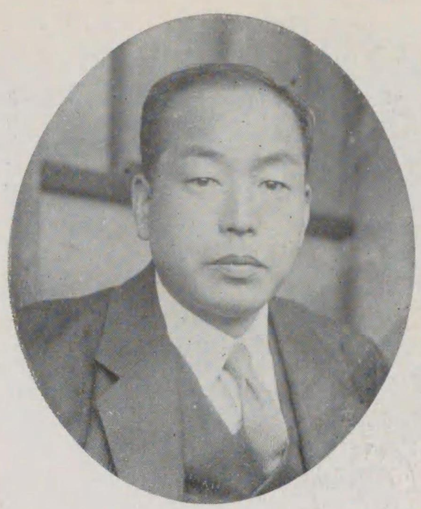
常任理事（警備衞生副主任）
町會議員
石川吉藏



常任理事（經理副主任）
町會議員
奥村勇

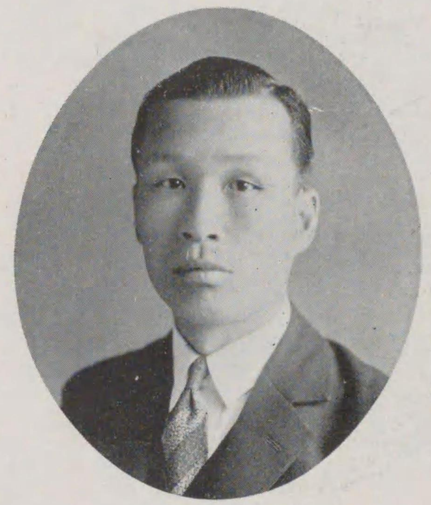


常任理事（宣傳接待餘興副主任）
町會議員
北泉清

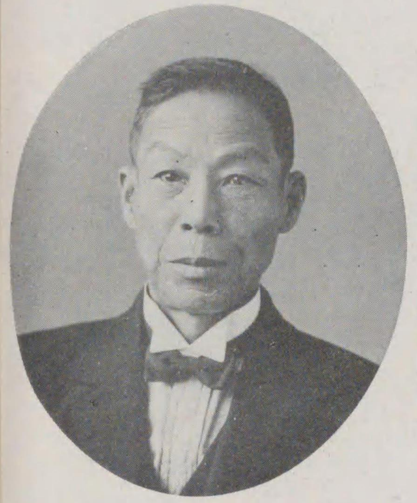


常任理事（出品）
商工會副會長
町會議員
伊室平四郎

常任理事（出品）
商工會理事
菅野八郎兵衛



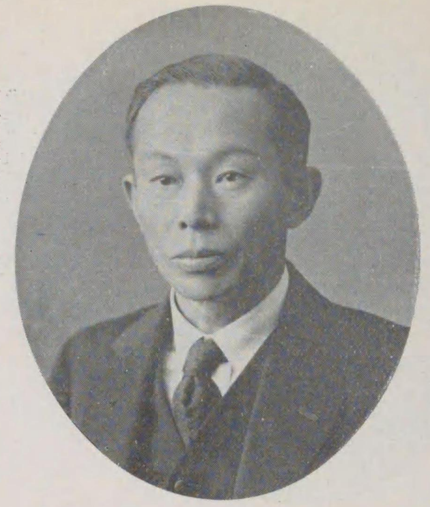
常任理事（出品）
商工會理事
木津己之助



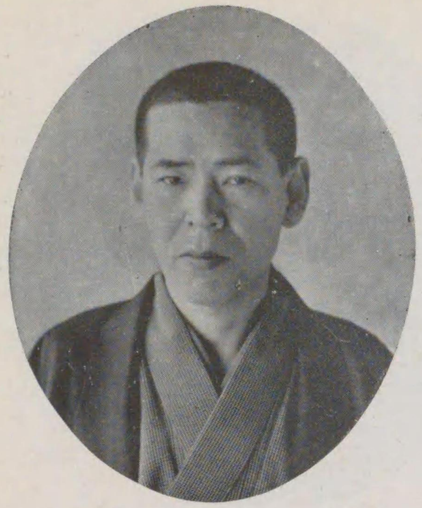
常任理事（出品）
大字總代
杉森勇吉

常任理事（出品）
町會議員
福田長治

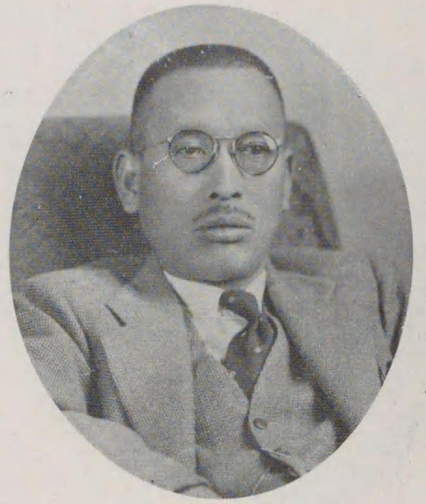
常任理事（出品）
商工會理事
一力祥藏



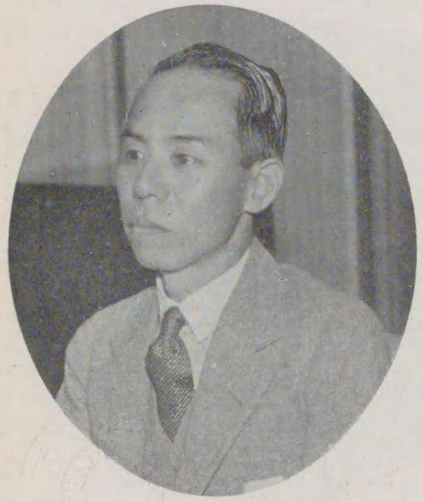
常任理事（出品）
町會議員
岡本音吉



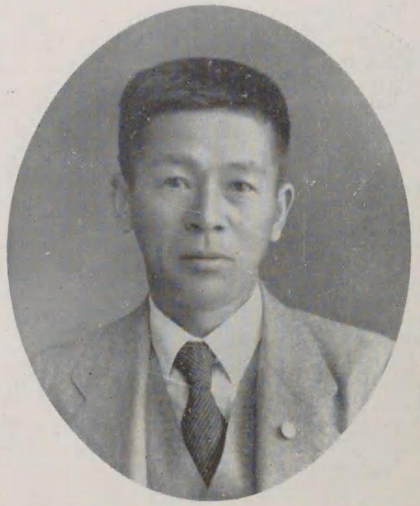
常任理事（出品）
大字總代
濱邊喜八



常任理事（出品）
商工會理事
松岡藤次郎



常任理事（庶務）
町會議員
村治圓治郎

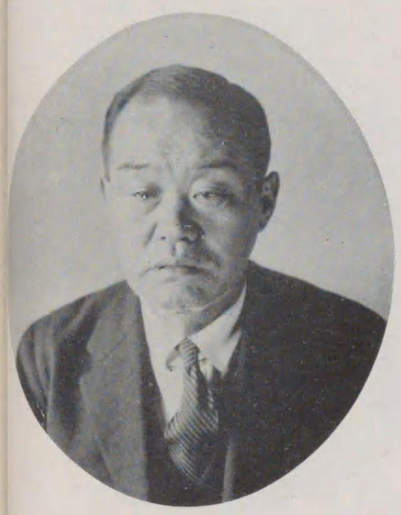


常任理事（庶務）
町會議員
早瀨安太郎

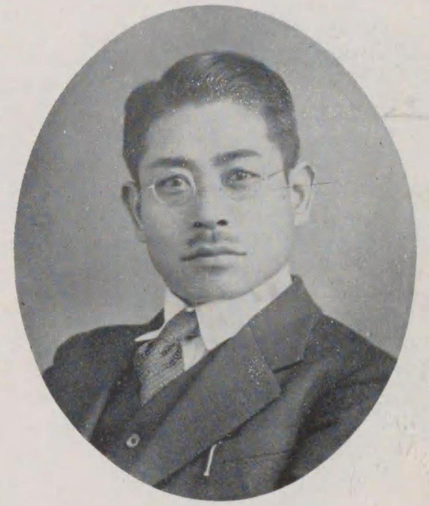
常任理事（庶務）
町會議員
箕部喜三郎

常任理事（庶　務）
大字總代
松本鹿治

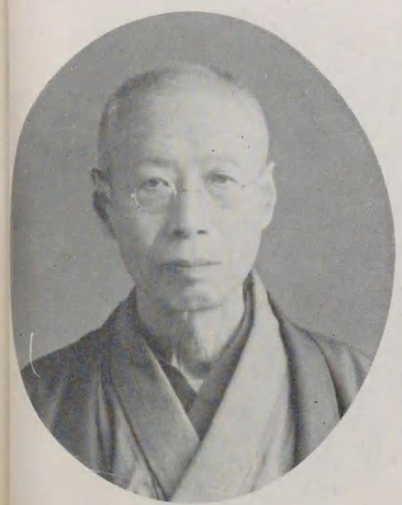
常任理事（庶　務）
商工會理事
南出金助



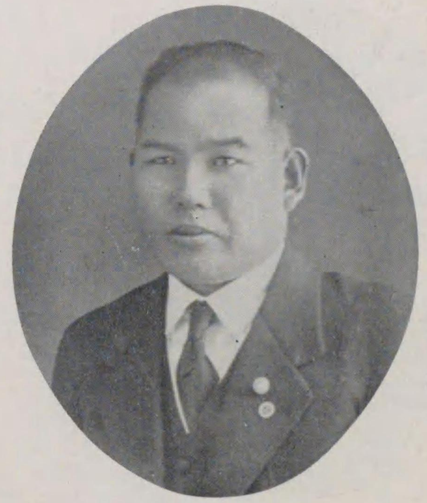
常任理事（工　營）
町會議員
葭葉正之助



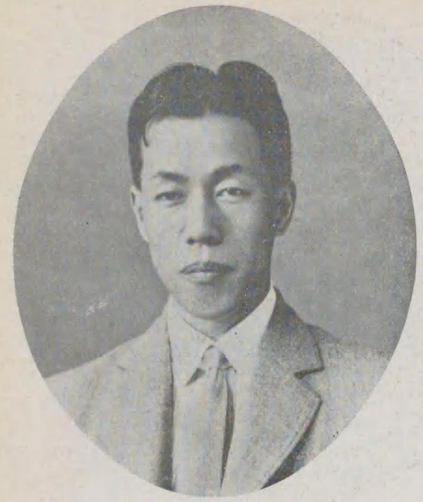
常任理事（工　營）
町會議員
片山龜太郎



常任理事（工　營）
大字總代
寺村金之助



常任理事（工　營）
町會議員
平井庄吉

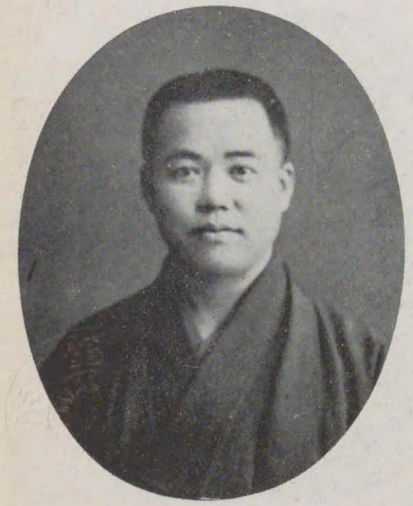


常任理事（工　營）
商工會理事
山本良顯

常任理事（工　營）
商工會理事
松浦猪之助

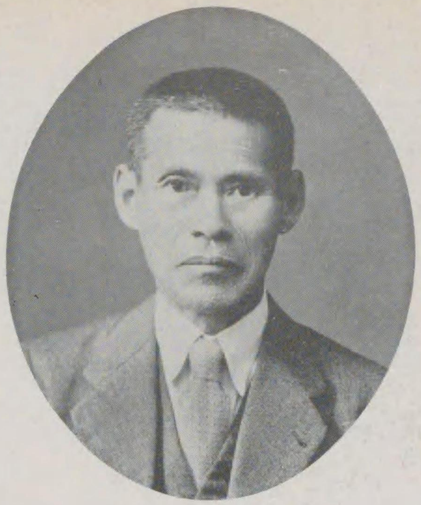
常任理事（宣傳接待餘興）
町會議員
三谷清吉

常任理事（宣傳接待餘興）
町會議員
山出精平



常任理事（宣傳接待餘興）
商工會理事
谷口正雄

常任理事（宣傳接待餘興）
前大字總代
簸內燕次郎



常任理事（宣傳接待餘興）
商工會理事
片岡喜一郎

常任理事（宣傳接待餘興）
商工會理事
幸阪泉次郎

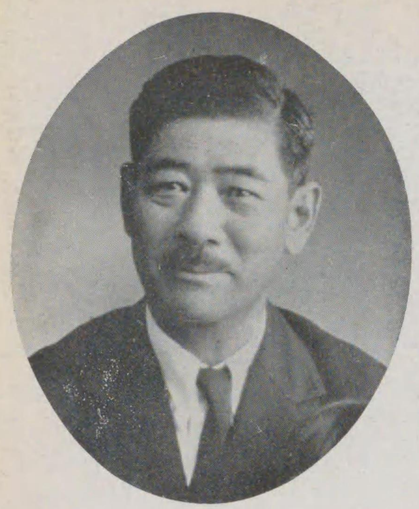
常任理事（經理）
大字總代
福岡宗之助

常任理事（經理）
商工會理事
英正太郎

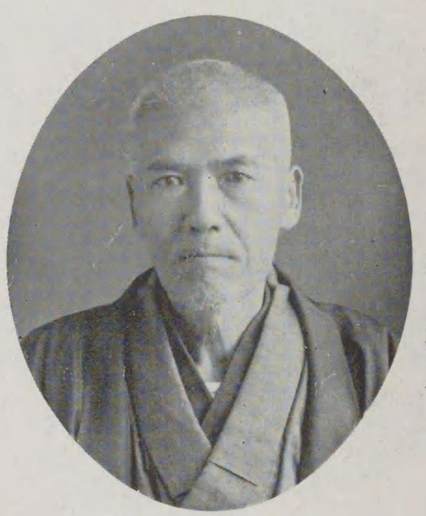
常任理事（警備衞生）
町會議員
内田喜代藏

常任理事（警備衞生）
町會議員
增田鹿次郎

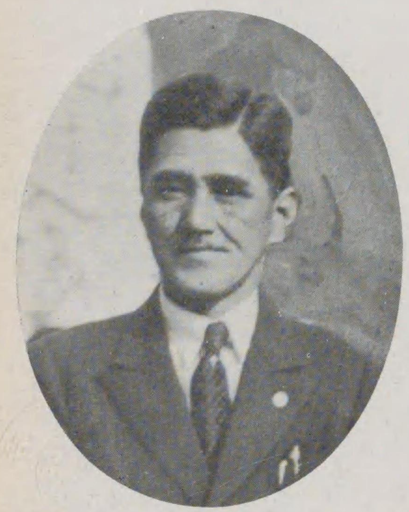
常任理事（經理）
大字總代
中山喜一



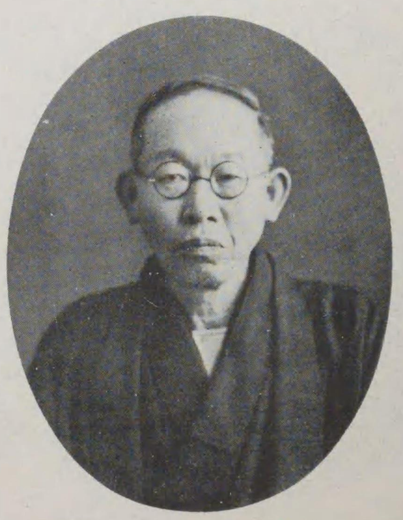
常任理事（警備衞生）
商工會理事
福田金治



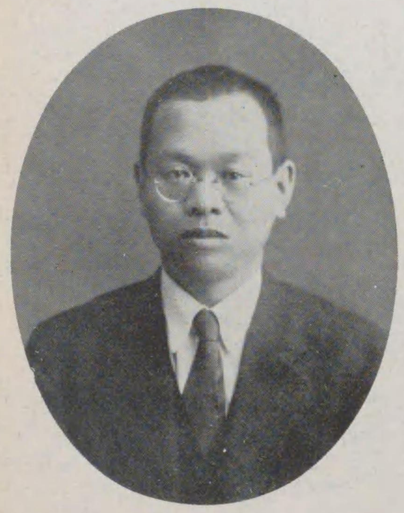
常任理事（警備衞生）
大字總代
日野雄吉



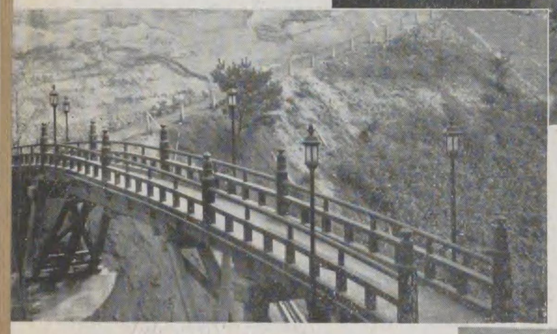
事務長
伊藤景介



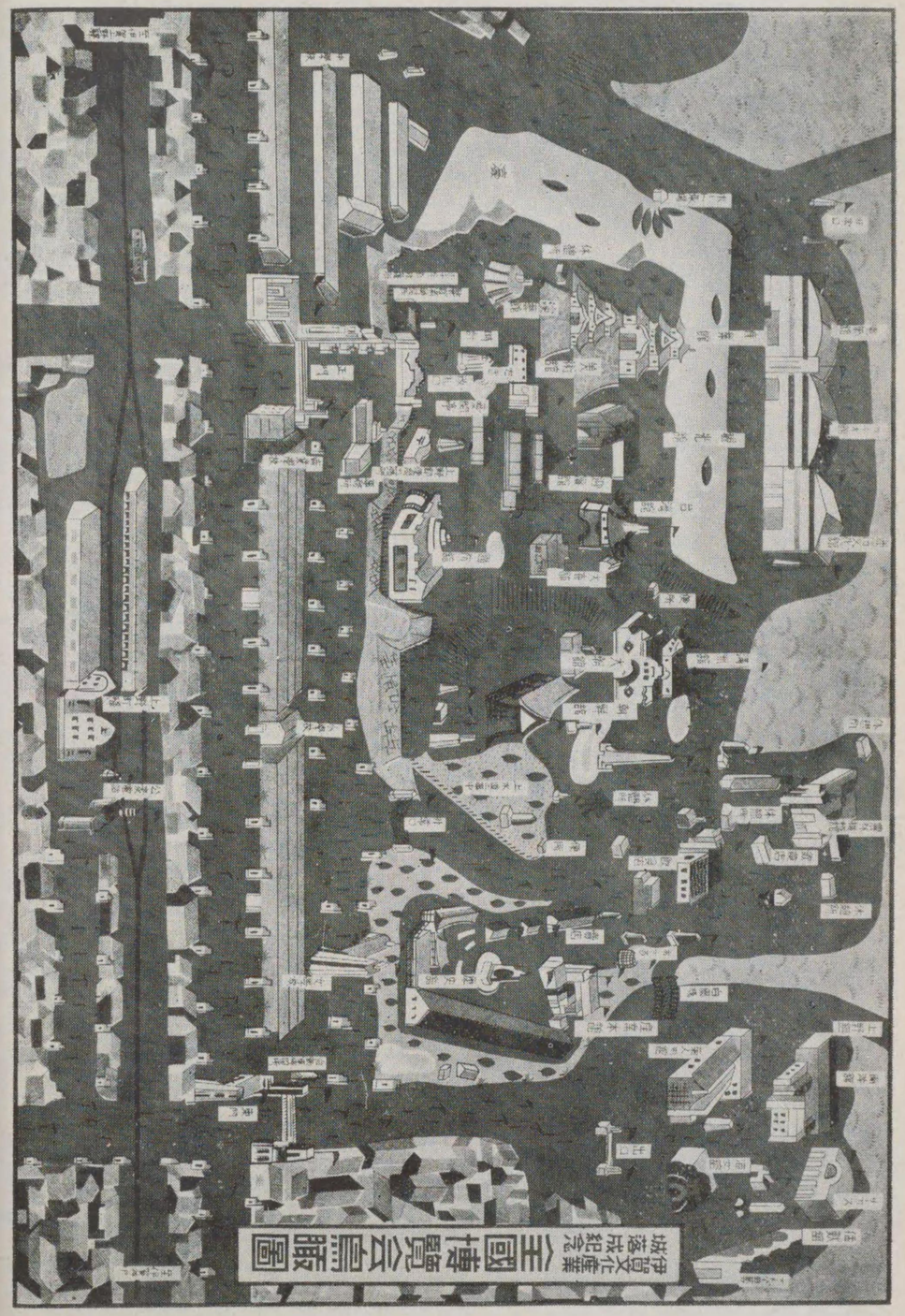
事務員
北野晟一

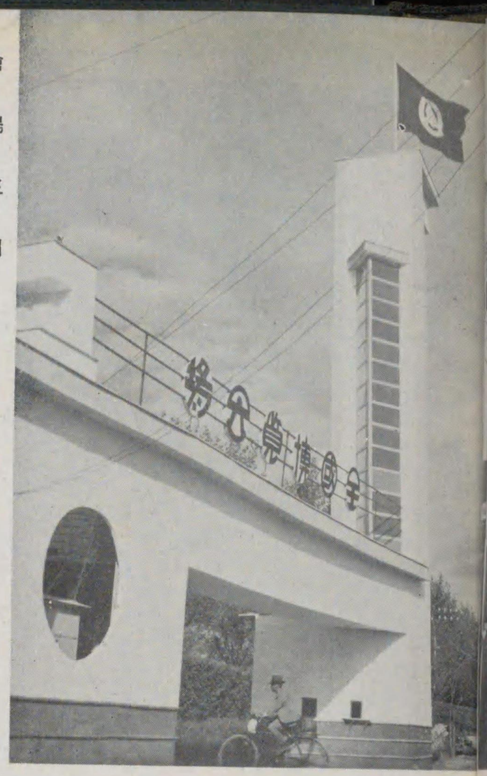


庶務書記
大井重治



會場（公園）風景

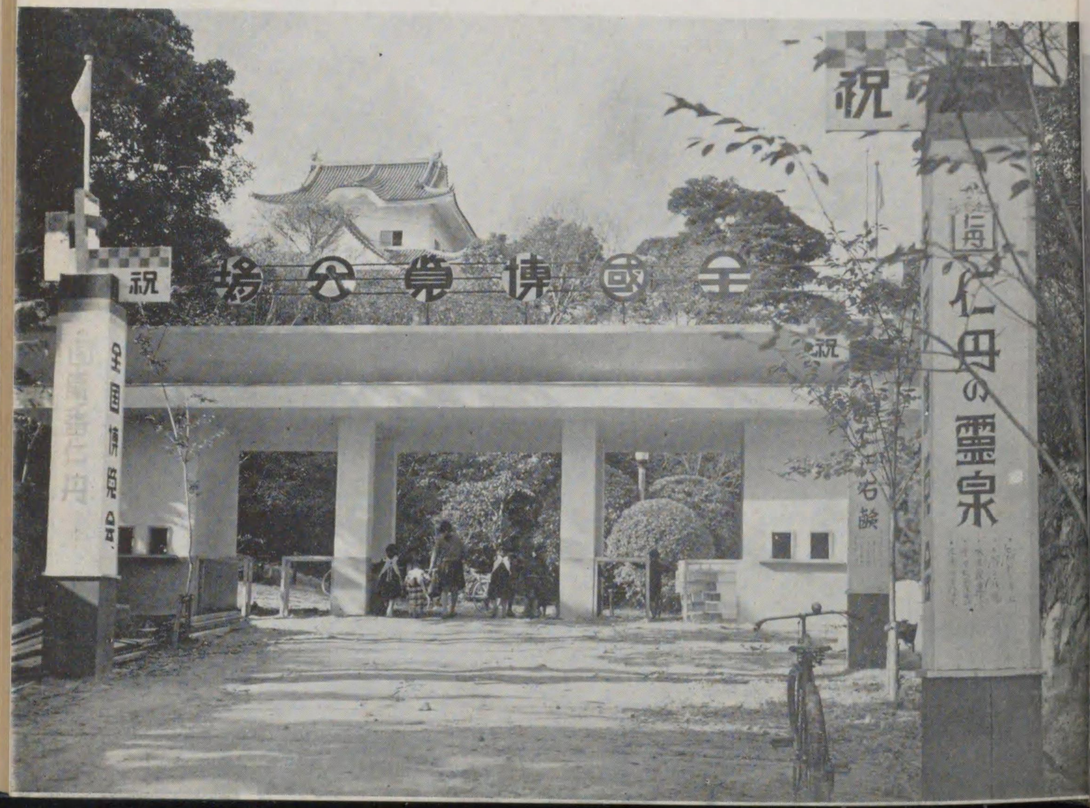




會場正門

地鎮祭

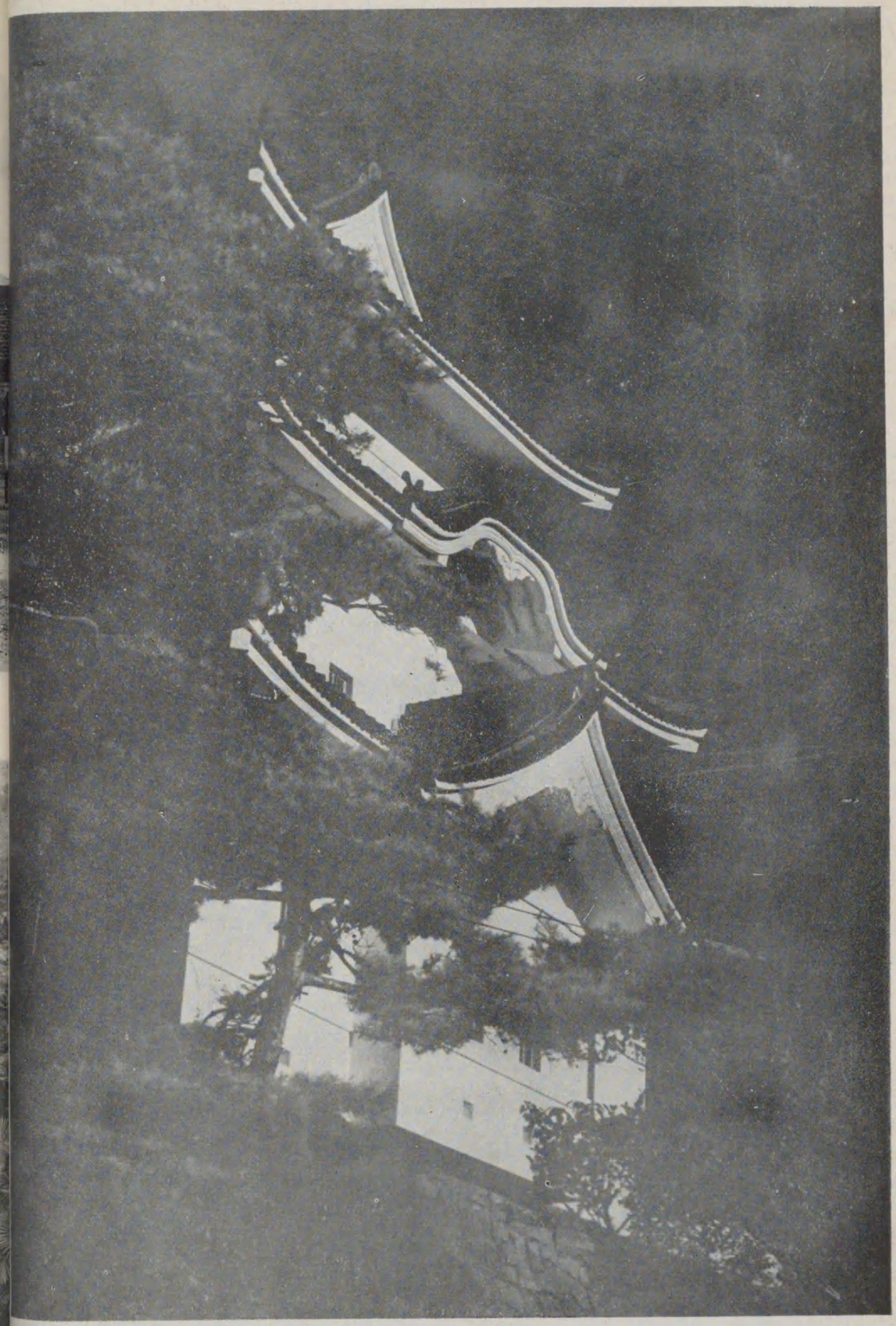
會場入口



産業本館上棟式

館本業産

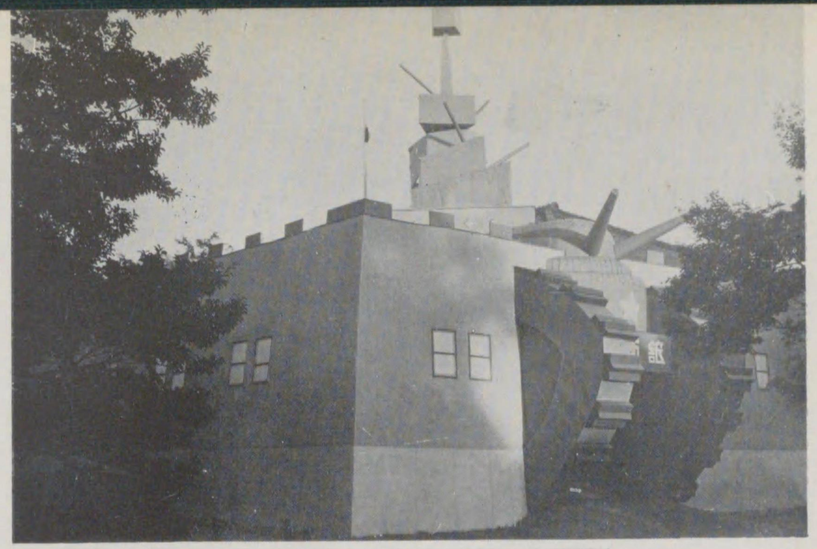
迎賓館

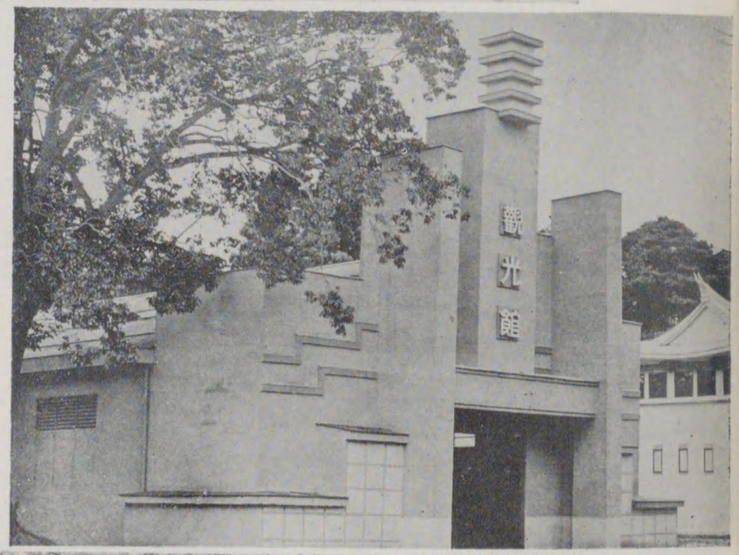


夜ノ産業城

歷史館

國防館



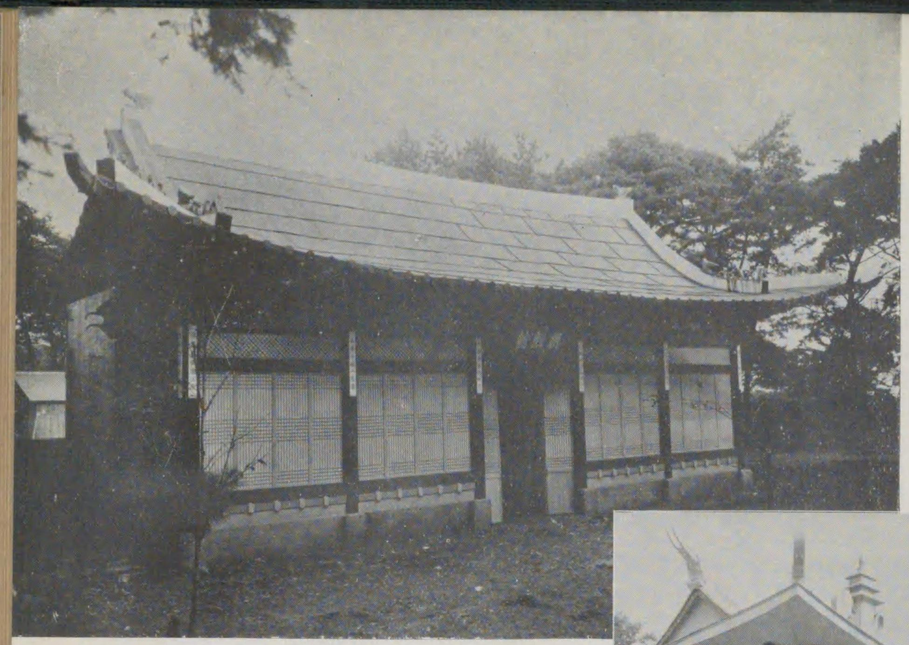


觀光館

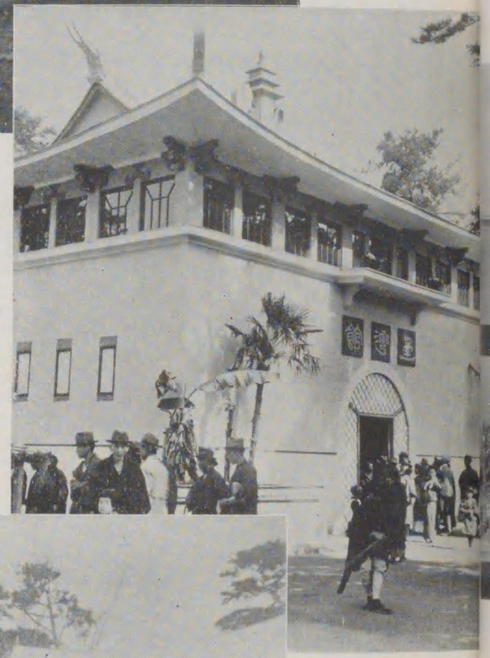
美術館

滿洲館

農林機械館



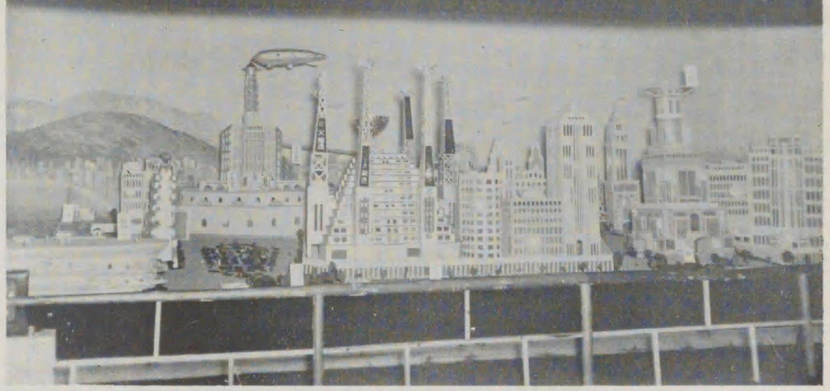
朝鮮館



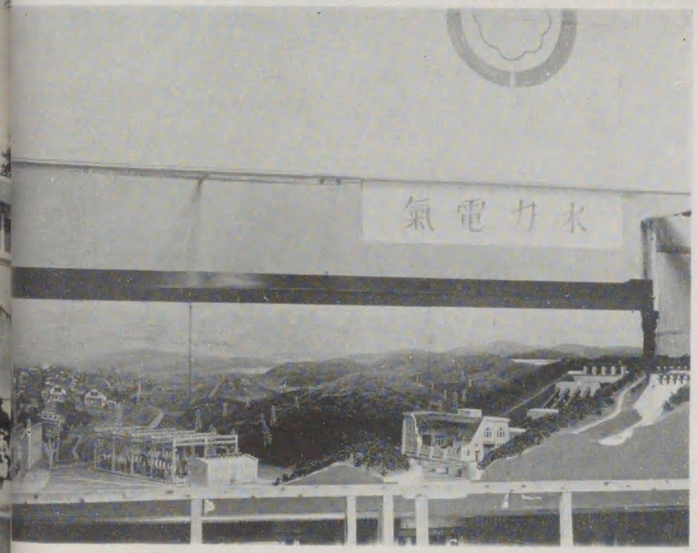
臺灣館

野外演藝場

百年後の大都市



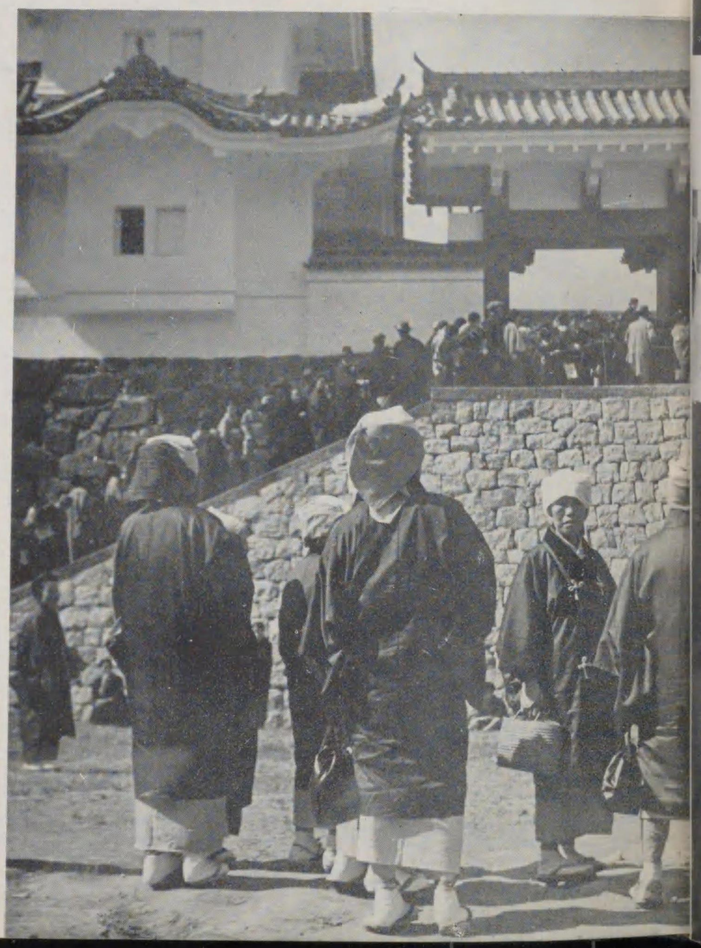
ラヂオ館



電氣館

遞信文化館

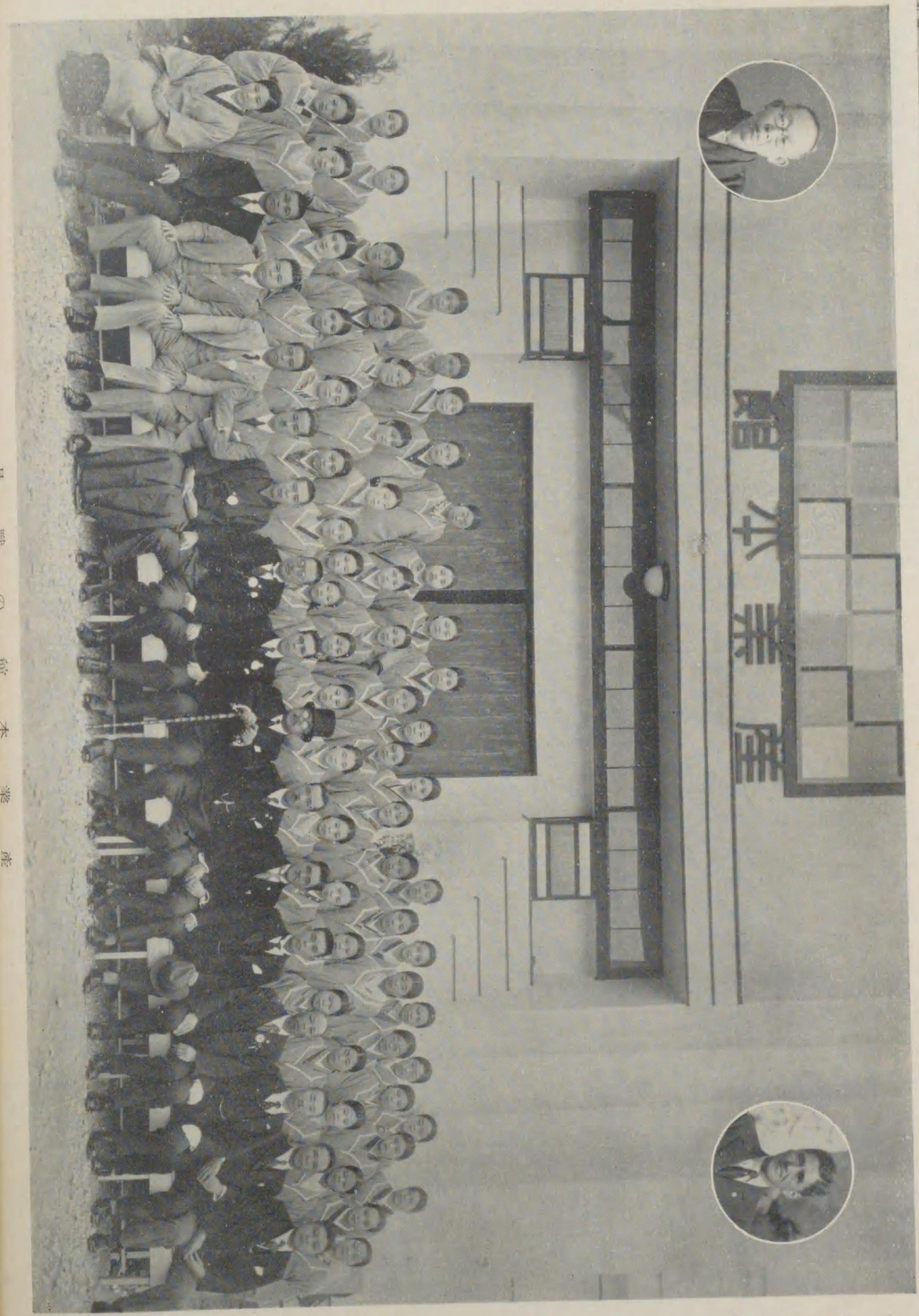
日當の會遊園內場會



産業城昇リロ

白鳳橋カラ第二會場ヲ望ム

館　野　上



伊賀文化産業城
落成記念

全國博覽會目次

第一編　博覽會

第一章　總說……一

1　博覽會開設の趣旨……一
2　開設の經過……二
3　趣意書……三

第二章　組織……四

第一節　博覽會開設要項……四
第二節　會則……六
第三節　諸規程の制定……一一

1　出品規程……一三
2　館外土地使用規程……一〇
3　賣店使用規程……一三
4　出品鑑査規程……一五
5　處務規程……一六
6　給與規程……一三
7　事務員等採用內規……一四
8　看守人設置並服務規程……一四
9　出品人通門券及門鑑交付規程……一七
10　守衛服務規程……一九
11　入場者團體割引規定……四一
12　優先券發賣規定……四三

第四節　役職員及事務局……四三

1　職制……四三
2　役職員任命……四四

3 審議機關……五八
4 執行機關……六〇
5 事務局……六一
第三章 會場……六二
第一節 會場の選定と工營……六二
第二節 建物の位置概要……六二
第三節 主要工營物……六三
1 工事設計仕樣……六三
產業本館・農林機械館・觀光館・美術館・歷史館・鄉土館・國產振興館・電氣館・遞信ラヂオ館・正門・裏門・改札口・警備員詰所・國防館・給水設備・排水工・事務局・雜工事・賣店工事・自轉車置場・會場周圍木柵工・一般公衆便所・特設館
第四章 出品……七四
第一節 出品勸誘……七四
1 文書勸誘……七四
2 出張勸誘……七五
第二節 全國主任者會議……七六
第三節 縣下出品關係者協議會……七六
第四節 鐵道及汽船運賃割引……七九
第五節 小間配當……八一
第六節 陳列及裝飾……八二
1 陳列戶棚及陳列臺……八三
2 裝飾……八三
第七節 出品物輸送搬入……八三
1 輸送……八三
2 搬入……八三
第八節 出品概要……八四
1 農林機械館……八四
2 產業本館……八五
3 國產振興館……八六

4 上野館……八八
5 朝鮮館……八八
第九節 陳列品と管理販賣……八八
1 事務概要……八八
2 出品物の整理……八九
3 賣約と即賣……八九
4 賣上代金計算……九〇
5 賣上成績……九〇
6 出品物賣約及即賣取扱手續……九三
7 出品物代金取扱手續……九七
第十節 看守其他……一〇〇
1 看守人採用……一〇〇
2 看守人配當……一〇〇
3 自營特設館……一〇一
4 賣店……一〇四
第五章 宣傳……一〇四
第一節 宣傳の概要……一〇四
1 廣告塔……一〇五
2 ポスター……一〇五
3 パンフレット……一〇六
4 宣傳ビラ……一〇六
5 繪葉書……一〇六
6 宣傳マツチ……一〇六
7 スタンプ……一〇六
第二節 優先券……一〇七
1 優先券規程と景品抽籤……一〇七
第三節 ラヂオ放送……一〇九
第四節 新聞宣傳……一〇九
第五節 博覽會とハイキング……一一〇
第六節 參急の大宣傳……一一五
第六章 會場內容と觀覽……一一六

第一節 市内大觀……二六
第二節 會場……二七
正門・國防館・郵便局出張所・朝鮮館・大朝館・滿洲館・大毎館・臺灣館・觀光館・美術館・野外演藝場・伊賀文化産業城・遞信文化館・ラヂオ館・電氣館・農林機械館・園藝品即賣館・發明品實演館・産業本館・三重縣館・歴史館・上野館・國産奬勵館・南洋館・餘興各館
第三節 入場……一三一
1 開場……一三一
2 入場料……一三四
3 入場券……一三五
4 徽章……一三五
5 無料入場種別……一三六
第四節 重なる團體入場……一四一
第七章 接待……一五三
1 一般及來賓接待……一五三
2 サービス改善講習……一五三
第八章 警備衛生……一五三
第一節 施設の概要……一五三
第二節 會場取締……一五四
第三節 守衛……一五六
1 守衛の採用……一五六
2 守衛配置……一五七
第四節 警官の派遣……一五七
第五節 消防組活動……一五八
第六節 各種事故……一五八
第七節 救護施設……一五九
第八節 會場内の清淨……一五九
第九節 場内飲食店取締……一六〇
第九章 式典……一六〇
第一節 地鎮祭……一六〇

第二節 上棟式……一六一
第三節 開會式……一六三
第四節 閉會式……一六六
第十章 鑑査……一六四
第一節 鑑査報告……一六四
1 鑑査狀……一六九
2 有功狀……一六九
3 記念狀……一九〇
第十一章 經理……二一八
1 豫算の編成……二一八
2 決算……二一九
第十二章 諸記錄と行事……二三〇
第一節 各種團體大會……二三〇
第二節 伊賀越三百年記念大會……二三三
第三節 餘興と各種デー……二三三
第四節 郵便局出張所……二三六
第五節 記念繪葉書……二三七
第六節 上野商業生實習……二三七
第七節 博覽會成功感謝會……二三七
第十三章 博覽會の影響と効果……二三八
第一節 總說……二三八
第二節 開期中の現れ……二三九
第三節 後日への影響……二三九

第二編 伊賀文化産業城

第一章 伊賀文化産業城……二三一
第二章 上野城の歴史……二三三
第三章 竣工式 式典の賑ひ・式辭・祝辭……二三六

第三編　協賛會

（一）叙說……二四五
（二）趣意書……二四五
（三）會則……二四六
（四）役職員名簿……二四九
（五）事業……二五一
1 提灯及短冊の配付……二五一
2 裝飾門建設……二五一
3 菊人形館……二五一
4 宣傳ビラ配付……二五一
5 繪葉書の發行……二五二
6 各種催し物助成……二五二
7 野外演藝場特設……二五二
8 來賓接待……二五二
9 博覽會設備助成……二五三
（六）協賛會員優遇方法……二五三
（七）收支精算……二五四
（八）協賛會々員名簿……二五五
■編輯を終りて……二七八

附

上野全國博の唄
上野博行進歌
上野小唄
上野音頭

伊賀文化産業城
落成記念

全國博覽會誌

第一編　博覽會

第一章　總說

1　博覽會開設の趣旨

博覽會開設の企てがわが國に於いて論議され出したのは、慶應三年萬國博覽會が巴里に開催され時の幕府が公儀御觸書をもつて、國産物の出品を勸誘し、これに參加して大いなる刺激を享けて以來のことであつて、本邦としては明治十年東京上野に開かれた內國勸業博覽會をもつてその嚆矢とする、以來今日までこの企てを見ること大小實に、二百に近く近年に於ては每年數ヶ所を數へるの盛況にある、そも博覽會開設の使命は時代産業文化の精粹を蒐めて廣く商估を刺激し、比較檢討の契機をつくり、もつて産業の興隆、貿易の伸暢飛躍に寄與貢獻するところにその重大意義をもつものであるが、各地に開設される博覽會は、いづれもこの意義の認識を强固にして、その經營に萬遺憾なきを期し、眞使命達成に優秀なる成果を收めつゝあることは寔に同慶に堪へない。

今や、我が國は世界經濟界の一大轉機に乘じて、國產品の海外進出に目覺しき勢力を扶殖し、將に國際貿易戰線の王者たらんとしつゝあることは、實に欣快至極であるが、これがため世界各國の視聽は期せずしてわが國產品に集中し、最近ではその進出に對して重壓を加へんとする氣運いよ〳〵濃厚となり、通商關係は日に月に尖銳化するの情勢を孕み來つた、これ固より飛躍途上に於ける避け難き事象として毫も辭せざるところ、こゝにおいてか我國民は一大決意をもつて、國內產業の開運進展と貿易の伸張に、精魂を傾け最善を盡し、もつてこの非常難局を打開し〝產業日本〟の偉力を中外に示さなければならぬ。この秋に際し本町出身前司法政務次官川崎克代議士が深く思ひをこゝに繞らして現下非常難局を打開すべき、傳統日本武士道精神の高揚と產業開發の司令塔として星霜三百年空しく廢墟のまゝに等しかつた、白鳳城址天主臺に純日本美術の結晶!三層の天主閣を完成、名づけて伊賀文化產業城と稱し、地方產業文化の開發興隆に貢獻することになつた、これ實に時代に順應せる意義深き壯擧と謂ふべく、本町この誇るべき宏業完成の機會を得て、本城建築の意義と使命を顯揚するとゝもに、產業日本のよりよき興隆に寄與するは勿論、今や城下街としての保守的傳統を拋棄り捨て、躍進の意氣澎湃として漲る山都の全貌を汎く天下に宣揚して、その眞價を明かにし、商工業をして一大飛躍を遂げしめ、町勢の膨脹に資せんがため、茲に全國大博覽會を開設するに至つた次第である。

2 開設の經過

本博覽會は、町會協議會に於て、その開設が滿場一致可決され直ちに準備委員を擧げて各般の調査研究に着手、この企ては上野町としては正に空前の一大事業であり〝躍進上野〟の意氣を天下に誇示する重大意義を有するに鑑み、その後の委員會並に數次の町會は一貫して規模の大、內容の整備擴充を力說し、全町民また一致してこれを熱望して止まなかつたので當局は愼重研究の結果遂に意を決し、豫算二十萬圓を以て名實兼備の大博覽會とすることに決定、田山會長以下全役員はこれが準備にまつたく寢食を忘れ努力し、かくて準備工作の總てが順調に進捗し昭和十年四月初旬の常任理事會に於て會則その他の諸規程、豫算案、趣意書など一切の決定を見、同時に町會の正式議決をも經て茲に本會の成立を告げたのでいよ〳〵四月十日附をもつて左の通り天下に公表、輝かしい第一聲を擧げたのである。

趣意書

產業の粹を蒐め廣く商估を刺戟し貿易の宏圖を資くるもの實に博覽會の使命と謂ふべし。今や我國民は擧げて國家の非常時を認識し上下一致內は國產の振興に外は貿易發展に力を致しつゝあり、爲に日本品の聲價は漸く世界產業國の注視する處となれるも未だ世界市場を風靡する迄には尙一段の努力を要するものあり。

此の秋に際し、本町出身前司法政務次官代議士川崎克氏は非常時局の打開は農村の振興、國產の奬勵にありとし上野白鳳城跡（此の城は天正年間筒井定次創めて經營し後慶長十六年藤堂高虎大阪冬夏の陣の備として其改造を企てたるも成らず天守臺のみ存し今日に至れるもの）に三層の天守閣を建設し絢爛たる桃山建築に則り純日本式美術と武士道精神の皷吹に努むると共に、又之を近代國民生活に順應し其の指導顯揚の目的を以て名づけて伊賀文化產業城と稱し、其の一層を產業館とし、二層を文化歷史館とし、三層を展望樓とし地方史學並に產業の爲に貢獻せむとす、其の規模の雄大は近江產根の天守閣に優り、名古屋の金鯱城、姬路の白鷺城に次ぐものに

して藩政時代我國城建築の最後を飾る和歌山城以來正に百有餘年來曾て見ざる壯擧にして、日本精神作興の盛なる現代に於て其の內容外觀共に非常時日本の偉容を備へ巍然として伊山の中空に聳えつゝあり本町此偉觀を記念せんため昭和十年十月を期し伊賀文化產業城落成記念全國博覽會を開催せんとす。

伊賀の新秋は奇勝を以て天下に冠たる赤目香落の二峽錦を織るの候にして上野白鳳城下は俳聖芭蕉の「古里や臍の緒に泣く年の暮」の名吟を殘せる生誕の地加ふるに劍豪荒木又右衛門が仇を報したる伊賀越仇討は正に今秋を以て滿三百年に相當す、斯くの如く雄大なる自然を記念すべき事蹟と天の利地の和悉く博覽會の目的を達成するに好適の時期なり、冀くば本會の微意の存する所を諒とせられ深き御援助と御協贊を賜はられんことを謹で江湖に仰く。

昭和十年四月十日

伊賀文化產業城落成記念全國博覽會長

上野町長　田山八十吉

第二章　組織

第一節　博覽會開設要項

一、主催　三重縣上野町
　　上野町主催　伊賀文化產業城落成記念全國博覽會開設要項

二、後援　三重縣
三、名稱　伊賀文化產業城落成記念全國博覽會
四、會期　自昭和十年十月十二日至同年十一月十日三十日間
五、會場　上野白鳳公園（三萬坪）
六、目的　伊賀文化產業城ノ竣成ヲ記念スルタメ本邦內外各地ノ物產ヲ網羅シ文化產業ノ精華ヲ蒐集展示シ國產ノ振興貿易ノ伸展ヲ圖リ以テ一般產業界ノ發展ニ寄與セントスルニアリ
七、經費豫算　貳拾萬圓
八、諸施設ノ概要
　國產振興館　產業本館　鄕土產業館
　歷史館　美術館　電氣館
　道府縣市其他各方面特設館等
九、諸期限
　館外土地使用申込　七月三十日迄
　賣店使用申込　七月三十日迄
　出品申込　七月三十日迄
　出品目錄提出　八月三十日迄
　出品物搬入　九月三十日迄
　出品物陳列　十月十日迄

　農林館　國防館　觀光館
　演藝館　迎賓館　外地特設館

十、申　込　出品申込ハ道府縣市町村又ハ之ヲ區域トスル團體ニ於テ所要陳列戸棚小間、陳列臺、館内外土間等ニ區分シ必要數取纏メラレタキコト但特設館又ハ特別陳列其他本會ニ於テ必要ト認メタル場合ハ此限リニアラズ

十一、出品物　出品物ハ即賣品、賣約品、非賣品及參考品トス

十二、陳　列　各府縣又ハ市別トシ特ニ輸入品ニ對抗品及代用品並ニ輸出奬勵スベキ國産品ハ之ヲ鑑査シ鑑査合格品ヲ別ニ區分シテ陳列ス

第二節　會　則

會　則

第一章　總　則

第一條　本會ハ三重縣後援上野町主催伊賀文化産業城落成記念全國博覽會ト稱ス

第二條　本會ハ伊賀文化産業城落成ヲ記念シ産業ノ奬勵國産ノ振興ト文化ノ發達觀光ノ進展ニ資スルヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ上野町之ヲ主催ス

第四條　本會ノ會期ハ昭和十年十月十二日ヨリ同年十一月十日迄一ケ月間トシ上野町ニ於テ開ク

第五條　本會ノ事務局ハ當分三重縣阿山郡上野町役場内ニ之ヲ置ク

第六條　本會ノ出品區域ハ帝國領土委任統治及租借地トス

第二章　役員職員及職務權限

第七條　本會ニ名譽總裁及總裁ヲ推戴ス

第八條　本會ニ名譽顧問、顧問ヲ置キ會長之ヲ推薦ス

第九條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會　長　一名　副會長　二名
相談役　若干名　總　務　一名
鑑査長　一名　鑑査員　若干名
評議員　若干名　理　事　若干名
委　員　若干名　事務員　若干名

第十條　會長ハ上野町長、副會長ハ上野町商工會長及上野町總代會長ヲ以テ之ニ充ツ
名譽顧問、顧問、相談役、總務、評議員、理事、委員及事務員ハ會長之ヲ嘱託シ又ハ任命ス

第十一條　會長ハ會務ヲ統轄シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十二條　名譽顧問、顧問ハ重要ナル會務ニ關シ會長ノ諮問ニ應ス

第十三條　總務ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ掌理ス

第十四條　鑑査長ハ商工省ノ命ニ依リ會長之ヲ囑託シ鑑査員ハ會長ノ囑託ニ依リ鑑査事務ニ從事ス

第十五條　評議員ハ重要ナル會務ヲ審議ス

第十六條　理事及委員ハ重要ナル會務ニ參與分掌ス

但シ理事中常任理事若干名ヲ置キ會務ヲ分掌シ常任ニ當ル

委員中經濟部委員若干名ヲ設ケ本會ノ經理ニ關スル一切ヲ審議決定スルモノトス

第十七條　事務員ハ上司ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス

第三章　出品

第十八條　本會ノ出品ハ即賣品、賣約品、非賣品及參考品ノ四種トシ左ノ九部ニ分ツ　但シ細目ハ別ニ之ヲ定ム

第一部　農產品　　第二部　林產品

第三部　鑛產品　　第四部　水產品及食料品

第五部　染織品　　第六部　化學工業品

第七部　製作工業品　　第八部　美術工藝品

第九部　參考品

第十九條　本會ハ國產振興施設ヲ行ヒ前條中第一部乃至第八部ニ屬スル出品ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルヤ否ヤニ付テ鑑査ヲ行ヒ之ニ合格セルモノハ他ノ一般出品物ト區別シ國產振興館ニ陳列スルモノトス

一、輸入品ニ對抗シツヽアル國產品

二、輸入品ニ代用シ得ヘキ國產品

三、輸出ヲ奬勵スヘキ國產品

鑑査ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ　ス

一、風俗若クハ秩序ヲ紊シ又ハ衞生ニ害アリト認ムルモノ

二、他人ニ損害ヲ及ホシ若クハ公衆ニ嫌忌ノ感ヲ與フルモノ

三、發火其他危險ノ虞アリト認ムルモノ

四、其他陳列ニ適セスト認ムルモノ

第二十一條　出品物ニシテ其出品陳列後ニ於テ前條ニ該當スルニ至リタルトキハ其取換若クハ陳列場所ノ變更ヲ爲サシメ又ハ出品申込ノ承認ヲ取消シ之ヲ撤去セシムルコトアルヘシ

第二十二條　出品者ハ本會ニ於テ配當シタル陳列場所ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二十三條　出品物往復ニ要スル荷造運賃及陳列裝飾並ニ動力其他特別ノ裝置ニ要スル費用ハ出品者ノ負擔トス

第二十四條　本會ハ出品物ニ對シ相當ノ保護ヲ爲スト雖モ天災地變火災其他ノ事故ニ依リ生シタル損害ニ對シテハ本會其ノ責ニ任セス

第四章　觀覽

第二十五條　本會ノ觀覽時間ハ每日午前七時ヨリ午後五時迄トス　但シ時宜ニ依リ時間ヲ伸縮シ又ハ觀覽若クハ入場

ヲ制限スルコトアルヘシ

第二十六條　本會ノ入場料ハ左ノ如シ

畫間　大人　金貳拾錢　　小人　金拾錢

但シ五十人以上ノ團體又ハ教員引率ノ生徒兒童並ニ軍人ニ對シテハ入場料ヲ割引ス其ノ割引率ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條　觀覽人ニシテ風紀秩序ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ及ホシ若クハ出品物ニ危害ヲ加フルカ如キ虞アルトキハ入場ヲ拒絶シ又ハ退場ヲ求ムルコトアルヘシ

第二十八條　觀覽人ハ畜類ヲ牽キ自轉車又ハ大荷物ヲ携帶スルコトヲ得ス

第二十九條　觀覽人ハ看守又ハ係員ノ承認ヲ得ルニ非サレハ出品物ニ手ヲ觸ルルコトヲ得ス

第五章　購買

第三十條　出品物ヲ購買セントスルモノハ看守人ニ申出ツヘシ

第三十一條　出品物ヲ購買シタルモノハ即賣品及代金拾圓未滿ノ賣約品ニアリテハ其ノ代金ノ全額、拾圓以上ノ賣約品ニアリテハ代金ノ半額以上ノ手附金ヲ支拂ヒ其ノ領收證書ヲ受クヘシ現品ノ交付ハ即賣品ニアリテハ即時之ヲ行ヒ賣約品ニアリテハ會期終了後五日以内ニ領收證書及殘金引換ニ之ヲ行フモノトス

前項ノ期間内ニ賣約品ノ引取ヲ爲ササルモノハ解約ト看做シ手附金ハ出品者ノ所得トス

第三十二條　出品者ノ賣上代金ハ閉會後三十日以内ニ精算シ之ヲ出品人ニ交付スルモノトス

第六章　雜則

第三十三條　出品物ハ本會ノ承認ヲ受クルニ非サレハ撮影若クハ模寫スルコトヲ得ス

本會ニ於テ出品物ヲ撮影若クハ印行スルコトアルモ出品者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十四條　出品者若クハ場内營業人及其ノ使用人ニ對シテハ別ニ定ムル所ノ入場券又ハ門鑑ヲ交付ス

第三十五條　本會ノ許可ヲ受クルニ非サレハ陳列館及其ノ他ノ建設物内ニ於テ火氣ヲ用フルコトヲ得ス

第三十六條　會場内ニ於テ自營館又ハ賣店飲食店觀覽物遊戲物其ノ他ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ別ニ定ムル規程ニ依リ本會ノ許可ヲ受クヘシ

第三十七條　會場内ヨリ物品ヲ搬出スルモノハ本會所定ノ搬出票ヲ携帶スヘシ　但シ會場内ニ於テ買求メタル即賣品携帶品ノ類ハ此限ニアラス

第三十八條　本會ノ諸規則及命令ノ處分ニ對シテハ異議ノ申立ヲ爲シ又ハ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

前項ノ處分ノ爲メ特ニ要シタル費用ハ之ヲ徵收スルモノトス

第三十九條　出品其ノ他必要ナル規程ハ別ニ之ヲ定ム

附則

本會則ハ昭和十年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

第三節　諸規程の制定

本會々則の制定に次で左の諸規定を設定した。

一、出品規程
二、館外土地使用規程
三、賣店使用規程
四、出品鑑査規程
五、處務規程
六、給與規程
七、事務員、守衛、看守人、傭人採用内規
八、看守人設置竝服務規程（出品ノ部看守人ノ項參照）
九、出品人通門券及門鑑交附規程
十、守衛服務規程（警備ノ部守衛衛生ノ項參照）
十一、團體割引規程
十二、優先券發賣規定

一 出品規程

第一條　出品ノ申込ハ府縣市町村又ハ之ヲ區域トスル團體ニ於テ取纒ムルモノトス但シ特別陳列及本會ニ於テ必要ト認メタル場合ハ此限リニアラス

第二條　出品物ノ陳列ハ府縣又ハ市別トシ特殊ノモノニ限リ部類別ト爲スコトアルヘシ

第三條　本會ハ出品物ノ審査ヲ行ハズ

第四條　出品人ニハ感謝狀ヲ贈呈ス出品人ニシテ産業上特ニ功勞アリト認ムルモノアルトキハ別ニ特功狀ヲ贈呈スルコトアルヘシ

第五條　出品人鑑定ノ申込ヲ爲シタルトキハ鑑査規程ニ依ル鑑査ヲ行ヒ其優良品ハ國産振興館ニ之ヲ陳列スルモノトス

前項鑑査ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　出品陳列場所及小間數ノ割當ハ本會ニ於テ決定ス

第七條　出品物ノ陳列場所使用料ハ左ノ通リ定ム

一、陳列戸棚使用料

一、一小間〔間口六尺 奥行三尺〕　特等 金貳拾參圓　一等 金貳拾圓

一、陳列臺使用料

一、一小間〔間口六尺 奥行三尺〕　特等 金拾參圓　一等 金拾圓

一、館内土地使用料

一、壹坪〔一等 金拾五圓　二等 金拾圓〕

一、半小間〔間口三尺 奥行三尺〕　特等 金拾參圓　一等 金拾圓

一、半坪〔一等 金八圓　二等 金五圓〕

一、半小間〔間口三尺 奥行三尺〕　特等 金七圓　一等 金五圓

第八條　前條ノ使用料ハ總テ前納トシ其使用ヲ取消シ又ハ減少シタルトキト雖モ既納ノ料金ハ之ヲ返還セス

第九條　出品者ハ陳列場所ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス

第十條　特別ノ陳列裝飾ヲナサムトスルモノ及動力又ハ特別ノ裝置若クハ基礎工事ヲ要スルモノハ所要面積ヲ記載シタル申込書ニ設計書ヲ添ヘ提出シ本會ノ承認ヲ受クヘシ變更ノ場合亦同シ

第十一條　前條ニ要スル費用ハ凡テ出品者ノ負擔トス

第十二條　出品者ハ本會ノ承認ヲ得ルニアラザレハ陳列戸棚又ハ陳列臺ノ改造變更ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條　出品者陳列場所使用中本會ノ造營物其ノ他ノ設備ヲ破損シタルトキハ本會ノ指揮ヲ受ケ直ニ修理ノ上原形

ニ復スヘシ

第十四條　本會ハ出品物ニ對シ保險ヲ附セス但シ出品者ハ自己ノ負擔ニ於テ保險ヲ附スルコトヲ得

第十五條　出品者ハ會期中猥リニ陳列場所ヲ閉鎖シ又ハ出品物ヲ撤去スルコトヲ得ス

第十六條　出品者ハ本會ノ承認ヲ受ケ開會時間內ニ限リ出品物ノ保管取締ノ爲メ自費看守ヲ置クコトヲ得

第十七條　本會ニ出品セントスル者ハ第一號樣式ノ出品申込書ニ陳列場所使用料金ヲ添ヘ昭和十年七月三十日迄ニ本會ニ差出スヘシ但シ申込豫定以上ニ達シタルトキハ期限前ト雖モ出品ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第十八條　出品申込ニ對シテハ昭和十年八月十日迄ニ其諾否ヲ通知ス

第十九條　出品承諾ノ通知ヲ受ケタルモノハ昭和十年八月三十日迄ニ第二號樣式ノ出品目錄二通ヲ本會ニ差出スヘシ但本規程第五條ニ依リ鑑査ヲ受ケムトスルモノハ第三號樣式ノ解說書二通ヲ出品目錄ト同時ニ差出スヘシ

第二十條　出品物ニハ總テ本會ヨリ交付シタル付札ヲ添付スヘシ

第二十一條　出品物ハ昭和十年九月三十日迄ニ會場ニ搬入シ同年十月十日迄ニ陳列ヲ完了スルモノトス

第二十二條　出品物ノ補充交換又ハ價格ノ變更ハ出品目錄用紙ニ依リ其都度本會ノ承認ヲ受クヘシ

第二十三條　出品物ハ非賣品參考品ヲ除ク外之ヲ賣約又ハ即賣スルモノトス

第二十四條　出品者ハ賣約並ニ即賣シタル出品物ニ付其價格ノ百分ノ五ヲ手數料トシテ本會ニ納付スルモノトス

第二十五條　出品物ノ賣約及即賣ハ總テ本會ニ於テ之ヲ行ヒ出品人自ラ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十六條　出品者ニ於テ本會ニ其陳列裝飾ヲ委託セントスルトキハ第四號樣式ノ委託書ヲ差出スヘシ

前項ノ費用ハ出品者ノ負擔トス

第二十七條　館內ノ陳列裝飾ニ旗幟額等ヲ使用セムトスル場合ハ通路又ハ他ノ妨害トナラサル樣設備スヘシ

第二十八條　出品物ニシテ所定ノ期間內ニ搬入陳列ヲ終ラサルトキ又ハ之レヲ終ルコト能ハスト認ムルトキハ出品申込受理ノ全部又ハ一部ヲ取消スコトアルヘシ

第二十九條　出品物ノ本會々場ニ到達シタル後該出品人又ハ取扱人ニシテ本會ノ指定スル期間內ニ之ヲ處理セサルトキハ本會ハ出品人ノ負擔ニ於テ之ヲ返還シ若クハ倉庫ニ寄託スルコトアルヘシ

第三十條　出品物及自營工作物ハ閉會後五日以內ニ撤去スヘシ

前項ノ期間內ニ撤去ヲ爲サルトキハ本會ニ於テ代行シ其費用ハ出品者ノ負擔トス

第三十一條　出品物ノ撤去搬出又ハ返送ヲ請ハントスルモノハ閉會後五日以內ニ其旨本會ニ申出ツヘシ但シ其費用ハ出品者ノ負擔トス

縣府市		受附	第　號	係
			日月年和昭	

（第一號樣式）

出品申込書

（住所）

（氏名）　（商號）

（電話）

館別	出品物陳列棚	陳列臺	館內土地	小計	摘要
本館					
農林館					

右貴會ノ諸規程ヲ承認シ出品致度此段申込候也

昭和十年　月　日

上野町主催　伊賀文化產業城落成記念全國博覽會長殿

注意

一、摘要欄ニ土間及土地ニアリテハ動力瓦斯ノ要不要水量等ヲ簡單ニ記入サレタシ

一、本申込書ハ昭和十年七月卅日限リ差出サレタシ

縣府市		受附	第　號	係
館名			日月年和昭	

（第二號樣式）

出品目錄

（住所）

（氏名）　（商號）

（電話）

番號	品名	數量	單價	價格	賣約、即賣、非賣、參考品ノ別
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					

昭和十年　月　日

上野町主催　伊賀文化產業城落成記念全國博覽會長殿

注意

一、本目錄ハ二通差出サレタシ

一、本目錄用紙ハ本會調製ノモノ若クハ同一寸法樣式ノモノニ限ル

一、本目錄ハ昭和十年八月三十日限リ差出サレタシ

（第三號樣式）

解說書

住所
職業
出品人　氏　名　㊞

品名	
創業年月	
工場名及其ノ所在地	
製造方法ノ概要	
原料ノ種類及其ノ產地	
製品ノ特長	
從業人員	
一日ノ生產能力	
販路	
業務上ノ經歷概要	
從前ノ受賞	
鑑査上特ニ必要ト認ムル點	

右ノ通リニ候也

昭和十年　月　日

上野町主催伊賀文化產業城落成記念全國博覽會長殿

備考
一、本書ハ品種每ニ別紙ニ認ムヘシ
二、本書ハ二通提出スルコト
三、本書ハ鑑査上重要資料ニ付簡明ニ記述スルコト

（第二十條ノ付札）

館	縣市府			
號	第號番品出			
品名	價格	出品人		摘要
		住所	氏名	
	金圓錢			

注意　非賣品參考品及即賣品ノ別ニ夫々其旨摘要欄ニ朱書サレタシ

縣市府	第號番品出		
	品名		
	價格	円	
館	出品人	住所	
		氏名	
	摘要		看守人

（第四號樣式）

委託證

貴會ニ出品致候出品目錄ノ出品物ニ對シテハ御所定ノ諸規程ヲ承認シ出品物ノ陳列裝飾ヲ委託候也

昭和十年　月　日

住所
出品人　氏　名㊞

上野町主催伊賀文化產業城落成記念全國博覽會長殿

2　館外土地使用規程

第一條　本會ノ敷地ヲ使用シ又ハ敷地上ニ工作物ヲ設ケ營業其他ノ事業ヲ爲サントスルモノハ總テ本規程ニ據ルヘシ但シ特殊ノ事情アリト認ムルモノハ本規程ニ依ラサルコトアルヘシ

第二條　前條ノ申込ヲ爲サントスル者ハ昭和十年七月三十日迄ニ府縣市町又ハ商工會議所ノ推薦ヲ經テ別記樣式ノ館外土地使用申込書ニ設計書及圖面ヲ添ヘ本會ニ差出シ其ノ承認ヲ受クヘシ數人共同ノ經營ニ係ルモノハ申込書ニ連署シ代表者一名ヲ選定ノ上屆出ツヘシ

第三條　前條ノ承認ヲ受ケタルトキハ一週間以内ニ使用料ヲ納付スヘシ指定期間内ニ使用料ヲ納付セサルトキハ承認ヲ取消スコトアルヘシ

第四條　使用料ハ其使用ヲ取消シ又ハ減少シタルトキト雖モ之ヲ返還セス

第五條　館外土地使用料ハ左ノ如シ

一坪	一等金　拾　五　圓 二等金　拾　　圓

第六條　館外使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與シ及使用ノ目的ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條　土地使用承認後工作物ノ移轉改造又ハ變更ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由書ニ設計圖及仕樣書ヲ添付提出シ會長ノ承認ヲ受クヘシ

第八條　許可シタル後ト雖モ會長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ許可ヲ取消シ又ハ特別ノ指示ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第九條　建設物ハ左ノ各號ニ遵ヒ竣工並ニ撤去ノ際檢査ヲ受クヘシ

一、材料ハ總テ他所ニ於テ切組シタル上搬入建設スヘシ

二、建設物ハ昭和十年十月五日迄ニ建設スヘシ

三、建設物ハ開會中本會ノ承認ヲ得ルニアラサレハ之ヲ廢棄又ハ撤去スルコトヲ得ス

四、建設物ハ閉會後五日以内ニ撤去シ敷地ハ原形ニ復スヘシ

五、會場内ニ於ケル作業時間ハ午前七時ヨリ午後六時迄トス但シ時間外作業ヲ必要トスルトキハ許可ヲ受クヘシ

六、工事ノ場所ニ於テハ堅ク火氣ヲ用フルコトヲ禁ス但シ工事上之レヲ必要トシ若クハ發火ノ虞レアル材料ヲ使用セムトスルトキハ豫メ許可ヲ受クヘシ

七、工事施行ニヨリ生スル木屑類ハ指定ノ場所ニ搬入シ作業場ニ散亂又ハ堆積スヘカラス

第十條　建設物ニ於ケル營業ハ本會開會ノ日ヨリ閉會ノ日迄トシ其ノ時間ハ本會ノ開場時間内トス本會ノ承認ヲ經スシテ營業所ヲ閉鎖シ又ハ休業スルコトヲ得ス

第十一條　經營者ハ各品目ノ販賣價格又ハ料金ヲ定メ本會ノ承認ヲ受クヘシ

第十二條　經營者ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一、販賣價格並ニ料金ハ室内見易キ場所ニ揭示スルコト

二、飲食物及器具ハ精選シ不潔ナラサル樣注意スルコト

三、客引ヲ爲シ又ハ押賣ヲ爲ササルコト

四、風俗ヲ紊シ又ハ放歌喧騒ニ渉ル行爲ナキ樣注意スルコト

五、火氣ハ危險防止ノ設備ヲ爲シ煤煙ヲ生セサル樣注意スルコト

第十三條　使用者ハ本會ノ承認ヲ經テ看守ニ必要ナル人員ニ限リ建設物内ニ宿泊セシムルコトヲ得

第十四條　本規程ニ違背シ又ハ本會ノ指定ニ從ハサルトキハ承認ヲ取消シ撤去ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ於テ建設物又ハ材料ヲ撤去セサルトキハ本會ニ於テ適宜ノ處理ヲ爲シ其實用ハ經營者ノ負擔トス

第十五條　經營者ハ其使用人ノ行爲ニ付テモ總テ其責ニ任スルモノトス

附　則

本規程ハ昭和十年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

（申込樣式）

館外土地使用申込書

使用ノ目的
場　　所
等　　級
所要坪數
料　　金

右貴會ノ諸規程ヲ承認シ館外土地使用致度此段及申込候也

昭和十年　月　日

住所
職業
氏名　㊞

上野町
主催　伊賀文化産業城
落成記念全國博覽會御中

3　賣店使用規程

第一條　出品人中本會ノ賣店ヲ使用セムトスル者ハ府縣市町商工會議所ノ推薦ヲ經テ昭和十年七月三十日迄ニ別記樣式ノ賣店使用申込書ヲ本會ニ差出シ其承認ヲ受クヘシ數人共同ノ經營ニ係ルモノハ代表者一人ヲ選定シ申込書ニ連署スヘシ但シ特殊ノモノニ限リ出品人ニ非ラサルモノト雖モ承認スルコトアルヘシ

第二條　賣店使用料ハ左ノ通リ定ム

一、小　間（九尺六尺）　金四拾圓

第三條　賣店使用ノ承認ヲ受ケタルトキハ一週間以内ニ使用料ヲ納付スヘシ指定期間内ニ使用料ヲ納付セサルトキハ其承認ヲ取消スコトアルヘシ

使用料ハ其ノ使用ヲ取消シ又ハ減少シタルトキト雖モ之ヲ返還セス

第四條　賣店使用者ハ本會ノ承認ヲ得自己ノ費用ヲ以テ賣店内ノ設備ヲ爲スヘシ

第五條　賣店ノ建設物ヲ變更シ又ハ屋外裝飾等ヲ爲サントスル者ハ設計書及圖面ヲ添ヘ本會ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於ケル施設物ハ閉會後五日以内ニ之ヲ撤去スヘシ期間内ニ其撤去ヲ怠リタルトキハ本會ニ於テ適宜

處理ヲナシ其費用ハ使用者ノ負擔トス

第六條　賣店ハ之レヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與シ及商品ヲ變更スルコトヲ得ス

第七條　賣店内ノ營業ハ本會開會ノ日迄トス使用者ハ本會ノ承認ヲ得スシテ店舖ヲ閉鎖シ又ハ休業スルコトヲ得ス

第八條　使用者ハ本會ノ承認ヲ經テ看守ニ必要ナル人員ニ限リ賣店内ニ宿泊セシムルコトヲ得

第九條　販賣品ハ總テ單位定價ヲ表示スヘシ

第十條　本規程又ハ本會ノ指示ニ違背シタルトキハ賣店ノ開設ヲ停止シ若クハ撤去セシムルコトアルヘシ此場合ニ於テハ既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス

第十一條　本會ハ一般會場ノ取締リヲ爲スト雖モ天災、地變、火災、盜難、忘失ニ因ル損害ニ對シ其責ニ任セス

第十二條　賣店使用者ハ其使用人ノ行爲ニ付テモ總テ其責ニ任スルモノトス

附　則

本規程ハ昭和十年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

（申込様式）

賣店使用申込書

一、販賣品ノ種類

一、賣店使用戸數及等級

一、從事員ノ數

一、設備方法

右賣店使用致度御承認ノ上ハ御規程及御命令遵守可致候也

昭和十年　月　日

住所
職業
氏名　㊞

上野町
主催　伊賀文化産業城落成記念全國博覽會御中

4　出品鑑査規定

第一條　本會規則第十八條ノ出品中第一部乃至第八部ニ屬スル出品ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルヤ否ヤニ付テ鑑査ヲ行フ

一、輸入品ニ對抗シツヽアル國産品

二、輸入品ニ代用シ得ヘキ國産品

三、輸出ヲ奬勵スヘキ國産品

第二條　鑑査ハ嚴正公平ヲ旨トシ主トシテ出品申込書並ニ解説書ニツキ之ヲ行フ但シ必要アル場合ニハ現品ニ付之ヲ行フ

第三條　鑑査ノ委員會ハ委員長一名、副委員長一名、委員二十名以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　鑑査委員長、副委員長、鑑査委員ハ會長之ヲ囑託ス

第五條　鑑査ハ第一條ニ該當スル出品物ニ付行ヒ品質、生産狀況、生産費等試驗又ハ其他ノ方法ニ依リ鑑別スルモノトス

5　處務規程

第一條　本會ノ事務ヲ處理スル爲メ左ノ部ヲ置ク

庶務部、出品部、宣傳接待餘興部、工營部、經理部、警備衛生部

第二條　各部ノ事務分掌左ノ如シ

庶務部

一、各部事務聯絡ニ關スル事項
一、人事會議儀式ニ關スル事項
一、文書ノ收受、發送、編纂及文書並ニ印章ノ保管ニ關スル事項
一、諸規程ノ制定運用ニ關スル事項
一、徽章及制服ニ關スル事項
一、諸大會及協賛會ニ關スル事項
一、事務報告ニ關スル事項
一、宿直ニ關スル事項

一、其他他部ノ主管ニ屬セサル事項

出品部

一、出品勸誘取纏ニ關スル事項
一、出品物ノ搬入出ニ關スル事項
一、出品物ノ販賣ニ關スル事項
一、出品物ノ陳列及裝飾ニ關スル事項
一、出品目錄及解說書ニ關スル事項
一、出品場所ノ配當及特定場所料金ノ協定ニ關スル事項
一、陳列棚及之レガ裝飾ニ關スル事項
一、看守人ニ關スル事項
一、運賃割引ニ關スル事項
一、賣店ニ關スル事項
一、出品物ノ保護ニ關スル事項
一、其ノ他出品ニ關スル事項

宣傳接待餘興部

一、宣傳用諸印刷物ノ發行頒布ニ關スル事項

一、宣傳用建物並ニ案内板等ノ建立ニ關スル事項
一、町内裝飾ニ關スル事項
一、觀覽人ノ誘致ニ關スル事項
一、入場券前賣ニ關スル事項
一、新聞及通信ニ關スル事項
一、其ノ他宣傳ニ關スル事項
一、送迎案内接待ニ關スル事項
一、優待券無料入場券ニ關スル事項
一、記念品ニ關スル事項
一、宿屋料理店等ノ交涉ニ關スル事項
一、自動車等交涉ニ關スル事項
一、團體觀覽ノ斡旋ニ關スル事項
一、其他ノ接待ニ關スル事項
一、諸催物其他餘興ニ關スル事項

工　營　部

一、敷地、建築、土木並ニ工作物ニ關スル事項

一、自營建造物ニ關スル事項
一、點燈、瓦斯、給水ニ關スル事項
一、動力ニ關スル事項
一、電話ニ關スル事項
一、館内外ノ裝飾ニ關スル事項
一、其他營繕ニ關スル事項

經　理　部

一、金錢ノ出納ニ關スル事項
一、物品ノ購買保管及出納ニ關スル事項
一、諸給與ニ關スル事項
一、賣上金ニ關スル事項
一、物品處分ニ關スル事項
一、有料入場券ノ出納並ニ販賣ニ關スル事項
一、請負契約締結ニ關スル事項
一、其他經理ニ關スル事項

警備衛生部

一、會場内外ノ警備取締ニ關スル事項
一、守衛ニ關スル事項
一、夜警並ニ消防ニ關スル事項
一、觀覽人ノ保護ニ關スル事項
一、入場券ノ改札、集札並ニ門鑑ノ檢査ニ關スル事項
一、入場券賣場ノ整理ニ關スル事項
一、場内觀物興行場取締ニ關スル事項
一、賣店ノ取締ニ關スル事項
一、遺失物拾得物迷兒ニ關スル事項
一、物品搬出入取締ニ關スル事項
一、其他保安ニ關スル事項
一、救護ニ關スル事項
一、會場内販賣飲食物取締ニ關スル事項
一、撒水ニ關スル事項
一、糞尿及汚物處分ニ關スル事項
一、掃除及掃除人夫ノ取締ニ關スル事項

一、其他保健並ニ衛生ニ關スル事項

第三條　職員ハ各部ニ分屬シ關係事務ニ從事ス

第四條　理事ハ委囑ニ依リ各部ノ重要事項ヲ審議參劃ス

前項ノ場合必要ニ應シ各部ニ常任理事若干名ヲ置ク

第五條　本會ニ關スル事務ハ總テ會長ノ決裁ヲ經テ執行スヘシ

第六條　本會ニ到達シタル文書ハ庶務部ニ於テ收受シ各主管部ニ配付スヘシ但シ金券ハ狀ヲ具シ經理部ニ交付スヘシ

第七條　發送スヘキ文書ハ總テ庶務部ニ回付スヘシ

第八條　完結書類ハ主管部ニ於テ整理ノ上庶務部ニ引繼クヘシ

第九條　本規程ニ定ムルモノヽ外上野町役場處務規程ヲ準用ス

6　博覽會給與規程

第一章　總則

第一條　本會役員及職員ニ對スル給與ハ別ニ規定アルモノヲ除ク外本規程ノ定ムル處ニ依ル

第二章　給料及手當

第二條　給料及手當ハ左ノ定日ニ之ヲ支給ス但シ其定日休日ニ當ルトキハ繰下トス

一、月額ヲ以テ定ムルモノハ毎月二十一日

一、日給又ハ傭人ノ給料ハ毎月末日

第三條　給料ハ就職又ハ發令ノ翌日ヨリ之ヲ支給シ退職又ハ解職ノ場合ハ發令ノ當日迄日割ヲ以テ計算ス

日給ハ出勤日數ニヨリ發令ノ日ヨリ之ヲ支給ス

第四條　給料ヲ受クル者病氣ノ爲メ引續キ缺勤十日ヲ超ユルトキハ其ノ翌日ヨリ半額ヲ減シ私事ノ故障ニ依リ引續キ缺勤七日ヲ超ユルトキハ翌日ヨリ支給ヲ停止ス

第三章　旅費

第五條　役職員會務ノ爲メ町外ニ旅行シタルトキハ第一號表ニヨリ費用辨償又ハ旅費ヲ支給ス但シ規定ノ旅費額ニ依リ難キ場合ハ會長ニ於テ增減スルコトヲ得

第四章　文具料及賄料

第六條　職員ニ對シ文具料トシテ一ケ月五十錢ヲ支給ス但シ會長ニ於テ必要ト認メタル場合現品ヲ以テ支給シ料金ヲ給セサルコトアルヘシ

第七條　事務員其ノ他ノモノ宿直又ハ夜勤シタル時ハ第二號表ニヨル賄料ヲ翌月之ヲ支給ス

第八條　前各條以外ハ總テ上野町給與條例ヲ準用ス

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

區分	鐵道賃船賃	車馬賃	宿泊料	食卓料	出張先ニテ要スル車馬賃
		一里ニ付	一夜ニ付		實費
會長、副會長、顧問	二等賃金	一、四〇	七、〇〇	一、〇〇	〃
總務、評議員、委員囑託理事、主事	三等賃金	〃	五、〇〇	一、〇〇	〃
事務員	三等賃金	〃	四、〇〇	一、〇〇	〃
其ノ他	三等賃金	〃	三、〇〇	、五〇	〃

備考　車馬賃ハ鐵道又ハ船ノ便ナキ所ニ出張シタル場合ニ限ル

第二號表

區分	宿直賄料	勤務賄料	
	夜ニ付	午後九時迄一午後十二時迄	徹夜
常任理事以上	、五〇	、五〇	一、〇〇
事務員	、三〇	、三〇	、六〇
雇員	、三〇	、三〇	、六〇
警手	一	、三〇	、四〇
使丁其ノ他	、三〇	、三〇	、五〇

7　事務員、守衛、看守人、傭人採用内規

一、本會ノ事務員、守衛、看守人ハ左記各號ニ該當スルモノ、範圍ニ於テ之ヲ採用ス

イ、事務員ハ年齡二十歳以上五十歳未滿ニシテ中等學校卒業者若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト認ムル者又ハ事務ニ經歷ヲ有スル者ニシテ身元確實品行方正身體强健ナル者

ロ、守衛ハ在鄉軍人若クハ嘗テ巡査看守ノ職ニ在リタルモノニシテ身元確實品行方正身體强健ナル者

ハ、看守人ハ年齡滿十六歳以上二十三歳以下ノ女子ニシテ高等小學校卒業若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ身元確實品行方正身體强健ナル者

ニ、傭人ニアリテハ身元確實身體强健ナル者

二、看守人ハ採用ノ場合ニハ讀書、算術、書方其他ニ付簡易ナル試驗ヲ行フコトアルヘシ

三、特別ノ事由アルモノハ前各號ニヨラズ採用スルコトアルヘシ

8　看守人設置並服務規程

第一條　本會ニ看守人若干名ヲ置ク

第二條　看守人ハ上司ノ指揮ヲ受ケ出品物ノ陳列、看守、整理、保護ニ任シ併テ賣約及即賣事務ノ補助ニ從事スヘシ

第三條　勤務時間ハ開館一時間前ヨリ閉館一時間後トス

但シ必要アルトキハ勤務時間ヲ延長スルコトアルヘシ

第四條　出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印シ係員ヨリ所要ノ鍵ヲ受取リタル上各其受持ノ位置ニ就キ服務スヘシ疾病其他已ムコトヲ得サル事故ニヨリ缺勤セントスルトキハ出勤時間前ニ出品部ニ届出スヘシ

第五條　勤務中ハ左ノ事項ノ遵守スヘシ

一、必ズ制服ヲ着用スヘシ

二、開館前閉館後各受持場所ノ陳列棚陳列臺及通路其他ノ清掃ヲ爲スヘシ若シ陳列品ノ異狀附札ノ剝落又ハ陳列品配列ノ亂雜シタルモノアルトキハ直ニ出品部ニ申出ツヘシ

三、陳列品ハ鄭重ニ之ヲ取扱ヒ陳列棚ハ決シテ之ヲ開放スヘカラス

四、陳列品ハ本會役員當該出品人又ハ其代理人若クハ賣買セントスル者ノ外濫リニ手ヲ觸レシムヘカラス

五、賣約又ハ即賣ノ申込アリタルトキハ直ニ其取扱主任ニ通報シ必要アルトキハ其補助ヲ爲スヘシ

六、盜難其他異變アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ出品部係員又ハ守衛警察官ニ申告スヘシ

七、勤務中病氣其他已ムコトヲ得サル事故ニ依リ勤務スルコト能ハサルニ至リタルトキハ受持出品部員ニ申出テ許可ヲ受ケ退出スヘシ

八、勤務中食事又ハ已ムコトヲ得サル事故ニ依リ受持場所ヲ離レントスル時ハ隣接看守人ニ託シ看守セシムルコトヲ要ス但シ三十分以上ヲ要スルトキハ受持出品部員ノ許可ヲ受クヘシ

九、出品人及觀覽人ニ對シテハ言辭ヲ愼ミ最モ懇切叮嚀ニ應接スヘシ

十、動作ヲ愼ミ不體裁ノコトアルヘカラス

十一、妄リニ受持場所ヲ離ルヘカラス
十二、書籍、新聞等ヲ閲讀シ又ハ編物裁縫ヲナスヘカラス
十三、雜談、私語、喧噪ヲナスヘカラス
十四、受持場所ノ土間板ノ間ハ時々撒水シ區内ノ清潔ヲ保ツヘシ
第六條　左記各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ穩カニ之ヲ制止シ又ハ保護ヲ加ヘ直ニ守衛又ハ出品部員ニ通報スヘシ
一、陳列品ニ接觸シ又ハ汚損セントスル者アルトキ
二、館内ノ設備ヲ損傷セントスル者アルトキ
三、館内ニ於テ喫煙スル者アルトキ
四、觀覽人ノ妨害ヲ爲ス者アルトキ
五、異樣ノ風俗ヲ爲シ又ハ風紀ヲ紊ルト認ムル者アルトキ
第七條　觀覽人中擧動怪シムヘキ者アルトキハ速ニ守衛又ハ警察官ニ内報スヘシ
第八條　毎日退出ノ際ハ陳列館窓及陳列棚等ノ締リヲ調査シ其鍵ヲ受持ノ係員ニ引繼クヘシ
第九條　看守上ノ不注意又ハ怠慢ニ依リ生シタル陳列品ノ破損紛失等ノ損害ハ當該看守人之カ辨償ノ責ニ任スヘシ
第十條　出品人ノ使用ニ係ル看守人ニ對シテハ本規程ヲ適用ス
第十一條　看守人ニ採用セラレタル者ハ上野町ニ在住シ且ツ戸主ノ保證アル誓約書ヲ差出スヘシ

9　出品人通門券及門鑑交付規程

第一條　出品人ニハ出品人通門券ヲ交付ス本會ニ對シ物品供給ノ爲メ會場内ニ出入ヲ要スル者會場内營業者及其使用人其他本會ニ於テ必要ト認ムル者ニハ門鑑ヲ交付ス
第二條　出品人通門券及門鑑ハ無料トス但開會中會場内營業者及其使用人ニ交付スル者ハ一枚ニ付金壹圓ヲ徴收ス再交付ノ場合亦同シ
第三條　門鑑ハ左ノ三種ニ區分ス
一、開會前使用ノモノ
二、開會中使用ノモノ
三、閉會後使用ノモノ
第四條　出品人通門券ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ本會事務局ニ之ヲ請求スヘシ
第五條　門鑑ノ交付ヲ受ケントスル者ハ職業、住所、氏名、年齢及門鑑ヲ要スル理由ヲ記シ本會事務局ニ請求スヘシ
會場内營業者等ニシテ其使用人ヲ變更シタルトキハ前項ノ例ニ依リ舊門鑑ヲ添ヘ其書替ヲ請求スヘシ書替料ハ一枚ニ付金五拾錢トス
第六條　門鑑ノ交付ヲ受ケタル理由消滅シタルトキハ直ニ其ノ門鑑ヲ本會事務局ニ返還スヘシ
第七條　門鑑ヲ遺失又ハ紛失シタルトキハ直ニ本會事務局ニ屆出ツヘシ

前項ノ門鑑ハ無効トス

第八條　門鑑ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ本規程ニ違反シ又ハ不都合ノ行爲アリタルトキハ其ノ門鑑ヲ返還セシムルコトアルヘシ

出品人通門券請求書

縣
府　郡
市　村
町　番地

出品人　年齡

右出品人通門券御交付被下度此段及御願候也

年　月　日

右

上野町主催伊賀文化産業城落成記念全國博覽會御中

門鑑請求書

住所

職業　氏名　年齡

一、使用ノ目的

右ノ者使用人ニ付門鑑御交付相成度此段及請求候也

年　月　日

住所

職業　氏名

上野町主催伊賀文化産業城落成記念全國博覽會御中

10　守衛服務規程

第一條　本會ニ守衛長一名、副守衛長二名、守衛若干名ヲ置ク

第二條　守衛長ハ警備部主任及事務長ノ指揮ヲ受ケ守衛ヲ指揮監督スルモノトス

副守衛長ハ守衛長ヲ補佐シ守衛長事故アルトキ其職務ヲ代理ス

第三條　守衛ハ守衛長又ハ副守衛長ノ指揮命令ヲ受ケ會場ノ警備衛生及門衛ニ任ス其ノ概要左ノ如シ

一、各門及各館ノ開閉

二、會場出入者ノ取締並ニ觀覽者ノ保護

三、搬入物件ノ取締並ニ其査閲

四、火災及盜難ノ豫防

五、會場内施設物及植物其他ノ保護

六、便所、下水、塵芥類其他會場内ノ掃除及撒水ノ監視並ニ取締

七、場内ニ於ケル飲食物販賣業者ノ取締

八、前各號ノ外會場一般ノ取締

第四條　守衛長ハ守衛ノ配置ヲ定メ其勤務表ヲ作製シ警備部主任及事務長ノ承認ヲ受クヘシ

第五條　勤務時間ハ開場三十分前ヨリ閉場後三十分間トス

但シ會務ノ都合ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第六條　出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印シ守衛長ヨリ所要ノ鍵ヲ受ケ取リ服務シ退出ノ際ハ鍵ヲ守衛長ニ返付スヘシ

第七條　病氣其他事故ニ依リ出勤スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具シ出勤時刻前其旨事務局ニ届出スヘシ

勤務中前項ノ事由ニ依リ勤務スルコト能ハサルニ至リタルトキハ直ニ警備部主任又ハ守衛長ニ申出承認ヲ受クヘシ

勤務中食事其他ノ事由ニ依リ受持場所ヲ離レントスルトキハ他ノ守衛ニ其ノ任務ヲ兼ネシメ遺漏ナカラシムヘシ

第八條　入場券ハ毎日券別ニ整理シ之ヲ經理係ニ送付シ其全數ハ直ニ警備部及庶務部ニ報告スヘシ

第九條　守衛ハ特ニ左ノ事項ニ注意シ其取締ヲ嚴ニスヘシ

一、搬出物件ハ搬出證ニヨリ現品ト對照シ相違ナキトキハ其搬出證ヲ領收シテ搬出ヲ許スヘシ

但シ領收シタル搬出證ハ即日出品部ニ差出スヘシ

二、入場券ハ入場ノ際一片ヲ切取リ出場ノ際殘片ヲ受取ヘシ

但シ出場ニ際シ入場券ヲ所持セサルトキハ更ニ購入スルニアラサレハ出場セシムルコトヲ得ス

三、一般觀覽者ニシテ本會ノ規程ニ違背シタルトキハ入場ヲ拒絶スヘシ若シ之ニ應セサルトキハ守衛長ニ申告スヘシ

四、構内ニ於テ急病者ヲ發見シタルトキハ構内救護所ニ通報スヘシ

五、構内ニ於テ火災其他非常事變ノ發生アリタルトキハ直ニ警察官詰所並ニ消防員詰所ニ急報スヘシ

六、構内ニ於テ迷兒アルトキハ一應保護者ヲ取調ヘ不明ノトキハ警察官ニ引渡スヘシ

七、陳列館内ニ於テ特ニ許可ヲ受ケタル者ノ外一切火氣ヲ使用セシムヘカラス

八、陳列館内ニ於テハ喫煙ヲ嚴禁シ又痰壺以外ニ喀痰セシムヘカラス

九、建築物ノ毀損及雨漏等ヲ發見シタルトキハ速ニ其旨ヲ工營部ニ通報スヘシ

十、犯行者、擧動不審者、精神病者、泥醉者等ヲ發見シタルトキハ直ニ警察官ニ引渡シ又ハ密告スヘシ

十一、便所ハ毎日掃除セシメ常ニ清淨ナラシムヘシ

第十條　守衛ハ其宿所ヲ警備部主任及事務長ニ届出常ニ其出先ヲ明カナラシムヘシ

第十一條　守衛ハ交番ヲ以テ宿直ヲ爲シ場内一般ノ取締ニ任スヘシ

二　入場者團體割引規定

第一條　本會々則第二十六條但書ノ規定ニ依ル入場料割引左ノ如シ

一、普通團體

一、五十人以上百人迄　二割

一、二百一人以上三百人迄　三割

一、百一人以上二百人迄　二割五分

一、三百一人以上五百人迄　三割五分

一、五百一人以上　　五　割

二、學生兒童

一、小學生幼稚園兒童其ノ他ノ學生(補習學校、青年訓練所ヲ含ム)ハ三十人以上ニシテ引率者アルモノニ限リ　五割引(引率者三十人ニ付一人ツヽ無料)

三、軍　　人

一、現役軍人(制服着劍ノ下士兵ニ限ル)　　五割引

12　優先券發賣規定

一、本會ハ優先券ヲ發行シ入場券ノ前賣ヲ爲ス

二、優先券ハ大人觀覽券ニ限リ二割引トシ五萬枚ヲ發賣ス

三、發賣ハ一口百枚以上トシ現金引換ニ交付ス

四、發賣ハ十月七日迄トス

五、一口以上ノ購入者ニハ一割ノ手數料ヲ交付ス

六、優先券ニハ番號ヲ付シ抽籤ヲ以テ別ニ定ムル景品ヲ交付ス

七、抽籤ハ締切後之ヲ行ヒ三等以上ハ市內發行新聞紙ニ發表シ其他ハ會場內ニ揭示ス

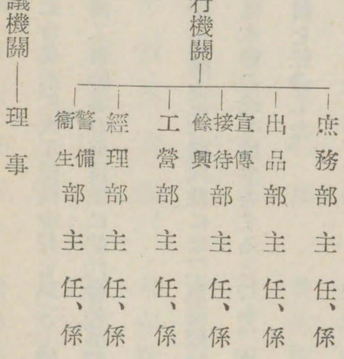
八、景品引換ハ會期中會場內景品引換所ニテ行フ

九、本券ハ本會ニ於テ依囑セル者ノ外販賣ヲ禁ス

第四節　役職員及事務局

一　職　　制

本會の職制は左表の如く名譽總裁一名、總裁一名、副總裁一名、會長一名、副會長二名、總務一名を以て最高幹部とし、名譽顧問六十二名、顧問二百六十五名を推薦し、審議機關には理事七十六名を、諮問機關には評議員百三十名を囑託し、その他に事務長一名、各部主任六名を置き之れに事務員四十八名を直屬せしめ一切の會務を處理したのであつて、さらに宣傳其他に委員五百八十三名を囑託し應援を得た。



2 役職員任命

本會は會則に從ひ、會長には上野町長を副會長には商工會長並に大字總代會長を以てし町會議員、大字總代、商工會幹事等七十六名を理事に囑託、更に理事中町會議員及商工會幹事の全員並に總代會幹事等四十七名を常任理事としいづれも昭和十年四月十日就任した。

名譽總裁には三重縣知事富田愛次郎閣下、總裁には代議士川崎克氏、副總裁には三重縣總務部長熊野英氏を各推戴したが終始多大の盡力と不斷の鞭撻指導を與へられたことは本會の最も欣幸とするところ。さらに左の如く名譽顧問、顧問を推薦し評議員、委員を委囑し、また事務長、事務員を任命した。方に役員の氏名竝に人員を掲記する。

役職員數

名譽顧問	六二名	評議員	一三〇名
委員	五八三名	理事	七六名
顧問	二六五名		

役職員氏名

名譽總裁	三重縣知事	富田愛次郎	
副總裁	三重縣總務部長	熊野英	
總裁	代議士	川崎克	
副會長	上野町商工會長	堀川宇三郎	
會長	上野町長	田山八十吉	
總務	上野町助役	瀧忠郎	
副會長	上野町總代會長	筒居信郎	

名譽顧問

貴族院議員	小林嘉平治	衆議院議員	加藤久米四郎
衆議院議員	松田正一	同	堀川美哉
同	尾崎行雄	同	後藤脩
朝鮮總督	宇垣一成	臺灣總督	中川健藏
北海道長官	佐上信一	樺太廳長官	今村武志
大阪府知事	安井英二	東京府知事	橫山助成
長崎縣知事	田中廣太郎	京都府知事	鈴木信太郎
群馬縣知事	君島清吉	兵庫縣知事	石田馨
栃木縣知事	菅場軍藏	神奈川縣知事	湯澤三千男
靜岡縣知事	阿部嘉七	新潟縣知事	宮脇梅吉
岐阜縣知事	坂千秋	埼玉縣知事	齊藤樹
福島縣知事	伊藤武彥	千葉縣知事	石原雅二郎
山形縣知事	金森太郎	茨城縣知事	安藤狂四郎
石川縣知事	生駒高常	奈良縣知事	一戸二郎
島根縣知事	福邑正樹	愛知縣知事	篠原英太郎
衆議院議員	伊阪秀五郎	山梨縣知事	土屋正三
同	濱田國松	滋賀縣知事	村地信夫
同	池田敬八	宮城縣知事	大村清一
衆議院議員	伊阪秀五郎	長野縣知事	井野次郎
同	濱田國松	岩手縣知事	石黑英彥
同	池田敬八	青森縣知事	小林光政
樺太廳長官	今村武志	秋田縣知事	近藤駿介
京都府知事	鈴木信太郎	福井縣知事	中谷秀
兵庫縣知事	湯澤三千男	鳥取縣知事	鈴木敬一
埼玉縣知事	齊藤樹	岡山縣知事	多久安信
茨城縣知事	安藤狂四郎	廣島縣知事	
愛知縣知事	篠原英太郎		
滋賀縣知事	村地信夫		
宮城縣知事	井野次郎		
青森縣知事	小林光政		
福井縣知事	近藤駿介		
鳥取縣知事	中谷秀		
岡山縣知事	鈴木敬一		
廣島縣知事			

山口縣知事　菊山嘉男
高知縣知事　泊　武治
香川縣知事　藤野　惠
沖繩縣知事　藏　重久
宮崎縣知事　三島誠也
合同電氣株式會社長　太田光熙

顧問

三重縣會議員　早川俊一
同　中村治三郎
同　佐藤邦則
同　岡　惠
同　片岡恒一
同　大井幸太郎
同　小西利雄
同　國府重周
同　小間切重三郎

和歌山縣知事　藤岡長和
佐賀縣知事　古川信夫
福岡縣知事　畑山四男美
愛媛縣知事　大場鑑次郎
臺灣總督府殖產局長　中瀨拙夫
大阪電氣軌道社長參宮急行電鐵社長　金森又一郎

同　杉本英一
同　西田常藏
同　松本一郎
同　長井源
同　森　松次郎
同　土屋忠
同　田村稔
同　永井久兵衛
同　堀川茂三

德島縣知事　戶塚九一郎
鹿兒島縣知事　早川三郎
熊本縣知事　關屋延之助
大分縣知事　田口易之
朝鮮總督府殖產局長　穗積眞六郎

大野作右衛門
山本重次郎
岩名秀松
馬岡次郎
稻垣專八
石原圓吉
後藤善之助
平井茂八郎
宮田小右衛門

同　濱地文平
同　水谷昇
同　谷川儀市
同　岡山勝藏
大阪府經濟部長　羽生雅則
長崎縣經濟部長　梁井淳二
群馬縣經濟部長　杉澤龍雄
栃木縣經濟部長　辻山治平
三重縣經濟部長　石建國次郎
滋賀縣經濟部長　鈴木修藏
宮城縣經濟部長　堀口功
岩手縣經濟部長　小山知一
石川縣經濟部長　末原貫一郎
富山縣經濟部長　松岡四郎
和歌山縣經濟部長　廣田增太郎
德島縣經濟部長　工藤鐵太郎

同　三谷祇賀
同　稻垣勘四郎
同　小龜衛一
東京府經濟部長　佐々木芳遠
神奈川縣經濟部長　大津敏男
新潟縣經濟部長　松崎陽一
千葉縣經濟部長　坂井貞一
奈良縣經濟部長　阪　信彌
靜岡縣經濟部長　多湖實夫
岐阜縣經濟部長　田中進
廣島縣經濟部長　櫻井安右衛門
秋田縣經濟部長　宮腰參三
福井縣經濟部長　柳井義男
岡山縣經濟部長　郡山美夫
山口縣經濟部長　川井章知
高知縣經濟部長　渡邊宏

同　阿竹齊次郎
同　富永貞英
同　濱口吉五郎
京都府經濟部長　鈴木登
兵庫縣經濟部長　副見喬雄
埼玉縣經濟部長　遠山信一郎
茨城縣經濟部長　柴山博
愛知縣經濟部長　松崎謙二郎
山梨縣經濟部長　中川剛毅
長野縣經濟部長　三好重夫
福島縣經濟部長　桑原幹根
山形縣經濟部長　田村浩
鳥取縣經濟部長　篠山千之
島根縣經濟部長　崎田義雄
香川縣經濟部長　曾我梶松
愛媛縣經濟部長　久保田畯

大分縣經濟部長　石原專一
佐賀縣經濟部長　桃井眞美
沖繩縣經濟部長　武阪隆一
朝鮮總督府商工課長　堂本貞一
三重縣前學務部長　甲斐莊正顯
大阪市長　加々美武夫
神戶市長　勝田銀次郎
長崎市長　笹井幸一郎
前橋市長　江原桂三郎
宇都宮市長　河合長藏
甲府市長　新海榮治
岐阜市長　松尾國臣
仙臺市長　澁谷德三郎
青森市長　加賀秀雄
福井市長　大月齊庵
鳥取市長　楠城嘉一

福岡縣經濟部長　土居章平
鹿兒島縣經濟部長　大野季夫
北海道經濟部長　奧野定八
朝鮮總督府商工獎勵館長　菅原喜錄
東京市長　牛塚虎太郎
橫濱市長　青木周三
名古屋市長　大岩勇夫
新潟市長　小柳牧衛
千葉市長　永井準一郎
奈良市長　石原善三郎
濱松市長　橫光吉規
大垣市長　東島卯八
福島市長　佐藤澤
山形市長　大沼保吉
金澤市長　片岡安
松江市長　石倉俊寬

熊本縣經濟部長　松島源造
宮崎縣經濟部長　中村良三
朝鮮總督府地方課長　西岡芳次郎
三重縣警察部長　松原久人
京都市長　淺山富之助
堺市長　河盛安之助
豐橋市長　神戶小三郎
浦和市長　高橋泰雄
水戶市長　中崎俊秀
靜岡市長　菅貞二
大津市長　堀田義次郎
長野市長代理　高野忠衛
盛岡市長　大矢馬太郎
秋田市長　鈴木安孝
富山市長　野村嘉六
岡山市長　石原市三郎

廣島市長　橫山金太郎
山口市長代理助役　小野正助
高松市長　富家政市
丸龜市長　大栢清三郎
久留米市長　石野斐夫
熊本市長　山隈康
小倉市長　百濟文輔
別府市長　平山茂八郎
宇治山田市長代理四日市商工會議所頭　鎌田千代之助
東京市　同　伊藤傳七
堺市　同　鄉誠之助
新潟市　同　辻本豐三郎
宇都宮市　同　白勢量作
靜岡市　同　上野順一
大津市　同　甲賀菊太郎
西田利七

下關市長　松井信助
和歌山市長　渡邊行太郎
松山市長　井上久吉
福岡市長　久世庸夫
門司市長　後藤多喜藏
宮崎市長職務管掌　眞崎長年
福山市長　中野有光
津市元助役　落合光造
松阪市長　小出三郎
宇治山田市商工會議所頭　河村清兵衛
大阪市　同　森平兵衛
神戶市　同　岡崎忠雄
前橋市　同　勝山益太郎
名古屋市　同　岡谷惣助
濱松市　同　鈴木幸作
岐阜市　同　河崎助太郎

吳市長代理　溝邊速雄
德島市長　藤岡直兵衛
高知市長　村上清
大分市長　朝吹龜三
佐賀市長　橫尾敬義
鹿兒島市長　岩元禧
尾道市長　奧山源三郎
四日市市長　吉田勝太郎
津商工會議所頭　田中林助
京都市　同　田中博
橫濱市　同　有吉忠一
長崎市　同　脇山啓次郎
水戶市　同　江幡新
豐橋市　同　神野三郎
甲府市　同　細田武雄
大垣市　同　戶田銑之助

長野市 同 田中彌助
山形市 同 蜂屋五郎兵衛
金澤市 同 中島德太郎
松江市 同 加納傳右衛門
吳 市 同 三宅清一郎
德島市 同 玉田彌伊太
高知市 同 野村茂久馬
小倉市 同 丸橋清平
熊本市 同 中山造酒夫
京都府出品協會長 八木伊三郎
奈良縣實業聯合會長 木本源吉
島根縣 同 吉岡三郎
和歌山縣同 葦原秀國
佐賀縣 同 大澤雄一
群馬縣 同 松村弘
別府市殖產館長 姬野武一

福島市 同 油井德藏
秋田市 同 辻兵吉
富山市 同 金岡又左衛門
岡山市 同 山上岩二
中部幾次郎
細渡宗次郎
石橋德次郎
高田保
日高三郎
上地萬太郎
西村平間
根尾謙兒
矢野恕
藤村彥四郎
早阪冬男
梨谷了祐

滋賀縣物產販賣斡旋所長 橫田秀次
愛知縣商品陳列所長 菅原省三
愛媛縣 同 日吉義雄
石川縣 同 青木外吉
福岡縣 同 平敏孝
山形縣物產紹介所長 東鄉一郎
廣島縣產業獎勵館長 峰松眞三郎

盛岡市 同 加勢清雄
福井市 同 市橋保次郎
鳥取市 同 萬井源太郎
廣島市 同 山縣元兵衛
和歌山市同 前田辰之助
松山市 同 石原操
門司市 同 出光佐三
佐賀市 同 吉村吉郎
鹿兒島市同 久米田新太郎
岐阜縣 同
香川縣 同
福井縣商品陳列所長
東京府商工獎勵館長
靜岡市 同
新潟縣 同
宮城縣商品陳列所長

濱松市 同 山崎正義
高知縣 同 持永祐宣
秋田縣物產館長 鈴木成夫
三重縣經濟更生課長商工課長 野島善之助
同 農務課長 多田雄次郎
同 庶務課長 高橋信藏
同 土木課長 上井兼吉
同 社寺兵事課長 鈴木宗二
同 保安課長 大川大之助
同 刑事課長 永井昇平
同 種苗場長 山根直正
同 工業試驗場長 熊田健一
同 農會副會長 宇佐美祐次
津聯隊區司令官 南雲親一郎
大阪電氣軌道參宮急行電鐵專務 井內彥四郎
同 營業部長 橫山元一郎

富山市 同 磯野富之助
岩手縣 同 八島三郎
北海道廳同 佐藤坦
同 蠶糸課長 山口彌太郎
同 水產課長 廣木三郎
同 文書課長 岸本由岳
同 耕地整理課長 大屋貞雄
同 社會課長工場課長 織田習
同 警務課長 大森寬
同 秘書課長 今井良次郎
同 水產場長 河村兵三
同 窯業試驗場長 安田要雄
同 某業組合聯合會長 小森久郎
大阪鐵道局湊町運輸事務所長 田野石郎
同 支配人 越山均之助
大阪電氣軌道株式會社專務取締役 種田虎雄

栃木縣 同 大和田實
鳥取縣 同 長沼喬太
三重縣商工獎勵館長 長屋利藏
同 林務課長 橫山長藏
同 地方課長 渡邊男三郎
同 統計課長 村田勝之助
同 教育課長 森本雅雄
同 衛生課長 山本憲一
同 特高課長 伊藤正良
同 會計課長 長尾菊雄
同 農事試驗場長 中村義雄
同 釀業試驗場長 田邊德
同 酒造組合聯合會長 福持善之亟
名古屋鐵道局名古屋運輸事務所長 森肇
同 總務部長 三好萬次
伊勢電氣鐵道株式會社專務取締役 半田貢

松阪電氣鐵道株式會社社長　安保庸三

評議員

上野警察署長　石井茂平
參急營業所主任　上野町　江崎修
同　長田村長　南出次郎
同　三田村長　岡村德藏
同　河合村長　百田九郎兵衛
同　東柘植村長　藤島亮吉
同　山田村長　渡邊熊太郎
同　友生村長　池澤宗則
名賀郡藏持村長　松山七三
同　瀧川村長　吉住健
同　國津村長　芝幸太郎
同　阿保町長　島岡衛
同　猪田村長　沖島房之助
同　神戶村長　福井安之助
上野郵便局長　佐藤房市
阿山郡小田村長　竹澤新吉
同　島ヶ原村長　吉川寅之助
同　丸柱村長　增田俊三
同　鞆田村長　川合德藏
同　西柘植村長　山崎次郎
同　阿波村長　富野惣助
同　中瀨村長　荒木甚吉
同　薦原村長　森本安太郎
同　箕曲村長　森田源太郎
同　上津村長　淺野高海
同　花垣村長　月井傳次郎
同　古山村長　前田保藏
同　比自岐村長　前川定次郎
同　種生村長　西田繁義
伊賀上野驛長　小林由太郎
同　花之木村長　西口熊雄
同　新居村長　西田定次郎
同　府中村長　松山英太郎
同　玉瀧村長　瀧島保之助
同　壬生野村長　澤盛雄
同　布引村長　廣田藤吉
名賀郡名張町長　上野芳松
同　錦生村長　田中源之助
同　比奈知村長　川崎戀
同　矢持村長　關田義臣
同　依那古村長代理助役　中岡一雄
同美濃波多村長　川浪良三

蠶業試驗場阿山支場長　高瀨公之
西桑名町長　松本長藏
四日市々助役　加藤信太郎
津市助役　田中幸一郎
鳥羽町長　辻本甚助
桑名町助役　奧山米次郎
富洲原町助役　竹岡喜助
龜山町助役　冬柴幸太郎
宇治山田市主事　永澄節
桑名町勸業課長　廣瀨好三
同　水產課　佐々木佳之
同　蠶糸課　大呑稔一
同　農事試驗場　秋山大介
同　工業試驗場　岡尾嘉美
同　農會　廣瀨幸太郎
同　步兵少佐　渡邊網彥
朝鮮總督府博覽會主任　星子敏輝
富田町長　大野作左衛門
神戶町長　瓜生精一
久居町長　大井順之助
尾鷲町長　濱田正平
西桑名町助役　水谷傳兵衛
四日市々主事　蓑浦二郎
津市主事　更家幸次郎
鳥羽町助役　井本茂兵衛
三重縣廳農務課　名倉幸男
三重縣廳　山下菊次郎
同　林務課　日下部祐太郎
同　水產試驗場　山下武男
同　水產會山林會　速水健次郎
津聯隊區司令部步兵中佐　柳澤早太
同　步兵少佐　大西小四郎
桑名町長　貝塚榮之助
富洲原町長　安達松次郎
龜山町長　滋野捨四郎
松阪市助役　長谷川勘四郎
名張町助役　竹原茂太郎
富田町助役　中川稔
神戶町助役　兼松謙三
久居町助役　上野三郎
尾鷲町助役　岡耕之
同　國津武雄
同　經濟更生課　田崎忠義
同　農事試驗場　田口武之助
同　工業試驗場　伊藤眞吾
同　農會幹事　大橋克
同　步兵中佐　藤田正直
舍同電氣株式會社上野營業所長　木村博

參急宇治山田運輸事務所長	吉田榮太郎	大軌參急運輸部主事	後藤種吉	大軌參急營業副部長	片山靖二
同 運輸副部長	三木弁次	志摩電鐵支配人	今川丈之助	松阪電鐵支配人	船谷重郎
伊勢電鐵營業課長	平尾鯛市郎	湊町運輸事務所旅客主任	道盛吉之助	同 營業主任	川原道正
名古屋 同	唐澤薫	同 旅客主任	深澤孝喜	三重縣醬油同業組合長	河村清兵衛
松阪織物同業組合長	後藤修	山田漆器同業組合長	宮崎一雄	伊勢瓦工業組合長	前田乙次郎
伊賀莚叺同業組合長	前澤長太郎	伊勢タオル工業組合理事長	森田庄三郎	日本アイロン工業組合理事長	山本重治郎
三重輸出鑄物工業組合理事長	山本重治郎	伊勢醬油工業組合	後藤仁兵衛	上野信用組合常務理事前上野町助役	杉森万之輔
元町會議員	吉岡健三郎	同	木津平一郎	同	星武兵衛
同	城戸操	同	菊山種男	同	中村伊左衛門
同	中井仁藏	同	筒井丈夫	同	大西留次郎
同	阪森濱郎	前上野信用組合組合長	山川金市郎	元町會議員	米田傳三郎
前町總代	籔內燕次郎	在鄕軍人會上野聯合分會第一分會長	菊野松次郎	同 第二分會長	竹內俊雄
仝 第三分會長	堀川保藏	上野町青年團長	樽井伊一郎	上野町婦人會長	菅野きよ子

理事

○印常任理事

町會議員	○伊室平四郎	同	○石川吉藏	同	○早瀨安太郎

同	○奥田奈良太郎	同	○岡本音吉	同	○奥村勇
同	⊙片山龜太郎	同	○葭葉正之助	同	○竹內直吉
同	○中林正三	同	○村治圓次郎	同	○內田喜代藏
同	○上島太助	同	○山出精平	同	○增田鹿次郎
同	○福田長治	同	○福林源次郎	同	○北川菊松
同	○北泉清	同	○菊山正太郎	同	○三谷清吉
同	○箕部喜三郎	同	○廣榮太郎	同	○平井庄吉
町總代	須川米吉	同	柴田隆吉	同	越知清次郎
同	○福岡宗之助	同	今鷹熊次郎	同	武田熊吉
同	○中山喜一	同	奥井金重郎	同	○濱邊喜八
同	清水橘郎	同	○房川綾之助	同	福山治兵衛
同	安屋喜內	同	宮崎慶吉	同	山岡清助
同	西久保六右工門	同	山口貞助	同	竹岡喜三郎
同	高田佶	同	永尾丑之助	同	中森鐵次郎
同	○寺村金之助	同	○日野雄吉	同	南出吉男
同	中尾峻	同	○松本鹿治	同	箸尾敬之助

同　高橋正美
同　西口龜次郎
同　橋本猪之助
同　佐田駒之助
同　淵田千太郎
同　○幸阪兼次郎
同　○一力祥藏
同　○南出金助
同　○山本良顯

委員

桑名町書記郡　義寛
富田町書記金森德一
四日市々書記諸岡保太郎
龜山町書記豊田甚太郎
神戸町書記金信政次
久居町書記白井常義

同　○杉森勇吉
同　中垣內與一郎
同　幸阪梅吉
同　野間直次郎
同　○松浦猪之助
同　○谷口正雄
同　○松岡藤次郎
同　○英　正太郎
同　○入交駿藏

同　服部佐助
同　耕田德松
同　大窪皓二
同　荒木安太郎
同　○片岡喜一郎
同　○菅野八郎兵衛
同　○福田金治
同　○木津巳之助
同　○佐賀伊太郎

同　伊藤忠太郎
同　鈴木傳祐
同　山本雄亮
同　廣生正紀
同　小西正香
同　谷　嘉三郎

西桑名町主事　黑田信一
四日市市主事　酒井保興
同　成川榮一
龜山町書記　安田房次郎
同　近藤治太郎
松阪市書記　伊藤清助

同　加藤勝太郎
同　皆川彌壽男

三重縣廳庶務課　加藤誠一
同　農務課阿部　登
同　林務課伊藤　晃
同　蠶糸課竹澤嘉十郎
同　服部謹藏
同　商工課谷川定則
縣　農　會喜田川松三郎
工業試驗場位田清四郎
水產試驗場林　雅一
鈴鹿郡園體事務所主事米川良弼
大軌參急宣傳係長中村勇次郎
同　小屋亥三雄
同　旅客係長伊部　昇
同　土井利四郎

同　宇治山田市書記近藤壽喜男
名張町書記谷口莊三郎
同　農務課葛原　格
同　社寺兵事課須川六藏
同　横山　清
同　西岡光太郎
同　經濟更生課宮本長輝
同　水產課大川　久
縣　山林會青木六彌
同　近藤經國
農事試驗場鈴木覺藏
南牟婁支廳濱田春吉
大軌參急遊園地係長藤井武男
同　柏原庄一郎
同　濱島久吉
同　家村彌一郎

參急宇治山田運輸事務所囑託　佐藤憲治
大軌參急宣傳係　村上昭房
同　西口春雄
同　旅客係田中有道
參急伊賀線上野營業所　柘植滿雄

室生自動車株式會社常務取締役　松平一雄　津乘合自動車株式會社支配人　富澤淳
宇治山田市神都自動車株式會社内神都觀光協會理事　野口藤太　外町委員五百十三名省略

3 審議機關

本會の審議機關は理事を以て之に充てた。即ち理事は町會議員、町大字惣代、商工會幹事等町に於て重要の職務にある人たり、此の理事によつて本會開設の根本的重要問題を始め隨時必要に應じて諸般の事項を審議することにしたのであるが、事務廣汎に亘り全般を通じて一々各理事に附議すること困難であり、且つ事務の澁滯を來すことを考慮して常任理事の制度を設け、常任理事を庶務、出品、宣傳接待、工營、經理、警備衛生の六部に分ち各部に主任及副主任を置いて夫々所管事項を掌らしめ常に相互連絡をはかるため、常任理事總會或は主任聯合會を開き萬遺憾なきを期した。

常任理事職務分掌左の通り

庶務部主任　菊山正太郎
同　村治圓次郎
同　早瀨安太郎
同　南出金助
出品部主任　中林正三
同　岡本音吉
同　副主任　奥田奈良太郎
同　箕部喜三郎
同　松本鹿治
同　副主任　房川綾之助
同　福田長治

同　杉森勇吉
同　菅野八郎兵衛
同　伊室平四郎
同　一力祥藏
工營部主任　竹内直吉
同　片山龜太郎
同　平井庄吉
同　松浦猪之助
宣傳接待餘興部主任　廣榮太郎
同　山出精平
同　籔内燕次郎
同　片岡喜一郎
經理部主任　上島太助
同　福岡宗之助
同　中山喜一
同　佐賀伊太郎
同　木津巳之助
同　濱邊喜八
同　松岡藤次郎
同　副主任　福林源次郎
同　葭葉正之助
同　寺村金之助
同　山本良顯
同　副主任　北泉清
同　三谷清吉
同　谷口正雄
同　幸阪兼次郎
同　副主任　奥村勇
同　英正太郎
同　入交駿藏

警備衛生部主任　北川菊松
同　増田鹿次郎
同　日野雄吉

4 執行機關

本會事務は當初、町勸業課に於てその下準備を進めつゝあつたが、別記の如く昭和十年四月本會の正式成立と同時に專任事務員を任命していよ〳〵本格的準備に着手し、六月六日萩史蹟博覽會事務長だつた伊藤景介氏本會事務長に着任し事務員を增加し出品の勸誘、宣傳、工營等々山積せる事務を晝夜兼行の努力をもつて處理し、開會中は町吏員擧げて本會事務に從事し多岐廣汎の激務に支障なからしめたのであつた。

事務局事務分擔（以下人名は其重なるものゝみ）

一、庶務部
町書記　大井重治　町書記　山中九万司　事務員　北野晟一
事務員　與島儀三部　事務員　井上貞子　中市省義

一、出品部
町書記　米島利助　町書記　福越鉄藏　事務員　北脇隆男
事務員　寺戸俊男　農會技手　橋本養男　町書記　馬場淺右衛門
町書記　瀧山泰一　町書記　杉尾萬次郎　町書記　長井辰藏

町書記補　若杉正二

一、宣傳接待餘興部
町書記　相樂久藏　町書記補　大久保秀忠　事務員　水口治
（兼）町書記　米島利助　事務員　藤山市三　雇　花園治
事務員　中島啓之典

一、工營部
町書記　加藤增男　町書記補　平田益藏　囑託　安孫子隆
一、經理部
町書記　北川歳男　雇　佐々木綱一　（兼）事務員　北野晟一
一、警備衛生部
町書記　奥井金重郎　町書記　松本秀夫　町書記補　今鷹和
書記　其道美知郎

5 事務局

本會事務局は、當初町役場内に設けたが事務繁劇を加へ且つ會場地を距つことの不便を痛感したので、七月三十日公園内公會堂に移轉しさらに會場の内外連絡に最も便利な改札口下横手に新築された清洒な事務局の完成を俟つて九月廿八日引移り萬般の陣容を整へた。

第三章　會　場

第一節　會場の選定と工營

博覽會最大の必須條件は會場の選定にある、幸ひにして本博は近畿東海に規模の宏壯と優れた景趣を誇る舌城址白鳳公園三萬坪を巧みに利用することを得、しかも桃山期築城方式の豪壯華麗をそのまゝに復興された昭和の名城を中軸として會場配備を整へたことゝ天候に惠まれたことなどが如何に大きな强味となつたかは稀に見る大成功を收め得た結果によつて自ら首肯される。

會場建造物設計の一切は工營部常任理事の合議によつて行はれたものでその殆んどは一時的假建築だつたことは他の博覽會と變りがないが、たゞ鄉土產業館、國產振興館に當時建築中だつた町立上野商業學校々舍をまた國防館には公會堂を充てたほか歷史館の大半は町營弓道場として永久存置の目的で新築したものである。

しかして會場建築工事は着手以來雨天續きにて工程豫期の如く進行を見ず、加ふるに一部特設館の位置決定困難などの支障を生じたゝめ一時は豫定の開館を危ぶまれた程であつたが工營部委員諸氏が必死の督勵により晝夜兼行をもつて工程を進め幸ひに豫定期日に開館を見ることを得たのである。

第二節　建物位置の概要

別揭配置圖に示す如く丸之內通り舊大名小路（學校前道路）白鳳公園入口に正門を設け舊大手城門址には改札口を

右手の公會堂を國防館に充て、東高臺には朝鮮館、滿洲館、朝日新聞館などを特設、御大典記念の萬歲館は迎賓館とし、文化產業城下廣場には美術館、觀光館、臺灣館、野外演藝場、ラヂオ塔、寫眞館、每日新聞館などを配し、そこから北へ石段を下つて左折した濠端には遞信館、ラヂオ館、電氣館を次いでその北方には花卉園藝即賣場、農林機械館、發明品實演館、東公園には產業本館と歷史館及び本會施設外の賣店食堂などを配置し以上を第一會場とした。第二會場は舊二の丸跡に新築の町立商業學校々舍を中心として經營され堀割りの縣道上野停車場線上には朱塗の跨橋白鳳橋（路面より高さ三十尺）を架設して第一會場とを繫ぎ觀覽者の心氣を新たにすることにつとめた。そして第二會場には上野館、國產振興館の外菊人形演藝館、海女館、サーカス館などを特設して歡樂境たらしめた、また事務局は會場內外連絡に最も便利な改札口の脇に、警備員詰所は改札口の左手に郵便局臨時出張所は公會堂廣場に設けたのである。

第三節　主要工營物

本會の工營にかゝる主要建造物は前節に記述せる通りであるが、以下工事設計仕樣の概要を誌す。

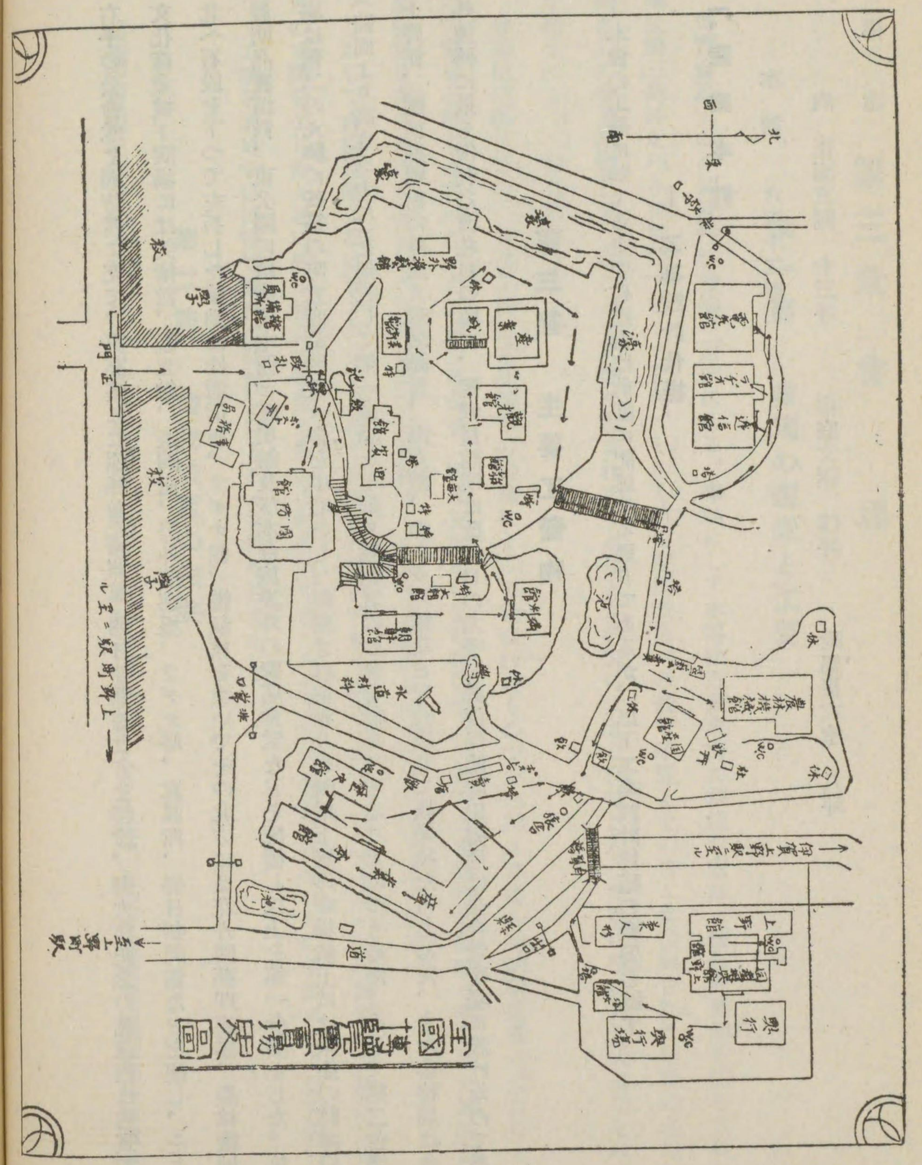
一、工事設計仕樣

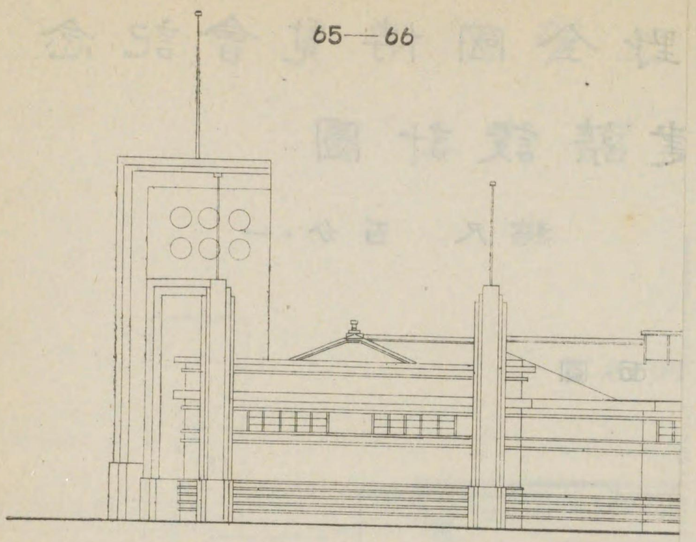
一、產業本館

本館　六百十二坪

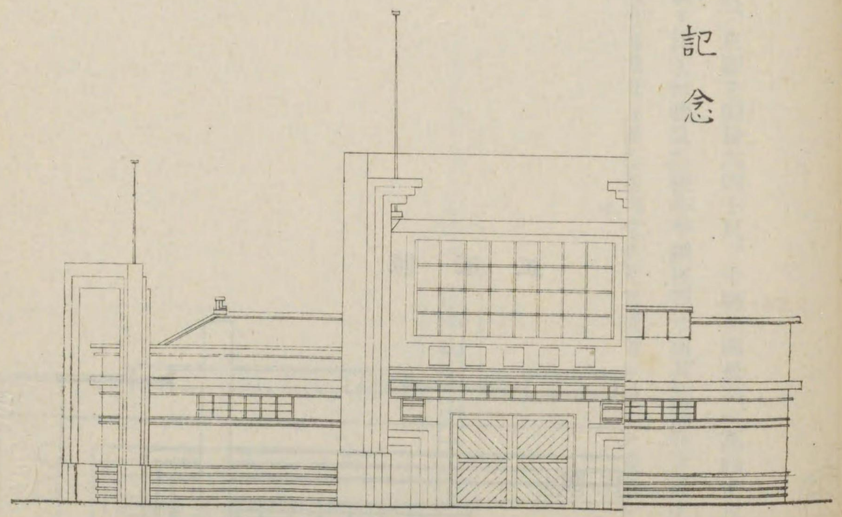
內　正面玄關　十三坪　　中庭玄關　四坪

構造　　附屬更衣室　八坪





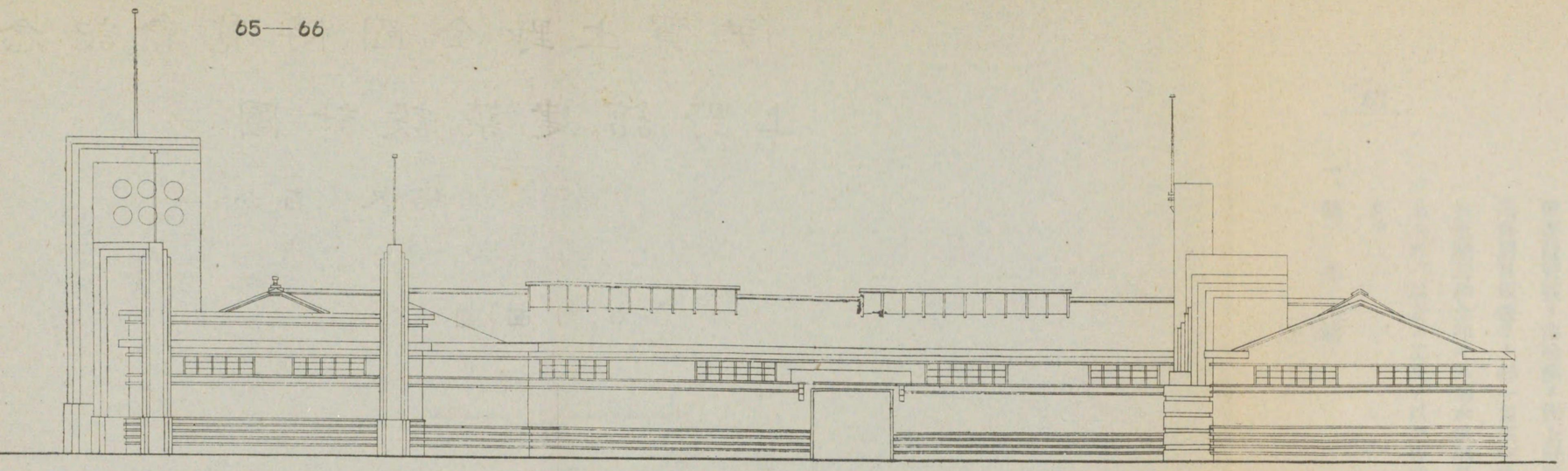
伊賀上野文化産業城落成記念



正面大玄関

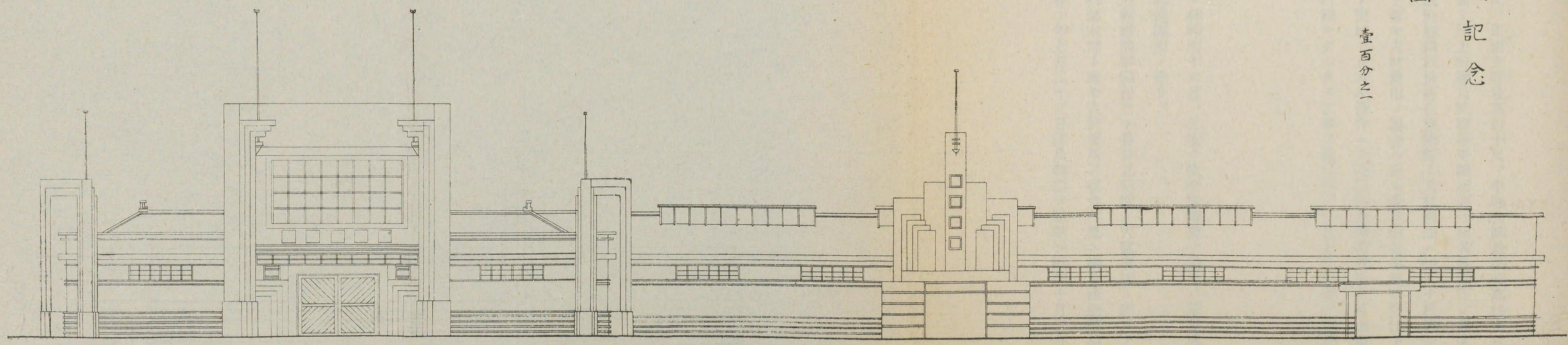
伊賀上野文化産業城落成記念
全國博覽會本館設計圖

縮尺　壹百分之一



中庭出入口

右側面姿圖



正面大玄關

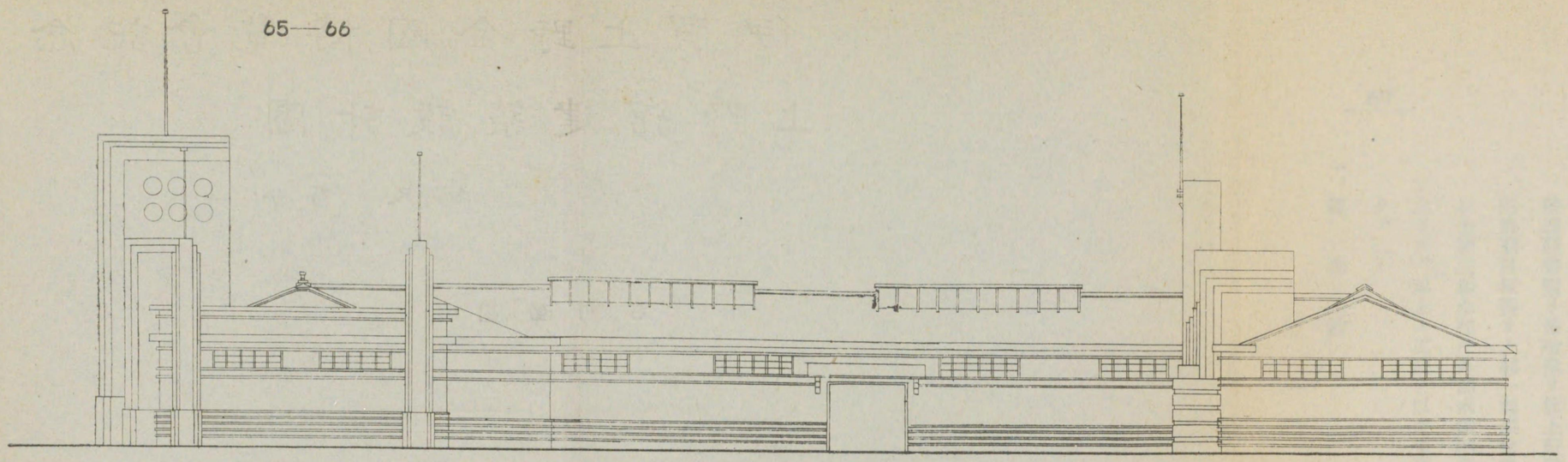
中庭中央出入口

正面姿圖

65—66

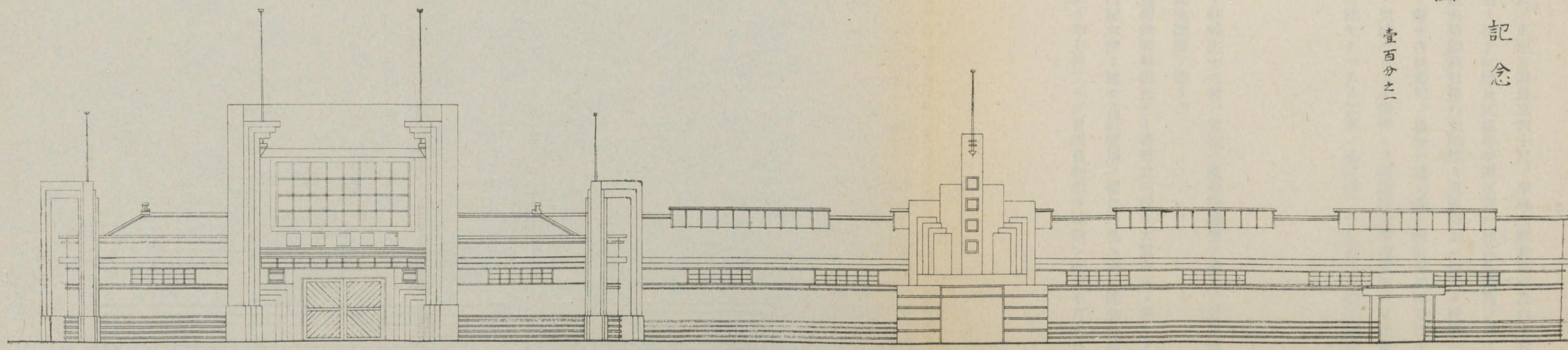
伊賀上野文化産業城落成記念全國博覽會本館設計圖

縮尺 壹百分之一



中庭出入口

右側面姿圖



正面大玄關

中庭中央出入口

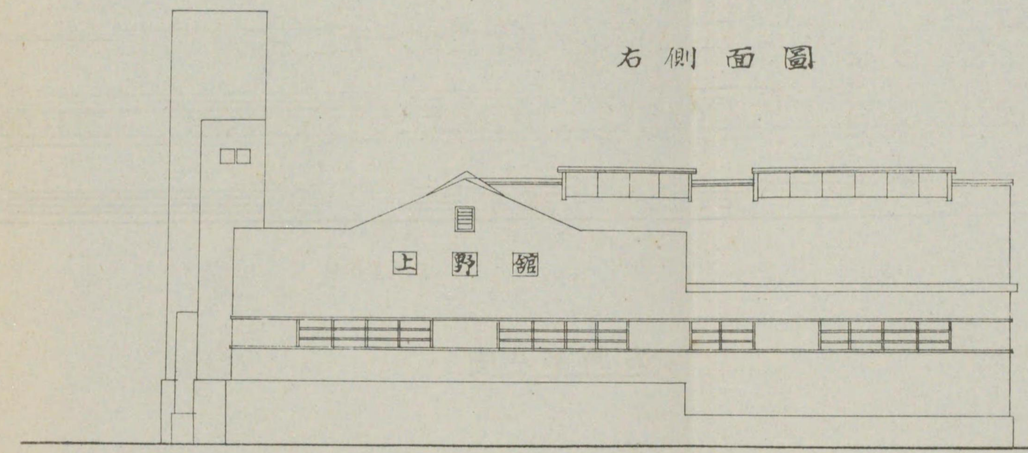
正面姿圖

伊賀上野全國博覽會記念

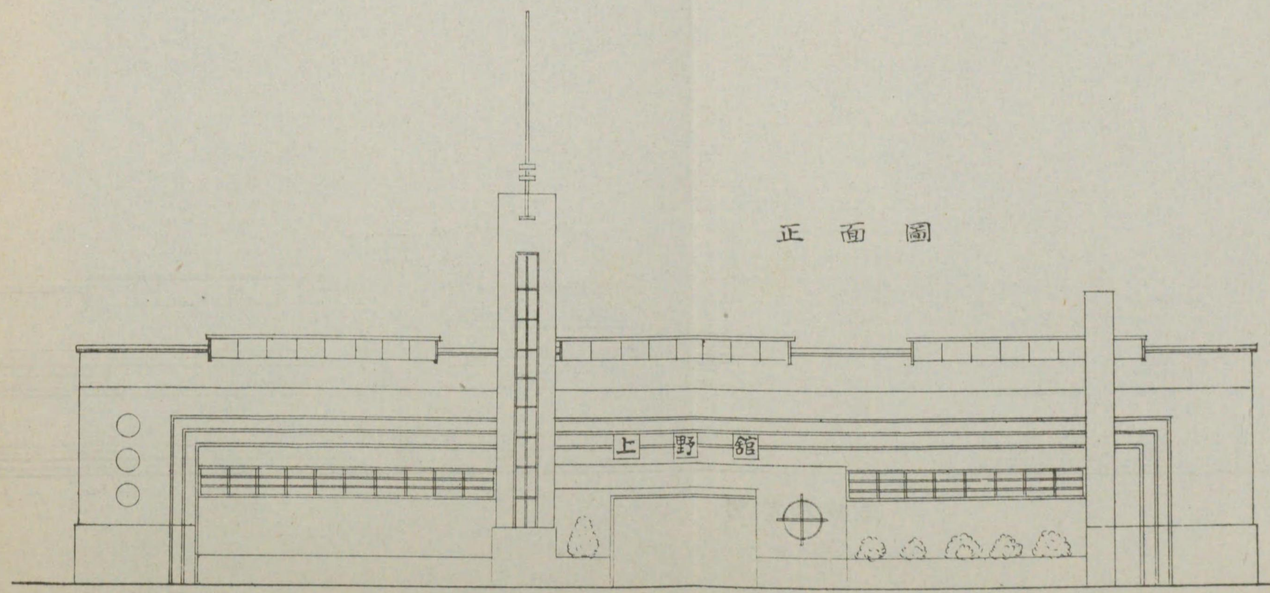
上野館建築設計圖

縮尺　百分ノ一

右側面圖



正面圖



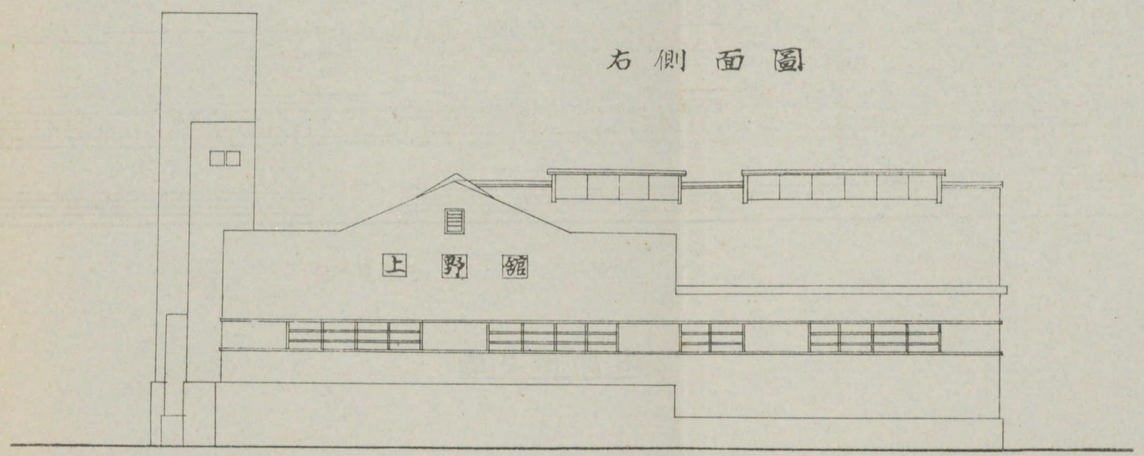
木造平家建軒高本館十六尺正面バラペット上端迄一
十尺、正面玄關最高四十尺、中庭玄關最高軒高四十尺、其他

伊賀上野全國博覽會記念

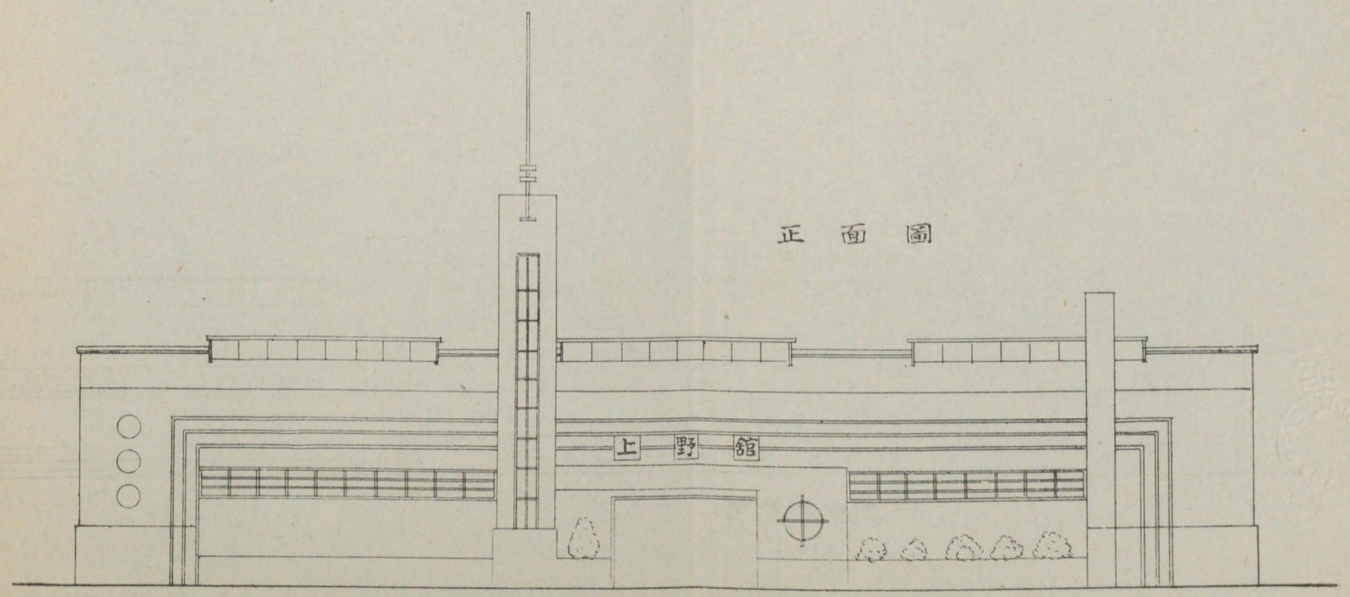
上野館建築設計圖

縮尺　百分ノ一

右側面圖



正面圖



木造平家建軒高本館十六尺正面バラペツト上端迄二十尺、正面玄關最高四十尺、中庭玄關最高軒高四十尺、其他寸法別紙圖面ノ通リ、基礎堀建外部壁面葭簀張リ漆喰塗リ仕上軒樋及蛇腹等平鐵板製寸面其他圖面ノ通リ。

內部羽目板張リ上部漆喰塗仕上屋根板割張立ノ上亞鉛鍍浪形鐵板卅番葺立明採リ天窓圖面ニ倣ヒテ設備シ土間三和土叩キ外部木鐵部見ヱ掛リ面ペンキ塗仕上內部木部ト雖モ古材使用ノ場合ハ見ヱ掛リ面全部胡粉塗仕上トス。

以上ノ工法ヲ以テ昭和十年九月二十五日迄ニ建築工事ヲ完成セシムル條件ニテ石川縣金澤市長町八日市屋清太郎ト昭和十年七月二十三日請負契約ヲ締結シタルモ雨天打續キタルタメ工事ノ進行遲レ十月五日ニ竣工ヲ見タ。

一、農林機械館

本館　百二十坪　玄關　七坪

構造

木造平家建軒高バラペツト最高三十五尺、其他地盤ヨリ軒峠迄十六尺、其他寸法別紙圖面ノ通リ、基礎堀建外部壁面葭簀張リ漆喰塗リ仕上軒樋及蛇腹等平鐵板製寸面其他圖面ノ通リ。

內部羽目板張リ上部一部漆喰塗仕上屋根板割張立ノ上亞鉛鍍浪形鐵板三十番葺立明採リ天窓圖面ニ倣ヒテ設備ナシ土間三和土叩キ外部木鐵部見ヱ掛リ面ペンキ塗仕上內部木部ト雖モ古材使用ノ場合ハ見ヱ掛リ面全部胡粉塗仕上トス。以上ノ工法ヲ以テ金澤市八日市屋清太郎ト昭和十年七月二十三日請負契約ヲ締結シ同年十月三日竣工シタ。

一、觀光館

梁行　七間　　桁行延長　十八間

此建坪　百二十六坪

構造

木造平家建最高バラペット軒高四十尺、其他地盤ヨリ軒桁峠迄十六尺、其他寸法別紙圖面ノ通リ、基礎堀建外部壁面葭簀張リ漆喰塗リ仕上軒樋及蛇腹等平鐵板製寸面其他圖面ノ通リ。

内部羽目板張リ上部一部漆喰塗上屋根板割張立ノ上亞鉛渡浪形鐵板三十番葺立明採リ天窓圖面ニ倣ヒテ設備ナシ土間三和土叩キ外部木鐵部見エ掛リ面ペンキ塗仕上内部木部ト雖モ古材使用ノ場合ハ見エ掛リ面全部胡粉塗仕上トス。

一、美術館

梁行　四間五分及五間　　桁行　十間

此建坪　四十七坪五合

構造

木造平家建軒高バラペット最高三十尺及二十尺、其他地盤ヨリ軒峠迄十六尺、其他寸法別紙圖面ノ通リ、基礎堀建外部壁面葭簀張リ漆喰塗リ仕上軒樋及蛇腹等平鐵板製寸面其他圖面ノ通リ。

内部羽目板張リ上部一部漆喰塗仕上屋根板割張立ノ上亞鉛渡浪形鐵板三十番葺立明採リ天窓圖面ニ倣ヒテ設備ナシ土間三和土叩キ外部木鐵部見エ掛リ面ペンキ塗仕上内部木部ト雖モ古材使用ノ場合ハ見エ掛リ面全部胡粉塗仕上トス。

一、歴史館（二棟）

梁行　四間　　桁行　十七間　　梁行　七間　　桁行　十間

此建坪　百三十八坪

構造

本館ノ一部梁行三間、桁行十七間ハ閉館後弓場トシテ永久存置スルモノニシテ之レニ梁行六尺ノ建増シヲ施シ更ニ梁行七間桁行十間ヲ鍵ノ手形ニ接續建築シタルモノニシテ弓場トシテ存置スル部分ハ木造瓦葺ニナスノ外構造他ニ變リナシ。

一、鄉土（上野）館

一、國産振興館

町立商業學校々舍二百三十九坪五合ヲ使用ニ付正面ト左側外部裝飾ヲ施シタノミ。

一、電氣館

梁行　六間　　桁行　十四間

此建坪　八十四坪

構造

木造平家建軒高バラペット最高四十尺、其他地盤ヨリ軒峠迄十六尺。

一、遞信ラヂオ館

梁行　七間　桁行　十四間

此建坪　九十八坪　外玄關二坪五合

構　造

木造平家建軒高バラペツト最高四十尺、其他地盤ヨリ軒峠迄十六尺。

其他構造電氣館ト共ニ他ノ各館ト大差ナシ。

一、正　門

梁間庇ニテ一間　桁行十一間三分　テケツ梁間九尺

此建坪　十三坪

構　造

基礎堀建根入六尺、塔屋高五十尺、旗竿最高七十尺、アーチ高十五尺、地盤ヨリ下端迄十尺。

外部漆喰塗仕上屋根平鐵板葺塔屋一部總ガラス張リ塔屋下部テケツ設備付木鐵部見エ掛面總體ペンキ塗仕上トス。

一、裏　門　一ケ所

構　造

基礎堀建塔屋高サ二十尺、スパン其他圖面ノ通リ、間柱一寸角骨組ノ上「シーチング」張寒天引ペンキ塗仕上トス、屋根ハ平鐵板葺足元五尺通リ杉六分板張リ外部見エ掛リ面全部ペンキ二回塗仕上トス。

一、改　札　口

庇梁間　二間五分　桁行　八間

此建坪　二十坪

構　造

基礎堀建軒高十三尺及八尺外部漆喰塗仕上最モ正面パラペツトハ「シーチング張」脊面杉六分板張リ外部木鐵部見エ掛リペンキ塗リ仕上トス。

以上正門裏門改札口ノ工事ハ東京市世田谷區上馬町安孫子隆氏之レヲ請負ヒ豫定ノ期日ニ竣工シタ。

一、警備員詰所

梁　間　三　間　桁行　七　間

此建坪　二十一坪

一、國　防　館

公會堂（利用）　百五十坪

增築分　梁行　四間　桁行　十一間及

梁行　一間　桁行　十一間

此建坪　五十四坪　計　二百四坪

外　海軍「マスト」高五十尺一基　陸軍「タンク」形入口

構　造

基礎堀建根入二尺五寸以上屋根浪形鐵板葺外部腰羽目板張り上部漆喰壁仕上。

内部天井布張在來建物側及梁間一間ノ增築部分ハ壁面共布張リノコト、土間三和土叩キ仕上トス。外部木鐵部見エ掛り面ペンキ塗仕上。マスト及タンク等ハ平鐵板張又ハ「シーチング」張仕上トス。

給水設備

會場敷地は小高き城山地帶なるため水利極めて不便にして當時工事中の上水道未だ成らず給水設備極めて困難なりしも在來井戸三ケ所と場外より補給した。

排水工

會場内の雨水は在來の道路側溝に依るの外各館毎に木樋を設けて内濠其他溝渠へ放水したのである。

一、事務局

事務局ハ當初萬歳館又ハ商業學校教室ノ一部ヲ以テ之レニ充ツル豫定ダツタガ事務室ノ狹隘ト會場内外連絡上ノ不便等ニテ何レモ事務局トシテ使用ニ適セズ一時公會堂ニ移リ七月三十日以來之レニ充當セシモ國防館工事ノ進行ニ伴ヒ執務益々不便ヲ感ズルニ至リシヲ以テ改札口ノ下横手ニ急遽新築スルコトニ決定シ八日市屋清太郎ニ請負ハシメテ九月二十八日竣工ヲ俟ツテ之レニ移轉シタ。

雜工事

一、郵便局臨時出張所

梁行　二間五分　桁行　五間　一棟

構　造

基礎堀建軒高桁峠迄十尺五寸、外部漆喰塗仕上屋根三十番浪形鐵板葺庇屋根平鐵板葺外部木鐵部見エ掛り面ペンキ塗仕上建具並ガラス嵌込ミノコト。

本工事ハ當町西之丸與中甚五郎氏請負ニテ昭和十年十月五日竣工シタ。

賣店工事

賣店は產業本館向つて右側に建設す。

本工事は東京市世田谷區上馬町安孫子隆氏之れを請負ひ十月八日竣功した。

自轉車置場

本會自營を以て會場入口附近へ自轉車預り所設置の議ありしも之れを止めたゝめ個人の經營にて會場裏門出口蛇池附近に其設置を見た。

會場周圍木柵工

會場は舊城山地帶なるを以て表口（南面）は高さ數丈の石垣を周らされ出入自由ならざるも裏手方面は取締上相當施設の必要あるを以て末口二寸五分以上長八尺の丸太を以て柵を設け十四番茨鐵線五段張り廻し通路以外の出入取締に遺憾なからしめた。

此延長七百五十間に及べり。

一般公衆便所

公園在來便所四ケ所の外周圍板圍ひ屋根は亞鉛引鐵板張の一時的便所七ケ所を建設した。

特設館

臺灣館、滿洲館、朝鮮館、大朝館、大每館、その他別工事の分は省略す。

第四章 出品勸誘

第一節 出品勸誘

一 文書勸誘

四月十日本博の開設が正式の決定を見るや、開期まで僅に半歲に足らぬ短日時だつたので當局では急遽諸般の準備に着手し、まづ第一着に左記の文書に開設要項、並に趣意書（第一項參照）を添へ全國各府縣知事、市長、商業會議所會頭、朝鮮、臺灣兩總督府、關係當局及主要都市商工會議所並に三重、滋賀、奈良三縣各町長、阿山名賀兩郡村長縣下郡農會長等へ出品依賴狀を發送したのであつた。

依賴狀

拜啓陽春の候愈々御淸祥の段奉慶賀候

陳者本年菊花薰る十月本町主催三重縣後援を以て別紙趣意書竝要項に依り伊賀文化產業城落成記念全國博覽會開催可致候就ては特に御贊同を仰ぎ貴地方より多數の御出品を得て本會開設の目的を達成致度候條何卒格別の御高配を賜り御贊助の上精々多數御出品相願候樣致度近日本會役員竝縣係員參趨萬々御願可申上豫定に候へ共不取敢本博覽會開設の儀御通知旁々此段御依賴申上候　敬具

昭和十年四月十日

伊賀文化產業城落成記念全國博覽會長

上野町長　田山八十吉

殿

2 出張勸誘

續いて各府縣市へ出品參加勸誘の爲め左記の如く六班に別れ各部署を定め關係當局を歷訪して極力勸誘に努めた。

班名	區域	出張員	日程
第一班	大阪府、京都府、滋賀縣、奈良縣、和歌山縣	堀川副會長 伊室常任理事 一瀨商工主事補	五月一日發同日歸着 五月三日發同日歸着 六月二十一日發六月二十八日歸着
第二班	四國一圓、島根、鳥取兩縣	中林常任理事 房川常任理事	五月六日發五月二十三日歸着
第三班	岡山縣、廣島縣、山口縣、朝鮮	長井縣屬 一瀨商工主事補	五月七日發五月十五日歸着
第四班	九州一圓		

第五班　愛知、岐阜、福井、石川、富山、長野、山梨各縣　中西縣屬　五月八日發
五月十七日歸着

第六班　東京府、神奈川、千葉、茨城、靜岡、埼玉、栃木各縣　瀧野縣屬　五月八日發
五月十七日歸着

以上分擔出張したる外伊藤事務長は七月十日より十四日間の豫定を以て靜岡、神奈川、埼玉、茨城、千葉、栃木、東京、群馬山形、秋田、新潟、長野、富山、石川、福井、各府縣（又中林常任理事は七月十八日より德島、山口、岡山、大分、福岡、熊本佐賀、鹿兒島へ一瀨商工主事補は七月廿六日滋賀縣へ出張勸誘し最後に伊藤事務長八月廿八日東北地方に出張九月十二日を以て歸着した。

第二節　全國主任者會議

出品其他事務に關し協議打合せを遂げることが出品團體との連絡を密接ならしめ會務進行上最緊要なる事と信じ昭和十年七月四日全國主任者會議開催の爲六月二十二日全國各府縣各市及主要都市商工會議所等約二百名へ招待狀を發し諸般の準備を進め第一回會議を豫定の如く之を行ふた。

第三節　縣下出品關係者協議會

全國主任者會議に次いで縣下出品關係者の協議會は豫定通り七月七日公園内公會堂で開催す。議案次の如し。

第一項　出品ニ關スル件

一、縣下ノ出品ハ三重縣館ヲ特設シ出陳致シタシ

二、縣下出品取纏メノコト

三、縣下出品人ニシテ特別出品トシテ館外ニ特殊建造物ヲ計劃サルル者ニ對シテハ本會ハ直接取扱ヲナス事アルヘシ
此場合ニハ直チニ其ノ旨關係主管課及商工課ニ通知スヘシ

四、個人ニ於テ直接出品申込アルトキハ本人ニ返付スルト共ニ之レガ主管課及商工課ニ其旨通知スヘキニ付改メテ各關係課ヲ經由セシメラレタシ

五、出品目錄用紙、解說書ハ各關係課及各産業團體ニ交付致スヘキニ付出品人ニ夫々配付アリタシ

第二項　出品勸誘ニ關スル件

一、本會ヨリハ曩ニ書面ヲ以テ産業團體及町村ニ出品ヲ依頼シ一部分ニハ出頭依頼シ置キタルモ小部分ニ過キサルヲ以テ特ニ縣ニ於テ御配慮相成リタシ

二、本會ハ多數特設館設置ヲ希望スルヲ以テ多額ナル特産物ヲ有スル團體大商店大會社、工場、名勝地、溫泉等ニ對シ特ニ御勸誘相煩シタシ

三、賣店ニ關シテモ右同樣勸誘相煩シタシ
但シ特別ノ事情アルモノヽ外出品者ニ限ル見込

第三項　陳列及小間割ニ關スル件

一、配列方法ハ品種別トスヘキカ地域別トスヘキカ

二、裝飾ハ全部同一トスヘキカ地域別トスヘキカ將又各個別トスヘキカ

三、小間料ニ關シ出品人ニ對スル縣補助ノ程度御決定相願タシ

第四項　國産振興館出品ニ關スル件

一、同館出品物ハ鑑査規程第一條ニ依リ鑑査ノ上決定スヘキニ付出品申込書及解説書ハ出品規程第十七條ノ申込期日（七月三十日）迄ニハ必ス御提出相願タシ

二、同館出品物ハ豫メ解説書ニ據リ鑑査ヲナスト雖モ現品ニ付品質試驗ヲ必要トスルコトアルヘキニ付何時ニテモ提出ナシ得ル樣豫メ用意アリタシ

第五項　出品物運送保管其他ニ關スル件

一、本會ハ指定運送店トシテ上野町驛前（參急電鐵）伊賀運送株式會社ヲ指定シ場内ニ出張セシメ出品物ノ取扱ヲナサシムル方針ナリ

二、着荷ハ本會指定運送店倉庫ニ保管ス、空箱ヲ指定運送店ヲシテ保管方ヲ御依頼アリタシ

三、出品物運賃割引證及出品人關係役員乘車證ハ所要數ヲ八月三十一日迄ニ御申出アリタシ

四、乘車割引證ハ出品者又ハ出品事務ヲ直接管掌スル關係役員ノミニ御交付相成タシ該割引證ハ「ミシン」入リ控書付ニ作成スルニヨリ交付ノ際ハ必ス控ニ明細ヲ記入シ置キ後日一纏トシテ御返送相煩シタシ

◎御依賴事項

一、本會開設ニ關シ「ポスター」其他勸誘狀ニヨリ夫々宣傳ヲナシ入場者ノ勸誘ニ努メツヽアルモ各位ニ於カセラレテモ適當ナル機會ニ可然宣傳方特ニ御配意願ヒタシ

二、各種大會ノ開催御計劃ハ乍勝手本會開會中當地ニ於テ催サレル樣特ニ誘致方御盡力相願ヒタシ

三、目下景品附優先券發賣中ニ付特ニ御斡旋方願上タシ

第四節　鐵道及汽船運賃の割引

出品物の運送、出品人及出品關係役員の旅客運賃の割引を鐵道省運輸局長に申請し昭和十年五月三十日付鐵運乙第一、〇〇三號を以て許可を受けた。

（表面）

第　號

旅客運賃割引證（伊賀文化産業城落成記念全國博覽會）

乘車船區間	自	驛
	至	驛　往復
住所氏名		
年齡		當　年
乘車船等級割引率		等貳割

三重縣上野町

（裏面）

注意

一　本證ハ三重縣上野町主催伊賀文化産業城落成記念全國博覽會出品人、審査員及出品事務ヲ直接管掌スル役員ニ限リ使用シ得ルモノニシテ番號及使用者ノ氏名ヲ記入シテ交付スルモノトス

二　本證ニ依リ割引セラルベキ區間期間、及乘車券通用期間ハ左ノ如シ
但シ二、三等往復乘車券ニ限ル

割引區間
（イ）、鐵道省線各驛及社線各連帶驛ヨリ伊賀上野驛行
（ロ）、鐵道省線各驛ヨリ參宮急行電鐵線西大手又ハ上野町驛行

割引期間　自昭和十年九月一日
至昭和十年十一月十日

乘車券通用期間　發賣ノ日ヨリ　昭和十年十一月三十日迄

三　本證ハ記名人以外ノ者之ヲ使用スル事ヲ得ズ

四　本證ニ依リ購求シタル割引乘車券ハ他人ニ讓渡シ又ハ他人之ヲ使用スル事ヲ得ズ

五　本證記載事項ヲ訂正シタル場合ニ於テハ左ノ證明アルモノニ限リ之ヲ有效トス

（一）發行者ノ記入スベキ事項ニ付テハ發行者ノ印

（二）使用者ノ記入スベキ事項ニ付テハ使用者ノ認印

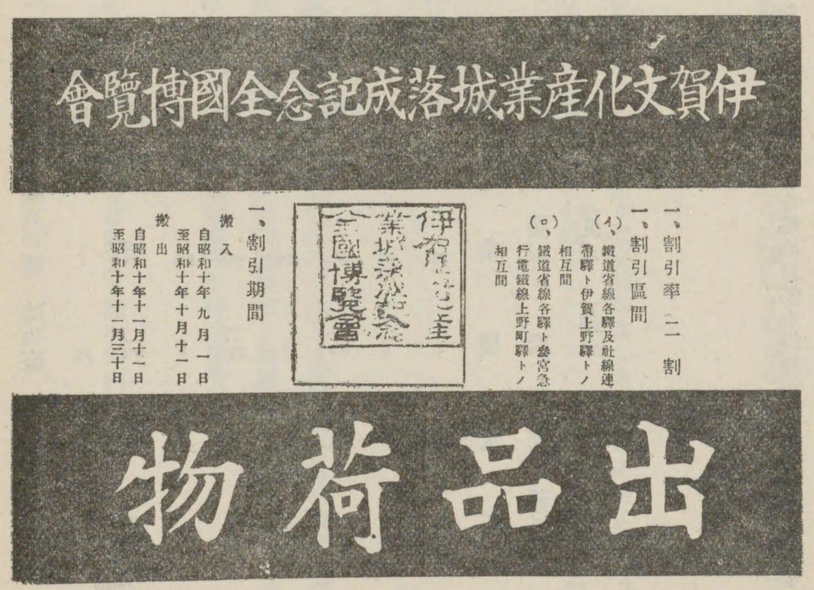
尙大阪電氣軌道株式會社及參宮急行電鐵株式會社に對しても同樣割引請求を爲し其承認を得たのであつた。

第五節　小間配當

本會の小間數は産業本館陳列戸棚百九十三小間半、陳列臺九十七小間、土間七十四小間、上野館及國産振興館の陳列戸棚五十八小間、陳列臺六十八小間、土間五十二小間、農林機械館陳列戸棚八小間、陳列臺二十九小間半、土間九十七小間、合計六百七十七小間、にして各出品團體より場所の指定又は變更申込等屢々照會に接し之れが割當に一方ならぬ苦心を要せしも本會は公平なる立場にありて決定したる小間割に付ては變更を行わなかつた、而して各府縣市出品小間割當數左の如し。

各府縣市出品小間割當數

府縣市名	陳列戸棚	陳列臺	陳列土間	計
東京府	五一	一七		二三
愛知縣	一五	二七	八	五〇
滋賀縣	四七	三		一四



府縣市名	陳列戸棚	陳列臺	陳列土間	計
京都市	一四	—	—	一四
和歌山縣	五	—	—	五
兵庫縣	七、五	一、五	六	一五
岡山縣	一〇	—	—	一〇
廣島縣	一〇	—	—	一〇
鹿兒島縣	三	—	—	三
福井縣	—	三	—	三
岐阜市	—	二、五	—	二、五
神奈川縣	—	—	一〇	一〇
南洋廳	五	—	—	五
蠶糸會其他	三、五	一九	—	三三、五

第六節　陳列及裝飾

1　陳列戸棚及陣列臺

陳列戸棚及陳列臺は整理統一上本會に於て同一形式のものを　備使用せしむる爲め京都市錢屋商會と賃貸借契約を締結し陳列戸棚一小間金八圓、陳列臺一小間金四圓を以て新調せしめ出品陳列に支障なき期日迄に納入せしめたのであつた。

府縣市名	陳列戸棚	陳列臺	陳列土間	計
奈良縣	—	九	—	九
大阪府	四八	一六	四〇	一〇四
香川縣	四	—	六	一〇
山口縣	五	一、五	—	六、五
熊本縣	四	—	一三	一六
石川縣	六	一	—	七
富山縣	五	—	—	五
甲府市	三	—	—	三
三重縣	七	四三	六	一九
上野町	三五、五	六六	四	一五〇、五
計	二九、五	一九四、五	三三	六七

2　裝　飾

館内裝飾に付ては三重縣館の大半は縣工業試驗場に委託し其他は出品團體より直接裝飾せしもの或は本會に委託されたるもの等區々なりしも各府縣市毎に統一ある裝飾を施し競ふて各其の特色を發揮しケースの新品と相俟つて館内に於ける美觀を呈したのであつた。

第七節　出品物の輸送搬入

1　輸　送

出品物の輸送に關しては小包便による向もあつたが大多數は汽車便にて發送された、而して其大部分は本會指定運送店たる參急電鐵上野町驛前伊賀合同運送株式會社に向け到着したが、一部分は省線伊賀上野驛伊賀上野合同運送株式會社宛發送せしものありて之れらは更にトラツク又は荷車に依つて指定運送店倉庫に轉送保管した。

2　搬　入

出品物搬入に付ては各府縣出張員又は出品人と指定運送店と打合せの上保管倉庫より順次館内に搬入し開館期日迄の陳列に支障なきを得たのであつた。

第八節　出品の概況

國產品出品の概況は左の通りである。

1　農林機械館出品調

府縣市名	出品人員	出品點數
大分市	一	一
名古屋市	二	一六
東京市	二	八
大阪市	六	七三
三重縣	五	一九
熊本縣	一	九
蠶糸中央會	一	三一
帝國蠶糸株式會社東京販賣店	一	三七
蠶業試驗場	二	六
三重縣繭檢定所	一	二〇
京都高等蠶糸學校	一	二

出品種目

自動製粉機
精米機、機械製食糧
繭毛羽取器、製繩機、電動機
發動機、穀產工業品、土工用農事用機械、噴霧器、精米機
製繩機、稻扱機、藁切機、絹帽子、碎土機、絹衣地
耕犁
各種絹製品
〔絹靴下、絹ハンカチーフ、絹ネクタイ、絹足袋、絹シヤツ、婦人用服地、其他絹變品〕
標本
生糸其他
蠶兒模型、蠶神

府縣市名	出品人員	出品點數
滋賀縣	一	一
兵庫縣	一	六
伊賀文化產業協會	一	一
計	二六	二四〇

2　產業本館出品調

府縣市名	出品人員	出品點數
東京市	四	三九
京都市	二九	三二六
大阪府	五九	七一〇
愛知縣	六〇	八一九
甲府市	二	一三〇
岐阜市	三	三九
滋賀縣	一二	一七七
奈良縣	二一	三五六
和歌山縣	一八	七五
兵庫縣	一七	一五七

出品種目

熱風乾燥機
撰穀機、米撰機
農業工藝品
肥料、軸物
西陣織物、陶磁器、漆器、佛檀、小間物化粧品、電機器
〔電氣機械器具、肥料、藥器、護謨製品、自轉車、タイヤ、紙食糧品、雜貨、及物〕
セル及綿織物、陶器漆器、味噌、味淋、木工品、石製品、菓子、雜貨
象牙品、袋物
傘、丸盆、セト引鍋
陶器、佛檀、麻布、酒、醬油、味噌、製藥
及物、角製品、墨筆、傘、箕、酒、ロープ
漆器、菓子、除虫劑
漆器、石鹼、タイヤ、帶、燐寸、傘、雜貨

香川縣	二一	一三一	漆器、竹製品
岡山縣	一八	二四四	疊表、織物、小倉服、陶磁器、ゴム靴、噴霧機
山口縣	一〇	一二一	陶磁器、織物、硯石、彫刻物、雜貨
廣島縣	一七	六一	疊表、傘、佛檀、噴霧器、海産物、罐詰、菓子
鹿兒島縣	二	四〇	漆器、文且漬
熊本市	一二	七八	朝鮮飴、陶器、文人刀、竹根ステツキ
福井縣	四	六七	及物、庖丁類
石川縣	一六	一五五	漆器、陶磁器、織物、雜貨
富山縣	三二	一二八	漆器、人形、製藥、雜貨
橫濱市	一	三一	電氣用品
計		三、八八四	
三重縣	四一三	二、〇三〇	〔清酒、醬油、溜、茶、傘、織物、履物、陶磁器、木竹製品、及物、海産物、麵類、罐詰
合計		五、九一四	

3 國産振興館出品調

府縣市名	出品人員	出品點數	出品種目
東京市	一	一	農業藥品
大阪府	四二	六九	製藥、石鹼、カタン糸、除虫粉、ワイシヤツ、タイヤ、電機、諸雜貨
京都府	六	六	卓子掛モール緞子、正絹ネクタイ、其他
愛知縣	二八	二八	服地、其他
岐阜市	一	一	木板吹繪大和盆
奈良縣	二	二	安全及、中水玉
兵庫縣	一四	一四	菓子皿、石鹼、花立、神戸人形、トラツクタイヤ、ゴム手袋、其他
香川縣	一	一	角柱一輪挿
岡山縣	六	六	小倉服、ゴム靴、蠅取紙、倉敷段通、手提
山口縣	八	八	麻布芯地、萩燒コツプ、セツト、手盆、花籠、花生、大トラツク、木彫子守
熊本市	二	二	文人刀、竹根ステツキ
鹿兒島縣	一	一	卷莨入
石川縣	五	五	パイプ、不二絹、ナイトガウン、古代紋手筥、インクスタンド、洗面器
富山縣	九	九	製藥、卷莨入、盆、セツト、ペン皿、灰皿
三重縣	一三八	二八九	茶、材木、製藥、罐詰、眞珠、農産加工品、竹細工、織物、人絹製織品、タイル
朝鮮	二	二	硬化陶器、琺瑯洗面器
臺灣	七	七	大甲製品帽子、紅茶、帶止、蛇皮ソフトバツク、蓬草紙

計	二七三	四五一	
外南洋廳	一	四四	穀類、燐鑛、ステツキ、椰子製品、パナマ帽原料、砂糖、酒精、鼈甲、其他參考品

4 上野館出品調

出品人員	出品點數	出品種目
一二六	一、一七二	伊賀燒、傘、履物、彫刻物、農蠶機、籐細工、竹細工、建具、簞笥類、漬物、織物、靴、醬油、菓子、木竹材、製藥

5 朝鮮館出品調

出品人員	出品點數	出品種目
三六	一〇〇	胡桃、罐詰、細寒天、乾海苔、竹皮敷物、刷子、味付海苔、繰綿、琺瑯製品、硬質陶製品、其他朝鮮物産

朝鮮館出品數ハ鑑査請求アリタルモノ、ミニシテ其他陳列品ヲ除ク

第九節 陳列品と管理販賣

1 事務概要

産業本館、上野館及農林機械館等出品物に關する事務の取扱は全館を四賣約即賣所に區別し、全館主任、賣約即賣所主任を置き、館内配置の看守人を指揮して、賣約、即賣事務を取扱ふたが各賣約即賣所に於ける人員配置及擔當區域は左表の通りである。

區別	全館主任	賣約所主任	補助
本館第一賣約即賣所		一	三
同 第二賣約即賣所		一	三
上野館賣約即賣所	一	一	三
農林機械館賣約即賣所		一	三

2 出品物の整理

各府縣市の出品物は凡て産業本館農林機械館及上野館内に搬入されたのであるが、各配當ケースに出品の陳列を了つた後本會引繼係員に於て出品臺帳を對照の上引繼を受けたのである（鑑査の請求ある出品は國産振興館に陳列す）又各府縣市の出品物は、自營即賣を絶體に許さず本會係員にて之れが取扱と整理を行ひ、出品物の紛失附札の混雜取扱上の錯誤なからしむることに努めたのであるが多數出品中の事とて事故絶無を期し得ざりしも大體に於て錯誤なく整理を遂げられたのである。

3 賣約と即賣

賣約、即賣何れの出品も出品人の意思に依り自由であつたが、出品の結果より見て即賣出品は大多數を占めた。之れ博覽會の即賣化の趨勢を實證するものであり隨つて賣上の上に於ても賣約極めて少數にして殆んど即賣であつた。尙賣約手數料は規定の如く賣上金額の五分を收納することゝした。

賣約即賣に付ては總て出品臺帳所載の價格により賣約のあつた場合は其代金を領收し（價格十圓以上のものは其半

額を徴することゝした）賣約證を作製交付すると共に看守人をして出品物附札の一片を切取らせ賣約濟札を貼付せしめ、また即賣にあつては出品物の附札を剝取り其代金を受領し即賣品搬出證を添へ現品を交付することゝした。

以上によつて賣約及即賣をなしたる時は附札又は賣約證によつて出品臺帳の整理をすることゝしたのである。尙賣約品は閉會後五日以內に現品引取方申出を受け賣約證によつて其殘金を納付した。

4 賣上代金計算

賣約、即賣による賣上代金は、各賣約即賣所に於て賣約代金日計表即賣代金日計表を作製して其の日の賣上を明かにし、賣上金は町金庫に拂込むことにした。

5 賣上成績

出品物整理のため開會の翌日即ち十月十三日より賣約及即賣を開始したが十一月十日閉會迄及十一月十一日より十一月十五日（賣約殘金）迄取扱つたのであるが賣約即賣代金の賣上金並に賣上點數を各府縣市別に表示すれば次の通りとなる。

賣上代金精算表

府縣市名	賣上金額	手數料	差引交付金額
東京府	二八、〇〇〇円	一、〇〇〇円	二七、〇〇〇円
神奈川縣	—	—	—
甲府市	二〇一、八九	一〇、〇九	一九一、八〇〇

愛知縣	六七二、二八	六三八、六一〇	三三、六七
岐阜市	一一一、〇〇	一〇五、四五〇	五、五五
滋賀縣	一二九、七七	一二三、二八〇	六、四九
京都市	七四一、〇〇	七〇三、九三〇	三七、〇七
奈良縣	二四五、六六	二三三、三七〇	一二、二九
和歌山縣	一二七、〇〇	一二〇、六三〇	六、三七
大阪府	四〇五、三六	三八五、〇九〇	二〇、二七
兵庫縣	二二四、九五	二一三、七一〇	一一、二四
香川縣	一〇八、一七	一〇二、七三〇	五、四四
岡山縣	一四三、六八	一三六、四五〇	七、二三
山口縣	二六九、三九	二五五、九三〇	一三、四六
廣島縣	一二八、六五	一二二、二一〇	六、四四
熊本市	八四、七二	八〇、四六〇	四、二六
鹿兒島縣	七八、五五	七四、六二〇	三、九三
石川縣	一九三、三〇	一八三、六一〇	九、六九
富山縣	一五一、〇四	一四三、四五〇	七、五九

三重縣	二、六二八、九二
南洋廳	八、〇〇
帝蠶會社	二六六、九〇
計	六、九四八、二三

各府縣市出品賣上點數及人員表

府縣市名	點數	人員
東京府	五	一
愛知縣	二三一	三三
滋賀縣	六五	六
奈良縣	二一二	一三
大阪府	一二八	七
香川縣	五六	一八
山口縣	七六	八
熊本市	四五	一二
石川縣	五二	一二
三重縣	一、二五六	二三九
	一三二、八〇	二、四九七、一二〇
	四〇	七、六〇〇
	一三、三五	二五三、五五〇
	三四七、六三	六、六〇〇、六〇〇

府縣市名	點數	人員
甲府市	八一	一
岐阜市	一五	二
京都市	一一〇	九
和歌山縣	二八	一〇
兵庫縣	三三	六
岡山縣	七七	一三
廣島縣	四二	一一
鹿兒島縣	二四	二
富山縣	七一	二二
南洋廳	一	一

帝蠶會社　二二　一

6　出品物賣約及即賣取扱手續

第一條　出品物ノ賣約及即賣ハ本手續ニヨリ會長ノ定メタル事務員之レヲ取扱フモノトス

第二條　出品物賣約及即賣ヲ擔任スル事務員ハ出品臺帳竝之ニ關スル書類ノ整理保管ニ任スルモノトス

第三條　開會後出品物ノ追加申込ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ニ注意シ直ニ臺帳ニ追記スルモノトス

一、現品ト符合シ居ルヤ否ヤ

二、容器ハ附札ノ價格ニ包容セルヤ否ヤ

第四條　出品ノ賣約及即賣ハ出品臺帳所載ノ價額ニ依ルモノトス

第五條　賣約ノ申出アリタルトキハ其代金ヲ受領シ賣約證ヲ作製交付スルト共ニ看守人ヲシテ出品物附札ノ下葉ヲ切取ラシメ賣約濟札ヲ貼付セシムルモノトス但價額十圓以上ノ物品ニアリテハ代金ノ半額ヲ徵シ賣約證ニ其旨明記スルヲ要ス

第六條　即賣ヲ爲シタルトキハ先ツ出品物ノ附札一片ヲ切取リ其代金ヲ受領シ即賣品搬出證ヲ添ヘ現品ノ交付ヲナスモノトス

第七條　賣約又ハ即賣ヲ爲シタルトキハ其都度出品物附札又ハ賣約證ニヨリ出品臺帳ヲ整理スルモノトス

第八條　賣約ヲ爲シタル出品物ニシテ閉會後五日以內ニ當該賣約人ヨリ現品ノ引取方ヲ申出タルトキハ賣約證ニヨリ其殘金ヲ納付セシメ搬出證ト共ニ現品ノ交付ヲナスモノトス

第九條　出品物賣約及即賣代金ノ取扱ヒニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

備考　複寫式帳簿トス

（表）

賣　約　證

第　號					殿	
出品番號	品　名	數量	單價	金　額	出品人氏名	

合計金　　圓　　錢也
手附金　　圓　　錢也　（殘金　　圓　　錢）

上記物品裏面記載ノ條件ニ從ヒ賣約シ手附金（代金）領收候ニ付昭和十年十一月十一日ヨリ十一月十五日迄ニ此證書（ニ殘金相添）御持參相成候ハヾ現品御渡可申候也

昭和十年　　月　　日

伊賀文化產業城落成記念全國博覽會

（裏面）

御　注　意

（一）賣約品ハ閉會後五日以内ニ於テ毎日午前九時ヨリ午後三時迄ノ間ニ此證書引換ニ御渡シ致シマス

（二）賣約品ノ容器及其裝飾ニ用ヒタル物品ハ特約ガナケレバ賣約品中ニ含ミマセン

（三）賣約後解約ヲ申込マレテモ既納ノ代金又ハ手附金ハ返還致シマセヌ

（四）同一物品ヲ誤ツテ重複ノ賣約ヲナシタルトキハ賣約證ノ番號ノ後ナル分ヲ無效トシ又物品ヲ取違ヘテ賣約ヲナシタルトキハ之亦無效ト致シマス

（五）盜難其他避ケ難キ災害ニヨリ賣約品ヲ滅失又ハ破損シタル場合ハ解約致シマス此場合ハ既納代金又ハ證據金ハ御返シ致シマス

（六）引渡期間ヲ經過スルモ物品御受取ナキトキハ解約ト看做シ且ツ既納ノ代金又ハ證據金ハ御返シ致シマセヌ

（七）現品ノ送付ヲ希望セラルル向ハ賣約證ヲ添ヘテ其旨本會事務局ニ申出デ下サイ包裝費竝ニ運賃先拂デ御屆ケ致シマス

（八）此證書ヲ紛失セラレタルトキハ即時本會事務局ヘ御屆ケ下サイ其場合ハ證書有效期間滿了後取調ベタ上デ現品ヲ御渡シ致シマス

（九）本件ニ關スル御照會ニハ必ズ本書番號ヲ記入シテ下サイ

搬出票

搬出人

一、

右搬出ヲ許可ス

昭和十年　月　日

伊賀文化產業城落成記念全國博覽會

本證ハ出場ノ際門衞ニ御渡シ下サイ

○

○

搬出證

即賣品

一、

昭和十年　月　日

伊賀文化產業城落成記念全國博覽會

本證ハ出場ノ際門衞ニ御渡シ下サイ

賣約濟

色　赤

札附品賣即

○

第　部　第	
類　第　號　第	出品番號

摘要	出品人 氏名	出品人 住所	賣價	品名
			二付	

（スト刷キンイ赤）

札附品約賣

○

縣市 府	館
出品番號第	號

摘要	出品人 氏名	出品人 住所	價格 金　圓　錢	品名

注意　非賣品ハ賣價欄ニ非賣品ト朱書スルコト

縣市 府	出品番號第　號	
	品名	
	價格	
館	出品人 住所	
	出品人 氏名	
	摘要	

7　出品物代金取扱手續

第一條　出品物賣約及即賣係事務員ハ毎日閉場後其ノ日ノ賣上代金ニ各日計表（第一號樣式）及出品物附札ヲ添ヘ出品物賣約及即賣主任ニ差出スヘシ

第二條　出品物賣約及即賣主任ハ毎日前條ノ賣上代金ヲ取纏メ拂込書（第二號樣式）ヲ添ヘ町金庫ニ拂込ムヘシ

第三條　出品物賣約及即賣係ヨリ差出シタル賣上代金日計表ハ主任ニ於テ之ヲ取纏メ毎日會長ノ閲覽ニ供スヘシ

第四條　賣約ヲナシタル出品物ニシテ閉會後賣約人ヨリ其殘金ヲ受領シタルトキハ第一條第二條ニ準シ取扱フモノトス

第五條　出品物賣約及即賣主任ハ閉會後十日以内ニ日計表ニ依リ賣上代金總計書ヲ作製シ會長ノ決裁ヲ受ケ經理部主任ニ回付スヘシ

第六條　經理部主任前條ノ總計算書ト其保管セル賣上代金ト相違ナキヲ確認シタルトキハ手數料ヲ控除シ其殘額ヲ出品團體ニ交付シテ領收證ヲ徵スヘシ

第一號樣式ノ一（複寫）

賣約代金日計表

昭和十年　月　日　　第　部出品物賣約及即賣係　　府縣別

出品番號	出品人氏名	賣約人 住所	賣約人 氏名	品名	個數	單價	價格	手附金	出	備考

（第一號樣式ノ二複寫）

即賣代金日計表

府縣別

第　部出品物賣約及即賣係

昭和十年　月　日						
出品番號	品名	個數	單價	代金	出品者氏名	備考

保管證書

第　號

一金

右保管候也

右遺付相成正ニ領收候也

昭和十年　月　日

氏名印

上野町金庫

保管日付印

月　日分賣上代金

拂込人印鑑

拂込人氏名

收入役命令遺付印

出品部主任檢印

保管金拂込書

（第二號樣式）

第　號

一金

右拂込候也

昭和十年　月　日

保管日付印

月　日分賣上代金

拂込人印鑑

拂込人氏名

收入役命令保管印

出品部主任檢印

（第三號樣式）

賣約代金總計算書

府縣別	出品人氏名	賣上代金	手數料	差引殘高	摘要

即賣代金總計算書

府縣別	出品人氏名	賣上代金	手數料	差引殘高	摘要

（赤刷）

第十節　看守其他

1　看守人の採用

看守人の採用は出品部主管に屬し上野町職業紹介所に於て募集することゝし七月早々之れを發表の處同月中に六十名の志望申込があつたが、八月廿六日町役場會議場に於て口頭試問を行つた上容貌其の他を參酌し五十名を採用決定し更に其後申込に係る志望者に對し九月二十日前回同樣試驗の上豫備員共に六十名を採用したる上容貌學歷等を參酌して出札賣約及各特設館へ配置したのであつたが會期中素行良好何れも眞面目に重大なる責務を完ふしたのである。

2　看守人配當

本會看守人は出品部所屬のものは十小間に對し一名の割合をもつて採用したのであるが特設館其他へ配置を要するため總員百十名を採用したのである。其配置左の如し。

本會看守人配置表

産業本館	五三人	農林機械館	四人
上野館	一三	觀光館	二
國産振興館		美術館	二
遞信文化館	四	電氣館	三
迎賓館	二	國防館	四

歷史館	五	正門出札	四
計	九六		

尙本會看守人の外産業城其他特設館に配置の爲め特に依囑を受け募集したるものは左の通りであつた。

伊賀文化産業城	四	朝鮮館	四
滿洲館	二	臺灣館	二
計			一二

3　自營特設館

特設館中外地特設館たる朝鮮、臺灣、滿洲各館に對しては例外なるも其他の自營特設館建設に就ては館外土地使用規程（第六項諸規程ノ部參照）に依り申込書を徵し之れを許可したのであるが使用者は次の通りである。

館外土地使用者調

住所	氏名	摘要	使用坪數
吳市	神崎清之助	發明品即賣館	五〇坪
大阪市	神崎熊太郎	食堂	七
上野町	中森直吉	飮食店	五
同	奥中ナツヱ	同	五
同	田畑治男	果實及土産物販賣	一、五
同	山川豊吉	ウイロ店	三

同	石田弘	四、五
同	上野寫眞師聯盟	二
同	奥中つね	一、五
久留米市	日本足袋株式會社	三
上野町	三谷清吉	三
同	辻岡彌之助	一
同	小林太七	六
同	木村繁藏	五
同	中喜次郎	一
同	濱邊每文	四
同	濱邊喜八	一、五
西之宮市	松本ローソク合名會社	一
大阪市	五藤商店	一
東京市	富國徵兵保險相互會社	一、五
名古屋市	福壽生命保險株式會社	一
上野町	中林正三	五

農蠶器具陳列
寫眞撮影
菓子並飲料水店
廣告塔
飲食店
廣告塔
食堂
菓子果物飲料水店
お茶店
廣告塔及無料休憩所
廣告塔
廣告塔
同
同
同
煙草店

大阪市	服部時計店大阪支店	五、
同	松下電氣製作所	四
名古屋市	荒川長太郎合名會社	一
上野町	北崎明倫	二
同	福林源次郎	一
東京市	安孫子ふじ子	一
上野町	大矢保次	四
名古屋市	松本源次郎	二、五
宇治山田市	色野九一郎	二
大阪市	竹內太陽社	二
上野町	森永キヤラメル代理店 岡本音吉	一
同	中外醫藥株式會社	二
三重縣廳內	三重縣茶業組合聯合會議所	六
同	三重縣園藝協會	一四
大阪市	大阪朝日新聞社	一四
同	大阪每日新聞社	一四

時計塔
高聲裝置塔
廣告塔
菓子繪葉書
ステツキ店
菓子店
同
食堂
飲食店
廣告塔
廣告塔及賣店
廣告塔
喫茶接待所
花卉園藝品賣店
展觀施設
同

4 賣　店

茲に賣店と稱するは、本會に於て設備し使用料を徴して使用せしめたる賣店を指すのであるが此賣店は産業本館正面向つて右手に間口九尺、奥行六尺の小間十小間を設けたのであつた、使用者は次の通りである。

住所	氏名	使用小間數
山梨縣西八代郡岩間村	渡邊撰治郎	二
堺市	味村廣助	一
岡山市	森合資會社	一
上野町	伊賀傘工業組合	一
同	服部金之助	一
上野町	廣澤龜吉	一
上野町	芝高治夫	一
上野町	上野町商工會	一
同	廣瀨想	一

第五章　宣　傳

第一節　宣傳の概要

博覽會の成否は一つに宣傳にある、よつて本會は特にこの点に萬遺憾なきを期し、廣告塔の建設、ポスター、パンフレツト、宣傳ビラ、スタンプ、繪葉書、宣傳マツチの調製配付などに依るの外入場券の前賣を行ひ又近府縣の百人以上の就業員を有する工場及京阪神の會社、大商店に設けある旅行團體誘致のため文書宣傳を行ひ特に縣下並に滋賀、

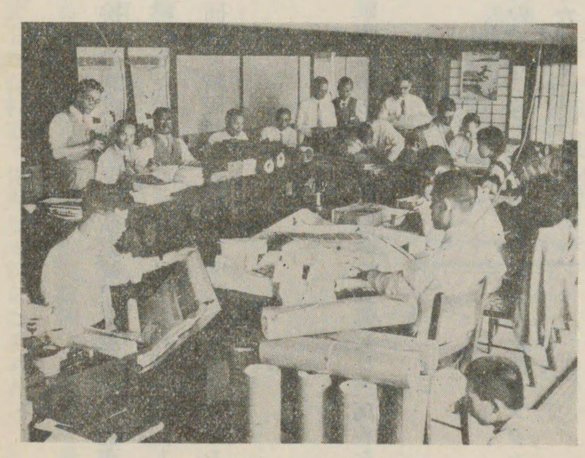
奈良、京都などの隣接地小中等學校長へ學校團體の觀覽を勸誘のため宣傳員を派遣するなど凡ゆる方途を盡してその萬全を期したのであるが殊に協賛會の絶大な鴻助と新聞社各位の援助が偉大な力を發揮し宣傳に於いては百%の効果を擧げた。茲に深甚なる感謝の意を表するものである。

1 廣　告　塔

省線及參宮急行電鐵により當町の南北を通過する多數の乘客に博覽會を強く宣傳するため關西線伊賀上野驛及參急電鐵伊賀神戸の兩驛へ廣告塔を建設した。

2 ポ ス タ ー

宣傳ポスター二萬枚印刷し全國各府縣市及商工會議所、商工奬勵館、商品陳列所並に著名の旅館及朝鮮、臺灣等の關係各方面に配布し又縣下及近府縣へは町村役場、學校、旅館、料理店、理髪店、湯屋、銀行、會社、郵便局、其他一般見易き場所へ掲出方を依頼し更に第二次ポスターを發行して全國の鐵道主要驛及大軌參急電鐵各驛を始め近江電鐵並に縣内各私設鐵道電車、自動車停留場、待合所等に掲出し又セロハンポスターを作製し市内各商店のウインド又は硝子戸に貼付したる外汎く縣内の電車や自動車等にも貼付して徹



開會前ポスター發送の狀況

底的の宣傳に努めたのであつた。

3 パンフレツト

五月一日の宣傳部常任理事會に於て博覽會開設に對する田山會長の挨拶、施設の概要、産業城、鍵屋之辻、芭蕉翁故郷塚などの名所寫眞、交通網、附近の史蹟名所案内、會場圖などを輯錄した美麗なパンフレツトの調製を決定し入場券の前賣、團體募集、出品勸誘、關係諸團體の會合などに配布し又同時に新版伊賀十景寫眞入のパンフレツトを印刷して各方面へ博覽會案内に使用し大きな効果を收めた。

4 宣傳ビラ

八月十九日より同二十八日迄十日間大阪市松坂屋に於て三重縣物産販賣會があつたのを機會に宣傳ビラ三萬枚を配布した外開館直前及開館中各種のビラを配付して宣傳に努めた。

5 繪葉書

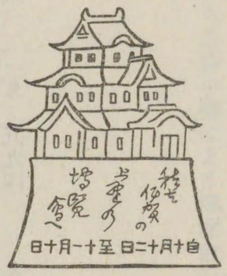
繪葉書は上野町商工會に於て十萬枚を作製し希望者に實費配付したのであつてこれに本會で調製した記念スタンプを押捺し暑中見舞や消息文用、營業用などに利用され宣傳効果をあげた。

6 宣傳マツチ

マツチ、レツテルに依る宣傳も効果が大きいので本會のポスターを片面レツテルに貼り配付した。

7 スタンプ

宣傳効果を擧げる一策として數種の「スタンプ」を作成し市内主なる旅館、商店、會社等に實費にて配付し郵便物に押捺方を依頼し、また本會事務局及役場から發送する公文書などにもこれを使用し大いに實効を收めた。



第二節 優先券

入場券の前賣は各地博覽會とも行つてをり、この前賣は

一、最も切實な宣傳となり　二、收入を確保し

三、晴雨を論せず相當の入場者を豫定し得ること

など著しい効果のあるものなので宣傳部常任理事會の決裁を經て優先券發賣規定を制定し景品は入場券五萬枚を前賣することに決し委員を設けて先づ伊賀國外へ發賣したが極めて優秀な成績をおさめた。

ㄧ　優先券規程と景品抽籤

前賣券は千枚を一組とし、いろは四十八組にABの二組を加へて五十組とし五萬枚に對して一等百圓以下各等空籤なしの景品付きとしたもので規程に基き十月十日嚴正公平なる抽籤を行つた結果左の通り福運者を決定し開會と同時に發表した。

一等百圓勸業債券　ま組　五六番　　も組　八七三番
二等十圓勸業債券　二十本

そ	六三一	な	九九二	め	九九九	く	五三
う	六五六	ほ	五三二	を	二四三	ろ	二八七
ね	六三九	へ	七二九	と	五二四	ゐ	三五八
ろ	二四四	す	三四五				

三等　三圓　五十本

六六九	いろは四十八組とABに共通						
四等	記念風呂敷　一千本						
六〇九	六三八	三七一	二九四	九二二			
四六	五七	三二二	九七一	七一九			

以上各組共通

む	七四七	て	四五七				
お	九五三	わ	九三六				
え	五九四	か	九九五				

一二三	七三〇	一〇〇	七五五	一八六			
二七〇	六九八	九一	一二六	五〇			

五等　佳品　殘金部

第三節　ラヂオ放送

本會の開催が決定するや總裁川崎克氏、會長田山八十吉氏はCKから全國中繼により博覽會の宣傳放送を行ひ直接間接多大の効果をおさめた。

第四節　新聞宣傳

現代社會に於ける最大至高の威力たる新聞による宣傳の偉大な効果は今更喋々するまでもなく、本會夙にこゝに留意して本會開設が決定するや直ちに全國主要新聞社に對し、後援方を懇請し、さらに六月には本會開設趣意書に添へて別項の如き挨拶狀を發送し切にその援助を依頼したのであるが幸ひ本會の意を迎へられて、宣傳に遺憾なきを期し終始熱烈なる支持をうけた、殊に大阪朝日、大阪毎日兩大新聞社の如きは會場内に特設館を設けて新聞殿堂を輝やかせ式典に際しては飛行機を特派して祝賀飛行を行ひ、また特輯號を發行して宣傳につとめられた向きも多かつた。

謹啓時下薄暑の砌に候折柄筆倪益々御多祥被爲涉日夜爲邦家御盡瘁被遊候段奉慶賀候、陳者別送趣旨書の如く今秋を卜し當町主催にて國庫及縣費の補助を得て伊賀文化產業城落成記念全國博覽會を開催致す事と相成候に就ては深甚なる御後援を賜り居り窃に感佩罷在候幸ひ以御蔭朝鮮、臺灣、滿洲國等の特設館は關係總督府並に友邦當局の絶大の御配慮に依る其設置も大體に決定され、又各府縣の出品參加豫期以上の盛況を見つゝあり加ふるに、陸海軍兩

省の特別出展に依る國防館鐵道省の觀光館等着々進められ更に絢爛極りなき桃山建築に則りたる純日本美術の粋を蒐めて建られつゝある三層高樓、伊賀文化産業城と共に、伊賀の新秋を飾るの日も愈々近く相成候條此博覽會の擧をして効果的に有意義たらしめ有終の美を完ふせんには、貴社の御援助により普く天下に御紹介を得るにあらざれば至難事に御座候迂生參館仕り親しく拝趨を得へきは本意に御座候へ共開館數ケ月の後に迫り多事其の意を得ず失禮を顧みず寸楮御依頼申上候次第幾重にも御寛容を賜り度候就ては誠に恐縮の義には候へども別紙可然御紹介を得ば眞に光榮此事に有之候右御挨拶旁御依頼迄如斯御座候

昭和十年六月　日　　敬具

殿

伊賀文化産業城落成記念全國博覽會長

上野町長　田山八十吉

第五節　博覽會とハイキング

＝上野を中心の三コース＝

山都上野を中心とするハイキングコースを選定して廣く世のハイカー達に呼びかけ、ハイキングと結んで博覽會の宣傳を行ふべく七月二十九、三十の兩日斯界の權威ジヤパン・ツーリスト・ビユーロー調査宣傳部酒本麟吾氏を聘しそれに高旗協會理事長安屋元郎、大阪朝日記者村主古今堂、藝術寫眞家芝高泣外の各氏が參加して、候補コースの實

地踏査を遂げた結果別項三つの新コースが選定されその紀行文「ハイカーの聖地へ」と寫眞が再建伊賀城と博覽會に結んで趣味の雜誌「旅」九月號に精彩を放つて天下に喧傳された。

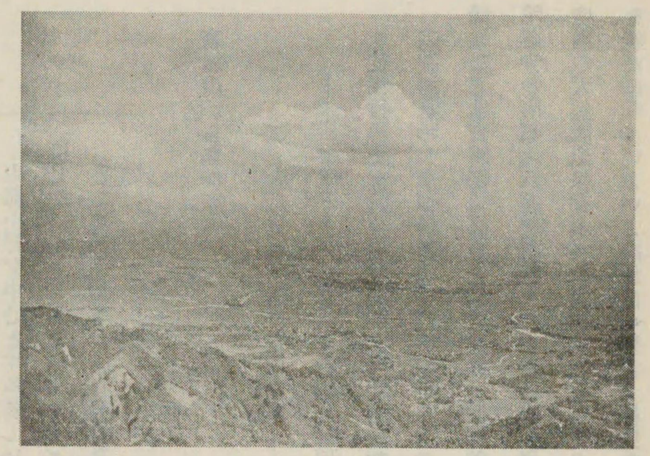
> 山都上野を中心とする新しいハイキング・コース……一昔前の行樂は大抵古刹名所を主にした、今でもあのハイキングの樣にただ歩くだけでは滿足出來ぬ人も多いに違ひない。そこでそうした人達の要求をも滿し日歸りに樂なやう選んだのがこのコースである。

高旗山から島ケ原へ

（コース）參急電車新居停留所下車——佛土寺——廢補陀落寺の町石——高倉神社——補陀落の瀧——高旗山——巖倉峽——正月堂——省線島ケ原驛——上野へ

徒歩行程十七粁。所要時間七時間。費用概算——汽車電車賃三十五錢

（順路解說）まづ伊賀文化産業城からあの秀麗な高旗連峰の景觀を賞し電車で新居停留所下車佛土寺を訪ねて世に稀れな石造寶塔（高さ一丈三尺）と胎内銘ある國寶阿彌陀如來坐像（藤原末期作）を拝觀し次いで本邦最古の廢補陀落寺の町石（八基）を探りつつ縣社高倉神社に詣で桃山期前驅建築の國寶建造物〝本殿、八幡、春日〟の三社殿と境内の天然記念保存木「濕無櫧」およびその附近溪谷に繁茂する珍種笹「アヤマスズ」などを見、補陀落の瀧に心氣を新たにしていよいよ高旗山へ登る。裾野から僅に二・五粁新しい登山道がつくられたので婦人子供でも登り易く登



高旗リング

るに從つて眺望いよいよ雄大益々變化に富み殊に霧の朝の雲海の眺めなどまつたく言語に絶するものがある。山頂は海拔七百十メートル、繪の樣な伊賀盆地は勿論近江、大和、山城の諸山岳美を一眸に集め得る雄大な展望臺だ、そこにはヒュツテも建てられ冬はスケートに夏はキヤンプに四季とりどりの高山植物や藥草が多い。清淨な山氣を滿喫し美しい森林帶や村里を縫ふて下ること四粁春日神社を經て巖倉の溪谷美を賞でつつ島ケ原に出で奈良東大寺、二月堂に對して有名な正月堂觀菩提寺＝本堂樓門ともに國建＝に國寶十一面觀音を拜し島ケ原驛から上野へ歸るのだがさらに幽邃の詩境伊賀ライン夢絃峽の遊船下りと溫泉に一浴してからにするのもよからう。

靈山コース

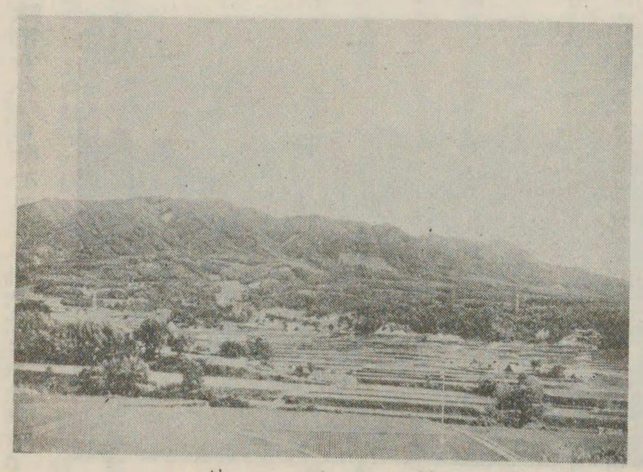
（コース）荒木又右衛門誕生宅址——中瀨峽——山田村鳳凰寺

鳴塚——阿波新大佛寺＝以上區間二十粁バス賃八十錢——田代池——（白藤の瀧）——靈山——萬壽寺——

柘植驛＝徒歩區間十粁餘＝上野へ

所要時間七時間。費用概算一圓二十錢

（順路解說）上野から阿波まではバスを利用することとし街を離れて五、六分劍豪荒木又右衛門誕生宅址と中瀨峽を車窓に山田村で一旦下車し鳳凰寺所在の藥師寺礎石、宮人伊賀宅子（やかご）父郡司某の宅址、横穴を完全に殘す前方後圓式古墳「鳴塚」などを巡覽再びバスにて阿波村新大佛寺に至る。同寺は俊乘坊重源の開基で建仁二年の創立、寺寶什物古文書類の多きこと伊賀第一を誇り天下一品の板彫五輪塔俊乘上人像、僧形坐像、興正菩薩畫像などの國寶を藏し俳聖芭蕉が「丈六に陽炎高し石の上」と金玉の吟懷をやつた獅子の臺座は今尙鎌倉に俤を傳へてゐる、同地からはまつたくの徒歩コースに入り珍しい深山植物藥草類をふんだんに採取しながら龍蛇傳說で有名な田代池を經て靈山へ登るのだが田代池附近から白藤の瀧を迂回してもよい、山頂は海拔七百六十三メートル展望廣大、山紫水明の伊賀盆地を中心に重疊たる諸山岳伊勢灣、琵琶湖、近江富士などの素晴しい大觀を恣にすることが出來る。今頂上には航空標識燈が聳えまた傳教大師草創と傳ふる舊靈山寺の七堂伽藍跡（天正の兵火に燒失し延寶年間山腹に再建）櫻、國見兩地藏北畠准皇手植と稱する櫻の古木などがある、山容の靈氣は襟を正して下ること三粁、芭蕉家の舊菩提寺、萬壽寺を訪れ柘植驛に出る、さらに足をのばして鐵道省選定コース



靈山峽

の一部河原谷からつつじの名所余野遊園地を一巡するにも興趣が深い。また柘植驛から萬壽寺——靈山寺——山頂——西柘植へ下つて佐那具御墓山から伊賀一の宮敢國神社を經て上野へ歸着するのも樂なコースだ。

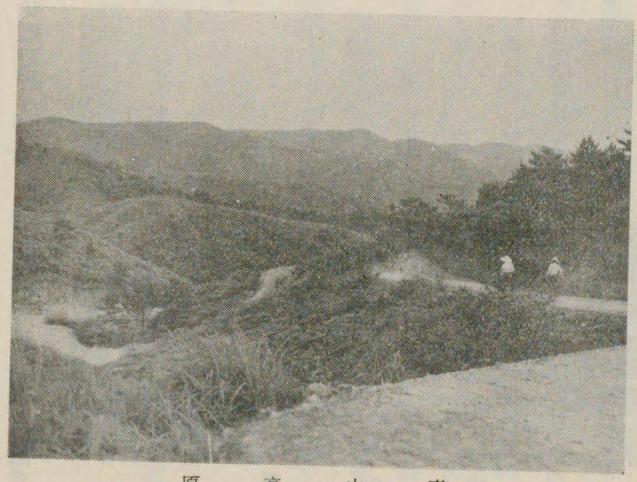
伊賀青山高原へ

（コース）參急電車丸山驛下車——丸山城址——青龍の松——常福寺——阿保町息速別命御陵・大村神社——以上徒歩區間六粁。

バスの便あり——阿保驛から電車で西青山驛下車——伊賀アルプス——青山高原——東青山驛又は西青山驛から乘車——上野へ

所要時間六時間。費用概算電車バス賃一圓五十錢

（順路解說）往昔ほとゝぎすの名所として知られた垂園森（たれそのもり）——市部電停東——を車窓から見て丸山驛で下車しすぐ南方の丸山城址に登る。天正年間織田信雄の命により瀧川三郎兵衛が築いたもので未完成城址の模範的存在である、上林持佛寺境內の靑龍の松はその枝條東西十八間、南北二十四間におよび恰も龍の匐ふが如く應仁の朝山城醍醐寺の僧來りて靈夢に感じ播種したものと傳ふ、長田川畔にはそのかみ皇太神宮伊勢へ遷幸の砌御駐座あらせられた由緒の神戸神社あり、常福寺は眞言宗の古刹本堂安置の國寶五大明王像（不動、降三世、軍荼利、大威德、金剛夜叉）弘仁期の模範的大傑作として有名だ。垂神天皇の第九皇子にましまし阿保朝臣の祖息速別命の御陵は阿保町の西部にありまた縣社大村神社の虫喰鏡は古色蒼然奇妙な夥多の蝕痕を存し美女に絡む傳說も床し、阿保驛から電車で十分西青山驛で下車し舊參宮街道を東へ約一粁坪割橋畔から左折し漫步しながら登ること二粁餘で青山高原に達す、海拔七百五十七メートル伊賀伊勢を劃する伊賀アルプス第一の秀峰で夏なほ寒く眺望雄大絕佳伊勢海の白帆鮮かに知多半島から遠く富士の雄姿も望み得られる、廣濶な草原一帶には盆栽用の矮木や高山植物殊に藥草の類多くそこから發する大小溪流には先火遺物「はんざき」や珍魚「あめご」などが多く產する、あのなだらかな女性的高原を利用して綠原スキー場やゴルフ場も近く施設される、また靈驗あらたかな奥山權現社も程近い、ここから東青山驛までは下り三・五粁餘往路を引返し西青山驛へ下る方がやや近い。



青山高原

第六節　參急の大宣傳

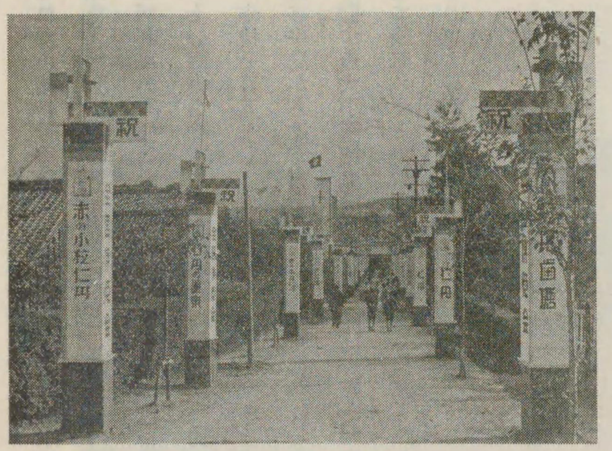
本博覽會開催に協賛して參宮急行電鐵と大阪電氣軌道は十月の同社發行のグラビアーニュース版に新裝なる伊賀文化產業城と全國博覽會の寫眞と記事を揭載して大宣傳を行ひ特に電車賃は上六からお伊勢參りと博覽會の入場券付往復券、上六から赤月觀楓と上野博入場券附往復券の割引切符を發賣し觀覽客の誘致につとめられたがこれが非常な効果をあげ本博に利するところ大なるものがあつた。

第六章　會場内容と觀覽

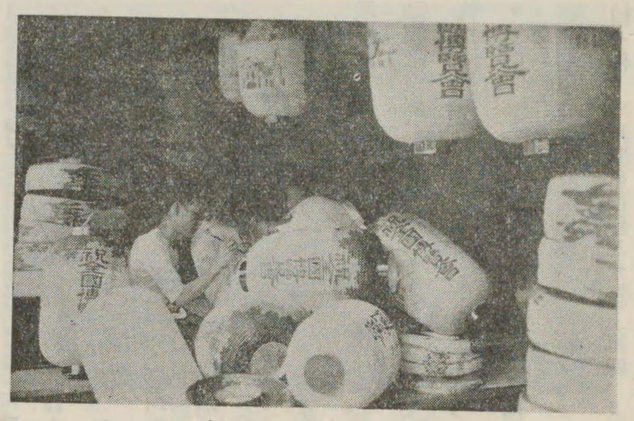
錦繡の秋を舞臺に皇紀二千五百九十五年産業行進曲の掉尾を飾つた絢爛豪華の大雄篇――上野全國大博覽會は、新興の意氣に燃ゆる日本産業文化の輝やかしくも澄渕たる〝萬華鏡〟そのものであり、市民また擧げてこの大事業を謳歌禮讃しあらん限りの聲援を惜しまなかつたゞけに、開期迫るや各町一齊にとりぐ〳〵の趣向を凝して街飾を整へ、しずかなる山都は一瞬にして空前の華麗譜を高らかに奏でたのである、茲にその燦然たる千紫萬紅の大繪巻を順に從つて描くことゝする。

第一節　市内大觀

喜びに躍る全市は各戸紅葉の枝に「祝全國博」と記した金銀短冊を吊るし、博覽會ポスター圖案を描いた提灯美くしく軒を並べ、殊に觀覽客を最も多く呑吐する大玄關上野町驛頭から丸の内縣道伊賀上野停車場線、舊大名小路、市内目抜きの商店街、本町筋、東立町通り、惠美須町、廣小路農人町通り、中町から會場正門前までの丸の内中通りなどは多額の經費を惜しまず紅白の柱を主調とした極彩色

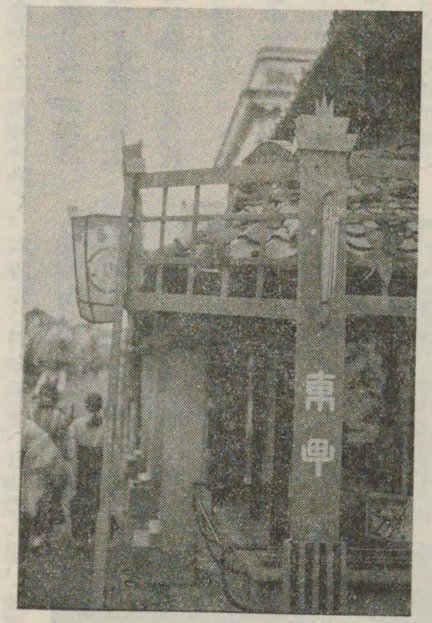


沿道裝飾



祝提灯

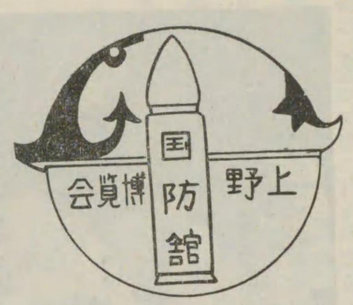
鮮やかな特殊街路裝飾を連ね、裁判所前交叉點にはネオンと構成美に輝く一大歡迎門をまた赤阪口、車阪口、桑町口、向島坂、勸進辻などにも夫々美麗なアーチを設へ、會場正門附近から第二會場への縣道筋兩側は賣店が氾濫するなど全市は文字通り明朗華麗極まりなき博覽會色一つに塗りつぶされ、その素晴しさはまつたく言語に絶するものがあつた。



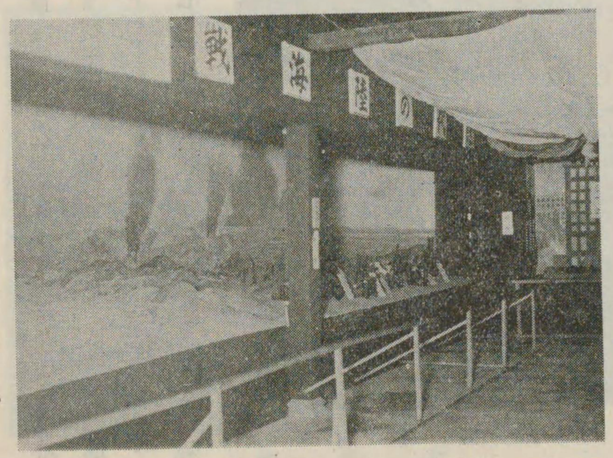
本町街飾

第二節　會場

◎**正　門**　舊大名小路から公園への入口に設けられた白亞の大正門尖塔にはこの覇業を誇らかに謳歌し誇示する眞紅の上野博大旆燦として秋風に飜り、兩側に林立する仁丹の廣告塔を縫ひスマートな事務局を右に恐ろしいほどの人波に揉まれながら改札口を入ると右に公會堂を改造補裝した。



◎**國防館**　が眞先きに人目を惹く、軍服姿の看守に迎へられて入場、陸軍省出品の小空中聽音機、三十糎探照燈、高射機關銃など防空兵器の精巧なるに一驚を喫し、近代陸海綜合戰の模型活動パノラマによつて科學の進歩發達は人間の全智全能を絞つた機械と機械の戰ひであることが會得される、落下傘の實物、爆彈の威力僞裝と煙幕遮蔽の圖、投下爆彈の實物などを見て右行すると空襲時に於ける都市防備方途を電氣應用の十場面によつて巧みに說明し絶へず警戒サイレンの吹鳴と機關銃を發射して一種凄感をさえ覺えしめる、上野町を中心とした防備模型、防毒マスクとその造り方、滿洲事變の種々相、未來戰を豫想した陸上軍艦、タンク、三百里砲、殺人光線、テレビジョンなど活動の地中戰、アメリカ航空戰圖その他左の如き凡百の出陳物によつて大いに國防觀念が强調され、靖國神社の模型にも靈忠勇士の偉勳が偲ばれる。

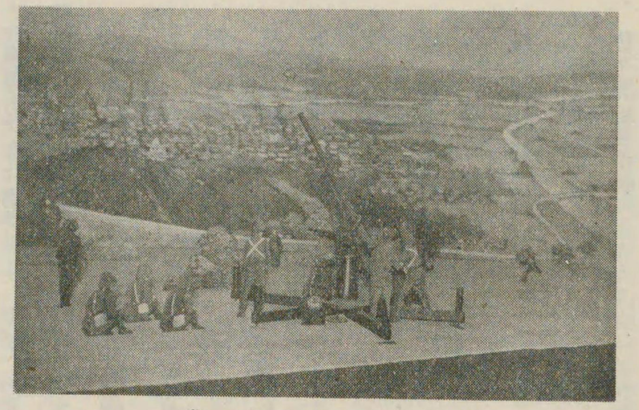


近代陸海戰

◎**陸軍省貸下品**

小型空中聽音機	一個	高射機關銃	一個
毒物標本	八個	外國防毒面	三個
中毒模型	二個	化學兵器參考寫眞	一八枚
油繪	五枚	兵他圖表	若干
パンフレット	若干	落下傘	一個
航空被服	一揃	航空機上口糧標本	五個
同不時着用非常食	一、現品	野戰動力鑿井機	一模型
九四式濾水車	一、模型	九三式沸水車	一同
野戰炊事車兼沸水車	一同	野戰パン燒竈	一同
不凍搬水車	一同	深井戸揚水機	一同
搬水車	一同		

◎**海軍省貸下品**



上野の防備

三十糎聯裝砲塔圖面　一枚
最近軍艦射擊裝置說明書　一枚
鐵兜圖面　二枚
炸裂彈力ノ破片寫眞　一枚
世界無着陸長距離記錄表　一枚
飛行速力世界レコード累進表　一枚
防煙具　一組
航空夏衣袴　一着
航空救命胴衣　一個
下士官兵防寒帽　一個
下士官兵階章　一揃
大將旗　一枚
少將旗　一枚
二十糎通常彈縱斷　一個
八糎同　一個
佐久間艇長遺書　一枚

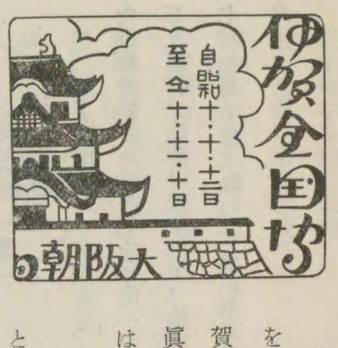
艦砲射撃裝置圖面　一枚
砲身製作順序圖面　五枚
水中爆破時ニ於ケル水柱寫眞　一枚
露艦「アリヨール」艦載水雷艇彈痕寫眞　一枚
航續距離世界レコード表　一枚
飛行高度世界レコード累進表　一枚
航空衣袴　一着
同帽　一個
下士官兵防寒外套　一個
特製毛織靴下　一組
軍艦旗　一枚
中將旗　一枚
海軍信號旗　一枚
十五糎通常彈縱斷　一個
佐久間艇長遺墨元旦試毫　一幅
第六潛水艇殉難岡田一等機關兵曹墓石寫眞一枚

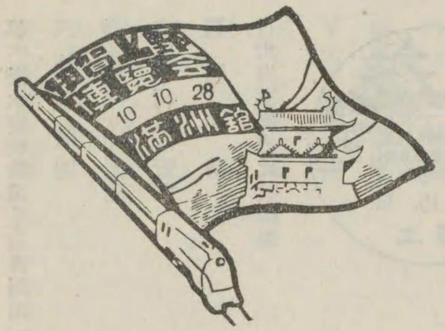
第六潛水艇殉難遺墨封書岡田一等機關兵曹一枚
三笠艦橋圖　一枚
潛水艦ノ水面滑走　一枚
海軍飛行機一覽圖　一枚
戰艦伊勢　一枚
日米海軍勢力比較線圖　一枚

第七〇號潛水艦殉難白銀二等機關兵曹遺書類一枚
日本海々戰　一枚
帝國海上權力年代表　一枚
聯合艦隊ノ威容　一枚
華府會議ガナカツタラ　一枚
列國最新軍艦圖　一枚

◎**上野郵便局出張所**　國防館前に建てられたモダン建築にして連日局員が交代で派遣され一般郵便物の取扱ひ、記念貯金、電信、電話事務、記念スタンプの押捺などを行つた。迎賓館となつてゐる萬歲館を左に古城址の香り豊かな苔蒸す石垣を偲つて東高臺に登ると、朝鮮總督府が巨費を投じて特設した華美艷麗極彩色の

◎**朝鮮館**　があり情緒濃まやかな朝鮮娘に扮した艷麗な娘さんの手招きに應へて館内を一巡する、銑鐵、陶土、褐炭、金晶石、礦石、肥料、皮革、蘭草細工、梳櫛、林産物、食料品、朝鮮風景圖など出陳即賣に應じ、館外では名物の甘栗が飛ぶやうに賣れる、次は旭光旗翩翻として飜る新聞殿堂





◎**大阪朝日館**　である、全世界の視聽を蒐めた伊ェ戰書報、全國名城寫眞と伊賀文化產業城競技寫眞、特輯ニュース寫眞、上野博書報、など妍を競ひその北に は異國情緒豊かに特異の精彩を放つ

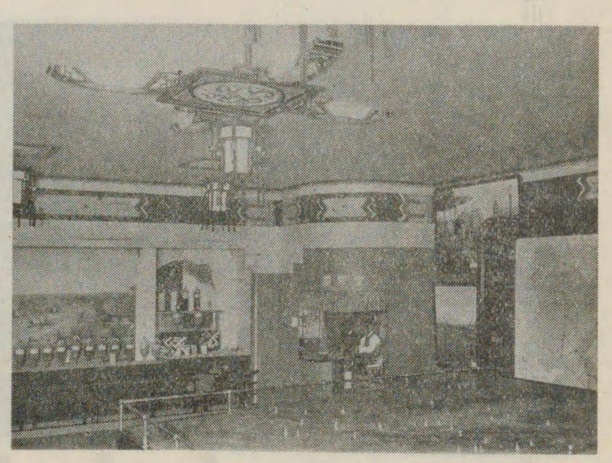
◎**滿洲館**　が人目をひく、樓門を入ると新興の生氣溌溂として館内に溢れ同國の表玄關たる大連埠頭から繰り展げられた全滿、全鮮の全貌が大模型によつて一日瞭然、電氣點滅裝置によつて重要物產、地史、交通通信機關の實態などが巧みに示され、館の周圍には珍奇な特產品がずらりと妍を競ひ、新興友邦の强大な國力、特異な情景が遺憾なく描き出されてゐる、こゝの即賣成績も仲々の好況だ。再び石段を西へ下ると

大　朝　館

◎**大阪毎日館**　があるニュース寫眞、伊賀城競技印書、その他が精彩を放ち、直ぐその西方に聳える廣告塔上のスピーカーから流れ出づる會場案內放送に從つて

◎**臺灣館**　を觀る、同總督府が地元に始政記念大博覽會開催中なるにも不拘、特に巨費を投じて獨特の建物を設け珍奇な臺灣風物、特產品などを多數出陳、滿洲、朝鮮兩館に對應して輪奐の美、內容の裝備を競ひ異國情景を豊かにしてゐるのが嬉しい、お隣りの

◎**觀光館**　は建坪百二十六坪の堂々たる〝觀光日本〟の全貌を誇る一大殿堂である、內部の工作は全部東京齋藤模型製作所の手になつたもので、鐵道省觀光局が日本最初卓拔な妙趣向をこらしたモデオラマ式の全國名勝史蹟地三十七場面の景觀を立體的に出陳したものや美術寫眞によつて居ながら日本一周の觀光が出來る、丹那トンネル工事場の模型によつて近代科學の精粹と規模の素晴しさに一驚を喫し、北島誠一畵伯の麗筆、的矢灣、萬古燒、朝熊山、新松



滿　洲　館

島、濱木綿、海の幸峠、伊賀文化産業城、津偕樂公園、木ノ本獅子岩、朝暾、或る港、波止場などの風景洋畫はよく〝觀光三重〟の全貌を強調してをり、その景勝所在地探しの懸賞答案は山をなすの盛況、大軌、參急電車沿線の風光、また世界觀光案内も素晴しい好評を博し觀客の足を釘づけにした、左に本館の出陳一覽を掲げる。

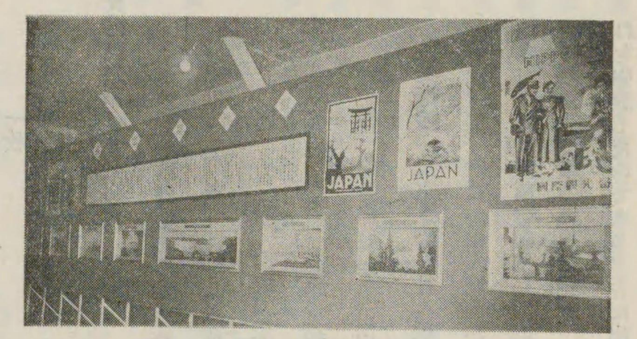
鐵道省運輸局出品ノ分

一、丹那トンネル模型　一個
一、江戸時代ノ交通模型　一個
一、風景デオラマ　十五個
内譯　野尻湖、花巻温泉、東山温泉、富士五湖、昇仙峽、身延山、濱名湖、奥入瀬、上高地(二)、伊香保温泉、佐渡、熱海温泉、塩原温泉、盤梯山
一、丹那デオラマ　一個
一、流線形模型　一個
一、風景寫眞引延寫眞　五十枚

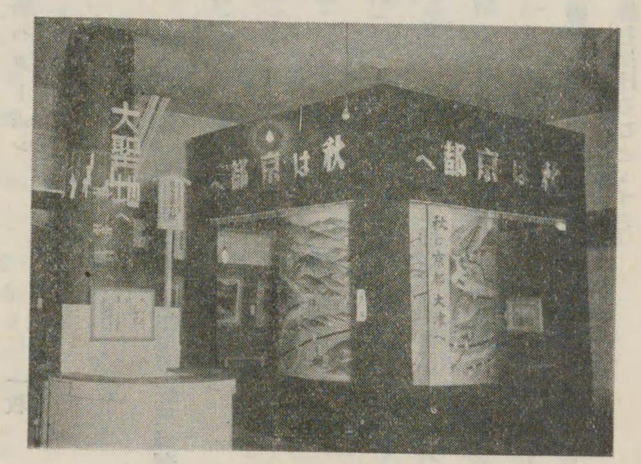
臺灣館

國際觀光局出品ノ分

一、外國風景デオラマ
　小十六個　大二個
一、本邦觀光事業略史　一枚
一、本邦ニ於ケル國際觀光機關ト其ノ事業　一枚
一、日本觀光パノラマ地圖　一枚
一、觀光土産品分布圖　一枚
一、外人向土産品製作十則　一枚
一、外人向土産品寫眞　二十枚
一、觀光觀念普及圖繪　一枚
一、外人接遇いろは覺ヱ　一組
一、本邦主要ホテル寫眞　二十枚
一、觀光外人統計圖繪　一枚
一、外人宿泊用トシテノ日本旅館ノ改造點(附圖五枚)　一組
一、本邦觀光ポスター　十枚



ポスター出陳



大聖地へ

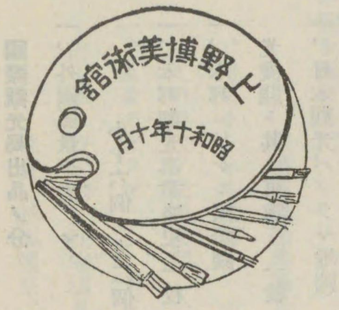
一、歐米觀光ポスター　十枚

日本旅行協會出品ノ分

一、伊賀上野町附近ハイキングコース　一枚
一、日本旅行協會事業一般　一枚
一、旅行小切手　一枚

三重縣觀光協會出品ノ分

一、偕樂公園（津）　一、伊賀文化産業城（上野）　一、高塚公園（紀勢東線三野瀬）
一、津の幸（志摩）　一、濱木綿（志摩和具）　一、萬古燒（四日市）
一、渡鹿野（志摩）　一、獅子岩（南牟婁木ノ本）　一、矢ノ川峠（北牟婁尾鷲）
一、尾鷲ノ港（紀勢東線尾鷲）　一、的矢灣（志摩）
一、朝熊山（宇治山田郊外）　一、朝熊（朝熊山）



◎**美術館**　東京上野の杜の秋を飾る帝展をこゝに移した觀ある本館は四十七坪餘の美術殿堂、伊賀が生んだわが洋畫壇の偉材奥瀬英三畫伯の斡旋盡力と、伊賀蒼丘社の主宰者濱濟萬吉畫伯の援助によつて、本邦洋畫界の大家五十有餘畫伯の力作品がづらり綺羅星の輝きを見せ、特に第一室には本縣關係者の作品を蒐めて鄉土の譽れを強調したのである、左に出品目錄を揭げることゝする。

第一室　（三重縣關係及び緣故者）

一、家舟のある風景　水彩　大阪　青野馬左奈　一〇〇圓
三、伊豆山同　埼玉縣　中田恭一　三〇
五、習作　油畫　東京　服部亮英
七、裸婦同　四日市　黒松秀志
九、C孃同　東京　松浦莫章　非賣
二、花（青い背景）同　東京　鈴木信太郎　三〇
三、早春の海同　東京　石川寅治
五、冬の海同同　橋本八百二

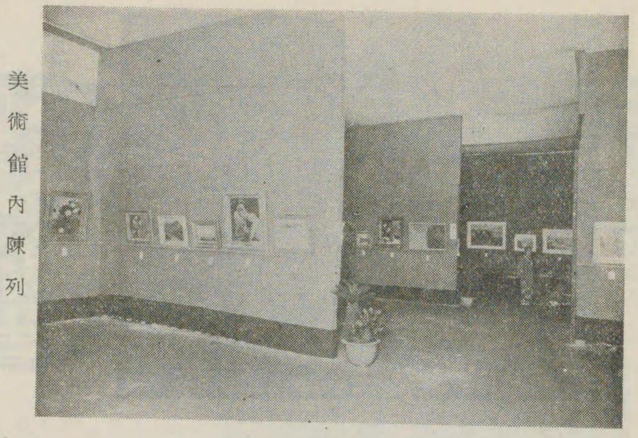
第二室

七、釣　魚油畫　東京　池部釣　二〇〇
九、植物園の一隅同同　鈴木千久馬　三〇
二、牡丹同同　高橋眞夫　二〇〇
三、清水寺の雪同　京都　太田喜二郎
四、果物同　東京　安宅安五郎　三〇〇
五、ユツカの花同　高間惣七　三〇〇
七、雪の輕井澤同同　熊岡美彦　七〇〇
九、內海の春同同　柚木久太
一、造船所水彩　津　山脇楠英
四、牡牛同　津　川名博
六、溪流（赤目）油畫　上野濱邊萬吉　二〇〇圓
八、大樹のある風景同　奈良遠山八二　三〇〇
一〇、早春富嶽同　埼玉奥瀨英三　非賣
三、裸童同　奈良若山爲三
四、牡丹同　東京　權藤種男　二〇〇
六、靜物同同　堀田清治　一五〇
八、牡丹油畫　東京　田邊至　六〇〇
二〇、奔流同同　吉田博　四〇〇
三、清水寺の雪同　京都　太田喜二郎
四、果物同　東京　安宅安五郎　三〇〇
六、窓際同　浦和　寺內萬治郎　一、二〇〇
八、皿のある靜物同　大阪　齋藤與里
三〇、山中湖畔の秋同　東京　辻永

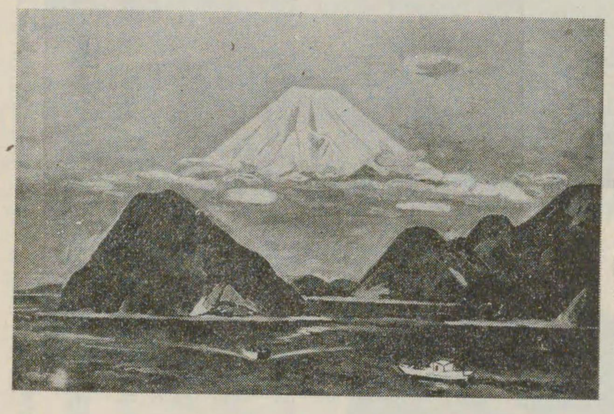
三一、朝　顔同　同　牧野虎雄

第三室

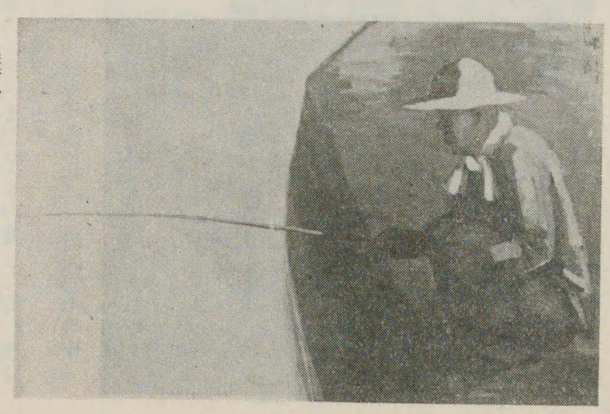
三二、外房海景油畫東京吉村芳松　一五〇
三三、富　士　山同　同　小林萬吾　非賣
三四、チユウリツプ同　同　阿以田治修　三〇〇
三五、薔　薇同　同　白瀧幾之助　三五〇
三六、早　春同　同　小野田元輿　五〇〇
三七、讀　書同　同　北島淺一　五〇〇
三八、果　物同　同　松邨　巽　一〇〇
三九、クラマアルの風景同　埼玉相馬其一　非賣
四〇、博多近海同　東京多々羅義雄　一〇〇
四一、薄曇る日同　京都都島英喜
四二、海　水彩　東京相田直彦　一〇〇
四三、大和川新秋（パステル）同　池田永一治　三〇
四四、春の山同　同　太田三郎　一五〇
四五、冬の奥津同　同　三山知治　三〇〇
四六、鎌倉の雪景同　神奈川　金澤重治　非賣
四七、山庭春輝同　東京富田温一郎　三〇〇
四八、浴　後同　同　桑重儀一　五〇〇
四九、奥多摩氷川風景同　東京關口隆嗣
五〇、風　（パステル）同　鶴田吾郎　四五
五一、芝浦岸壁水彩同　早川國彦　四〇



美術館内陳列



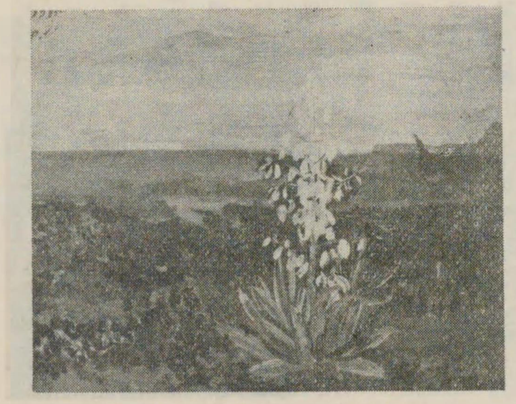
美術館出品
早春富嶽　奥瀬英三氏作



美術館出品
釣魚　池部釣氏作

美術館出品
山中湖畔の秋　辻　永氏作

美術館出品
清水寺の雪　太田喜二郎氏作



美術館出品
ユッカの花　高間惣七氏作

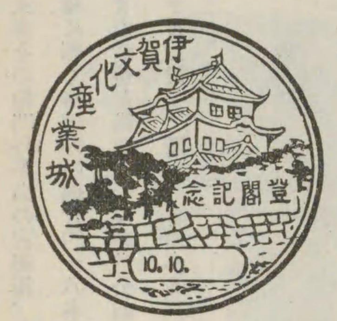
美術館西方廣場にはスマートな

◎**野外演藝場**　が設けられまた大天幕張りの休憩所もある、湯茶の接待をうけながら諸藝大會に打ち興じて心氣を新たにしいよ〳〵代議士川崎克氏が畢生の大事業たる

美術館出品
眞鶴風景　大久保作治郎氏作

美術館出品
黒い扇の女　中村研一氏作

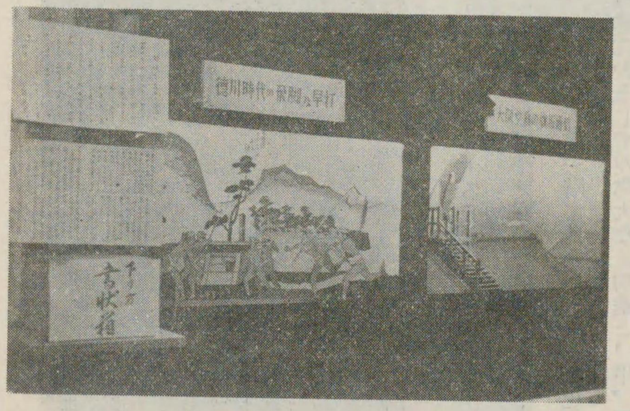
◎**伊賀文化産業城**　に登り慶長の昔を偲ぶことゝする、城内には藤堂公が築造當時使用したものだと傳へる金具が古色燦とし、小天守内には築城當時そのまゝの大井戸が床しくも金明水を湛へてゐる、本館一階には全伊賀産業文化の精粋を悉く網羅し、その一隅には城の建設者としての偉大なる功業と、甲、阿大旱害復舊事業の大功績を讃へるため阿山郡東北五ケ村、滋賀縣甲賀郡南部十ケ町村から贈られた川崎氏の銅像が安置され、二階には俳聖芭蕉翁と劍豪荒木又右衛門の遺芳をはじめ伊賀柘植の名工中江岷山の作品、名陶古伊賀の貴品、古



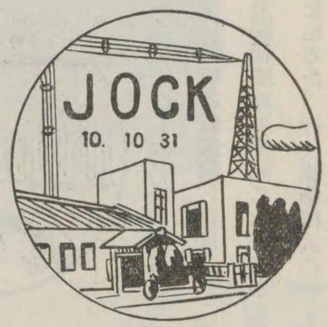
文書その他門外不出の古美術、文献、築城工程寫眞、全關西寫眞聯盟會員の優秀印畫などが多數出陳され、三階展望樓に輝く格天井の現代四十八名家揮毫の書畫、獨特の妙趣を誇る武器欄間はともに本閣隨一の異彩である。お城に盡きぬ名殘を惜しみつゝ藤堂公前の筒井氏が築城當時の大手口だつた北の石段を下ると濠添ひの松林中に科學の殿堂ラヂオ、電氣、遞信の各館が並列してゐる、まづ

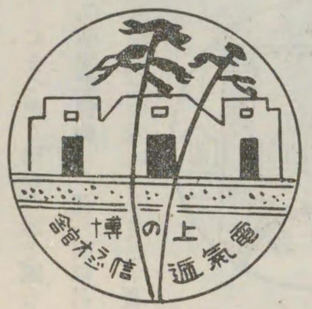
川崎氏銅像

◎遞信文化館 に足を向ける、本館の施設に關しては名古屋遞信局及上野郵便局の絶大な盡力があつた。同館には上野局を中心とした全國主要都市への郵便物到着日時が電氣點滅裝置によつて簡單に指示さ



今昔の變遷





れるもの、燈臺模型、郵便函の變遷と通信事務の沿革を模型で表したもの、自動押印機の實演、自動幻燈映寫、平均年齡測定器、電氣一キロワツト十錢の場合の一錢の働きを圖解で示したもの、電氣點滅裝置によるラヂオ體操、連光鏡、電話機並に交換タイプライター實演、その他アセチリン瓦斯明暗燈臺、同紅白燈臺、チヤンス式白熱燈臺、ライトロングサイン、貯金元利表示機など興味深い出陳が人氣を博し、お隣りの

◎ラヂオ館 には百年後のラヂオ界を豫想した大模型が電氣照明によつて美しく描出され殺人光線、大氣淨化、テレビヂョン、防空燈火の各放送狀況が五分間ごとにレコード說明入りで實演され、科學時代の超光端をゆくラヂオ界が今後どこまで神秘の扉を拓いて行くか興味は津々として盡きない、マグネツト電車、地下鐵、飛行船、簡易發着施設なども驚異の的である。

◎電氣館 は合同電氣會社と大阪市電氣局との合作出陳になり、入口には洋裝美人のロボツトが手招き鮮やかに觀客を迎へ、電化された家庭の明朗さ便利さを如實にした模型、水力發電所大模型、手を切ると池中の鯉が鮮やかに現れてくる眞空管と繼電機の組合せによる音波操縱實驗、感光繼電機を應用して扉を自然に開閉せしめる光波操縱、電感窓に眼に見えない赤外線を放射させてあるのを遮斷すると電流の變化によつて金庫の警備電鈴が鳴る實驗、トーキーの原理、電送寫

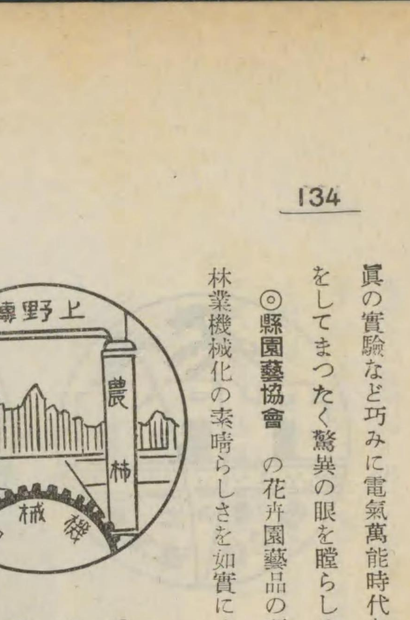
眞の實驗など巧みに電氣萬能時代を謳歌し觀るものをしてまつたく驚異の眼を瞠らしめた。

◎縣園藝協會　の花卉園藝品の即賣場前を北へ農林業機械化の素晴らしさを如實にする。

◎農林機械館　（百二十七坪）には日本中央蠶糸會、帝國蠶糸株式會社東京販賣店、三重縣蠶業試驗場、同繭檢定所、京都高等蠶糸學校などの蠶業關係出品、東京、大阪、名古屋各市、兵庫、滋賀、京都、佐賀、熊本、三重各府縣よりの優秀代表改良農具機械二百數十點、大阪營林局の林業經營參考出品物など人目をひき

◎發明品實演館　には化學工藝發明品、實用新案臺所用品、新考案玩具などが出品されその實演が好評を博した。

公園循環路の樹間には三河石の燈籠、手水鉢、魯德大人像などの美術石造品、布置の妙を得た築庭模型が好事家の足を止めた。近代建築樣式の粹を蒐めた構成美に輝く白堊の大殿堂



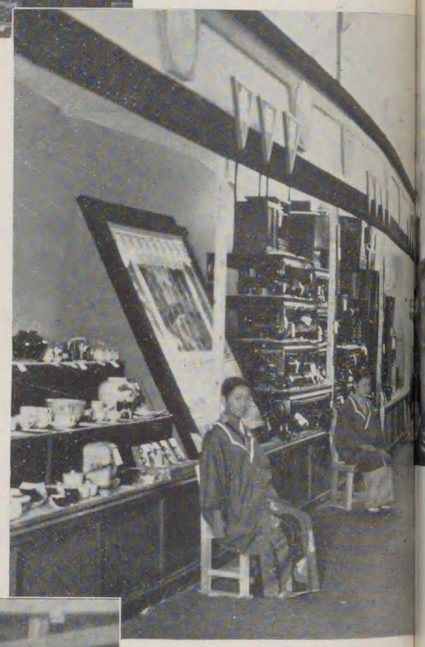
人造人間

大阪府

和歌山縣

京都府

市府甲



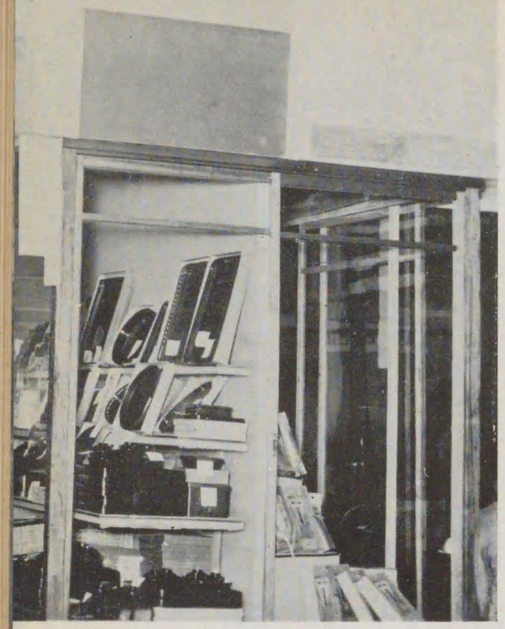
神戸市

富山市

熊本市

岡山縣

鹿兒島縣



縣良奈

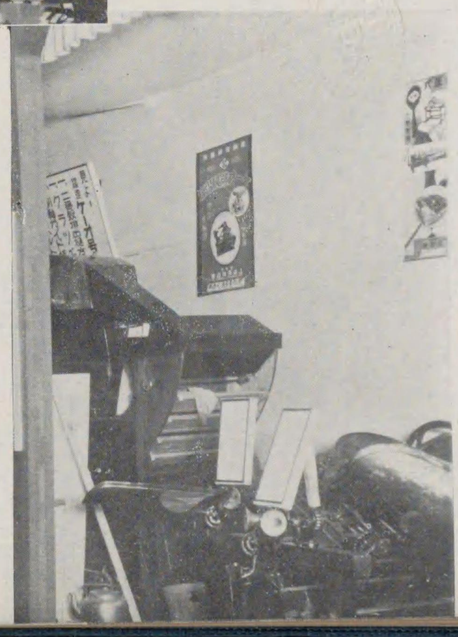
縣阜岐

縣賀滋

縣川香

市澤金

縣口山



三重縣館（一）

三重縣館（二）

愛知縣

廣島縣

三重縣酒造組合聯合會造物